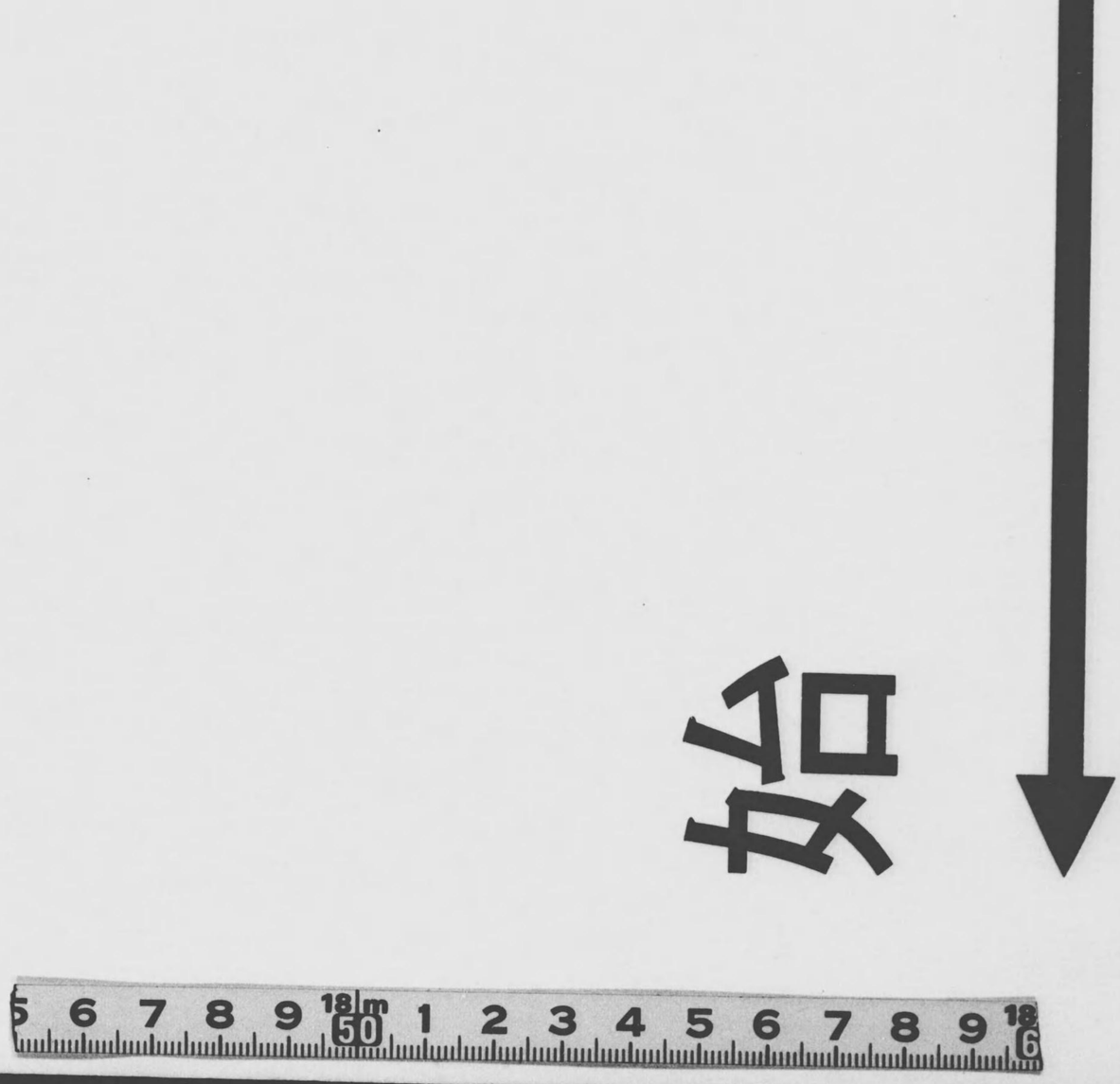
賀

353
28.

357-28

回譯密教

經軌

大正
9.8.13
內交

國譯密教經軌第二

目次

一、國譯金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大教王經……權田雷斧國譯……一
一、國譯金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經……權田雷斧國譯……八五
一、國譯金剛頂瑜伽略述三十七尊心要……岡田契昌國譯……一五三
一、國譯金剛頂經瑜伽修習毘盧遮那三摩地法……岡田契昌國譯……一八三
一、國譯略述金剛頂瑜伽分別聖位修證法門……權田雷斧國譯……二〇七
一、國譯諸佛境界攝眞實經……市橋本賢國譯……二二五
一、國譯大毗盧遮那要略念誦經……阿部宥精國譯……二九五
一、國譯蘇悉地羯羅經……網代智海國譯……三四五
一、國譯佛說毗奈那經……塚本賢曉國譯……四九五

一、國譯佛說陀羅尼集經第一、第二、……塚本賢曉國譯……五一五　二

國譯密教經軌第二目次終

乾六、縮閏二、藏十六、套四、(一)題號　金剛頂の一切如來の眞實を攝めたる大乘現證大教王たる經と訓すべし、金剛頂は部の名、一切如來乃至現證は大日如來所入の三昧耶、之れを說く經に、周遍して一切教中の王なる故に大教王と云ふ。

(二)品號　金剛界の大曼荼羅を修生するに就き廣大なる儀式作法を說く品の意なり。

(三)曼荼羅　輪圓具足の義。

(四)如是我聞以下通序。

(五)婆伽梵　正く世尊と譯す。

(六)毗盧遮那　除暗遍明の義、日の別名なり。

(七)阿迦尼吒天　賢礙究竟と譯す即ち色究竟天なり。

(八)曼殊室利　妙吉祥と譯す。

國譯(一)金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大教王經卷上

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空　詔を奉じて譯す

(二)金剛界大(三)曼荼羅廣大儀軌品之一

(四)是の如く我れ聞きき、一時(五)婆伽梵、一切如來の金剛を以て加持し給ふ、殊勝の三昧耶智を成就し、一切如來の寶冠の三界法王の灌頂を得、一切如來の一切智智の瑜伽自在を證り、能く一切如來の一切印平等の種種の事業を作して、盡くること無き一切衆生界に於て餘すこと無く、一切の意願の作業皆悉く成就し給へる、大悲(六)毗盧遮那、常に恒に三世に住し給へる一切の身と口と心との金剛の如來、一切如來の遊び戲れ給ふ處の、(七)阿迦尼吒天王宮の中の大摩尼殿の種種に間錯して鈴と鐸と繒旛と微風に搖かし激たれ珠の鬘と瓔珞と、半滿月等を以て、而も莊嚴を爲せるに住して、九十俱胝の菩薩衆と俱なりき。謂は所る金剛手菩薩摩訶薩●聖觀自在菩薩摩訶薩●(八)曼殊室利

(一) 恒河の沙以下別序中央大日と四時に婆伽梵以下四波羅蜜を親近の説く。

(二) 一切如來大菩提堅固の下は十六大菩薩を明す。摩尼、寶と蘇悉地とを明す。藥叉、盡と普賢とに至て羯磨會の十六大士を明し、金剛と鉤とより怖畏と持會の十六大士を明す。耶と三昧耶とに至て無始より藥叉に至て生瀰陀不空成就阿閦大日の五佛を明し、羅刹の四曼より世主に至て四波羅蜜を明し、種種に至て吡紐天に供養を明し、至て八羯磨より流轉に至て善人より涅槃に至て四攝を明し、心に至て四紐より佛尊を明して堅劫の十六尊を明し、諸菩提より諸佛頂作業に至て諸佛を明し、一切の佛を身と爲す。一切の身と語と意と執金剛の一句を明す。諸の薩埵常益覺の一句は聲聞緣覺を明す。大根本より大勝に至て不動と三世と軍荼利と大威德と他の諸明王と諸勝と自在の一句は諸の世天を合して云ふなり。

童眞菩薩摩訶薩●虛空藏菩薩摩訶薩●金剛拳菩薩摩訶薩●總發心轉法輪菩薩摩訶薩●虛空庫菩薩摩訶薩●摧一切魔菩薩摩訶薩●是の如く等の菩薩摩訶薩を而も上首として、(一)恒河の沙と等しき、如來と與なり、猶し胡摩の如く示現して閻浮提に於て滿てり、阿迦尼吒天に於ても亦た復是の如し。彼の無量數の如來の身の、一一の身從り無量阿僧祇の佛の刹を現じ、彼の佛の刹に於て、還て此の法の理趣を說き給ふ。時に婆伽梵大毗盧遮那如來、常に一切虛空の一切如來の身と口と心との金剛に住して、一切如來互に相涉入す。一切金剛界の覺悟智薩埵の、一切虛空界の微塵の金剛の加持より生ずる所の智藏と、一切如來無邊の故に大金剛智の灌頂寶の一切虛空に舒徧せる眞如智の、現に三菩提を證ることを爲すと、一切如來の自身の性淸淨の故に、自性淸淨の一切の法、一切虛空に徧くして、能く一切の色の智を現じて、盡く餘すこと無く有情界を調伏し給ふ行最勝なると、一切如來の空しからず敎令を作し給ふ故に、一切に平等なる無上の巧智と。(二)一切如來の大菩提堅固の薩埵と、一切如來の鉤召三昧耶と、一切如來の隨染智自在と、一切如來の灌頂寶と、一切如來の日輪の圓光と、一切如來の思惟王の摩尼寶幢と、一切如來の大笑と、一切如來の大淸淨の法と、一切如來の般若智と、一切如來の輪と、一切如來の秘密語と、一切如來の空しからざる種種の事業と、一切如來の大精進の妙なる堅固の甲冑と、一切如來の徧く守護する金剛藥叉と、一切如來の身と口と心との金剛印の智となり。

普賢と妙不空と　摩羅と極喜王と　虛藏と大妙光と　寶幢と大微笑と。

能觀大自在と　曼殊と一切壇と　無言と種種業と　精進と怒と堅持と。

金剛と鉤と箭と喜と　寶と日と幢旛と　笑と蓮と劒と妙輪と語と　羯磨と甲と怖と持と。

無始無終と寂と　暴怒と大安忍と　藥叉と羅刹曼と　威猛と大富貴と。

鄔摩天との世主と　吡紐と勝大寂と　世護と虛空と地と　三世と及び三界と。

大種と善人と益と　諸の設嚩祖父と　流轉と涅槃と常と　正流轉と大火と。

覺淸淨大乘と　三有と常恒者と　降三世と食樂と　主宰と諸能調と。

堅主と妙地と勝と　智彼岸と理趣と　解脫と覺有情と　行一切如來と。

覺利益佛心と　諸の菩提無上の　徧く照す最勝王と　自然と總持念と。

大薩埵大印と　等持と佛作業と　一切の佛を身と爲すと　薩埵常益覺と。

(一)婆伽梵以下正宗分なり、秘密の現に證する相を明す、即五相成身觀等なり。
(二)一切義成就釋迦佛の因位なり
(三)受用身實類の機に對するを以て加持身なり。
(四)阿娑頗那伽性無識身と飜す。即空の觀なり。
(五)如來異口同音の下五相成身の觀門を明す、中に於て第一通達菩提心なり。

大根本の大黒と　大染欲と大樂と　大方便と大勝と　諸の勝宮自在となり。

(一)婆伽梵大菩提心普賢大菩薩、一切如來の心に住し給へり。時に一切如來此の佛世界に滿ち給ふこと、猶し胡麻の如し。爾の時に一切如來雲の如くに集まり、(二)一切義成就菩薩摩訶薩の菩提道場に坐せるに於て、往き詣て(三)受用身を示現して、咸く是の言を作し給ふ。善男子云何が無上菩提を證する、一切如來の眞實を知らずして諸の苦行を忍ばむや。時に一切義成就菩薩摩訶薩、一切如來の驚覺に由て即ち(四)阿娑頗那伽三摩地從り起て、一切如來を禮して白して言く、世尊如來我れに敎示し給へ。云何んが修行せむ云何んが眞實なる。是の如く說き已て、(五)一切如來異口同音に彼の菩薩に告げて言はく、善男子當さに自心を觀察する。三摩地に住して、自性成就の眞言を以て自ら恣に而も誦すべし。

唵引一質多鉢囉二合底丁以切微騰迦嚕弭。

時に菩薩、一切如來に白して言く、世尊如來、我れ徧く知り已ぬ。我れ自心を見るに形月輪の如し。一切如來咸く告て言く、善男子、心の自性の光明は、猶し徧く功用を修して作すに隨て獲る如く、亦素き衣の色を染むるに、染むるに隨て隨て成るが如

(一)時に一切如來の下第二修菩提心なり、通達心は本有修菩提心以後は修生の心。
(二)一切如來告げての下第三成金剛心なり。
(三)金剛の形　五股杵なり。
(四)菩薩白しての下第四證金剛身なり。

し。(一)時に一切如來自性の光明の心智をして、豊かに盛むなら令めむが爲の故に、復彼の菩薩に勅して言はく。

唵引一菩提質多二合歇怛波二合娜夜弭三

此の性成就の眞言を以て、菩提心を發さ令む。時に彼の菩薩、復一切如來に從て旨を承けて、菩提心を發し已て、是の言を作す。彼の月輪の形の如く、我れも亦月輪の形の如く見ると。(二)一切如來告げて言はく、汝已に一切如來の普賢の心を發して、金剛の堅固なるに齊等きことを獲得たり、善く此の一切如來の普賢の發心に住して、自心の月輪に於て、(三)金剛の形を思惟せよ、此の眞言を以てすべし。

唵引一底瑟姹二合嚩日囉二合

(四)菩薩白して言く、世尊如來、我れ月輪の中の金剛を見ると。一切如來咸く告げて言はく、一切如來の普賢の心の金剛を堅固なら令むるに、此の眞言を以てすべし。

唵引一嚩日囉二合怛麼俱引哈二

有ら所る一切の虛空界に徧く滿ち給へる、一切如來の身と口と心との金剛界は、一切如來の加持を以て悉く薩埵の金剛に於て入る、則ち一切如來一切義成就菩薩摩訶薩に

(一) 一切如來復告げての下第五佛身圓滿なり。

(二) 是の言を作し已の下諸佛加持を明す、行者成佛する故に已成の十方の諸佛と、入我我入し不二一體と成ることを示す、即佛身圓滿に屬す。

(三) 三昧耶　等持と譯す即定なり。

(四) 毘首羯磨　善巧事業と譯す。

(五) 須彌盧　妙高と譯す。

於て、金剛の名を以て金剛界と號して、金剛界の灌頂し給ふ時に、金剛界の菩薩摩訶薩、彼の一切如來に白して言く、世尊如來我れ一切如來は自身と爲ると見ると。(一)一切如來復た告げて言はく、是の故に摩訶薩、一切の薩埵金剛は一切の形を具することを成就して、自身の佛形と觀じて、此の自性成就の眞言を以て意に隨て而も誦すべし。

(二)是の言を作し已て金剛界の菩薩摩訶薩、自身の如來を現證し、盡く一切如來を禮し已て白して言く、惟し願くは世尊、諸の如來、我に於て加持して、此の現證の菩提を堅固なら令め給へと。是の語を作し已て、一切如來、金剛界の如來の彼の薩埵金剛の中に入り給ふ。時に世尊金剛界の如來、彼の刹那の頃に當て、等覺一切如來平等智を現證し、一切如來平等智(三)三昧耶に入り、一切如來法平等智自性平等を證し、則ち一切如來平等自性光明智藏、如來應供正徧智を成じたり。時に一切如來、復一切如來薩埵金剛從り出で給ふ。虛空藏大摩尼寶を以て灌頂し、觀自在法智を發生し、一切如來の(四)毗首羯磨を安立し給ふ、此れに由て(五)須彌盧頂の金剛摩尼寶樓閣に往き詣で、至り已て金剛界の如來、一切如來の加持を以て、一切如來の師子座に於て、一切の面に

(一) 釋迦牟尼　能仁寂默と譯す。

(二) 爾時に世尊の下十六大菩薩の三昧耶を明す、中に於て第一に金剛薩埵なり。

(三) 摩訶菩提薩埵　大覺有情と譯す

(四) 三摩地　等至と譯す即禪定なり

(五) 嚩曰羅　金剛と譯し、薩怛嚩、有情と譯す。

(六) 纔に一切如來の下秘密神變の十二の相を明す、即依因と顯本力と應實と還源と顯相と顯智と示相と明德と顯實と普現と。此の惑應となり。

十二神變の相は、金剛王以下の諸尊に於て委くべき なれども、准知すべき故に略して說かず、學者思知せよ。

(七) 智金剛　金剛と云ふ

(八) 五股杵　五峰の光明にして、即五智五股より放つ光明の色の光明なり。

安立し給ふ。時に不動如來と、寶生如來と、觀自在王如來と、不空成就如來との一切如來、一切如來の自身を加持し給ふ。婆伽梵(一)釋迦牟尼如來、一切平等に善く通達し給ふが故に、一切の方を平等に觀察して、四方に而も住し給ふ。(二)爾の時に世尊毗盧遮那如來、久しからずして、等覺一切如來の普賢の心を現證し、一切如來の虛空發生大摩尼寶灌頂を獲得し、一切如來の觀自在法智彼岸と、一切如來の毗首羯磨不空無礙敎と圓滿なる事業と、圓滿なる意樂とを得給へり。一切如來の性を自身に於て加持して、即ち一切如來の普賢(三)摩訶菩提薩埵の三昧耶に入り、薩埵加持の金剛(四)三摩地を出生し給ふ、一切如來の大乘現證の三昧耶なり、一切如來の心と名く、自心從り(五)嚩日囉二合薩怛嚩二合下同一句を出し給ふ。(六)纔に一切如來の心を出して、即ち彼の婆伽梵普賢、衆多の月輪と爲て普く一切有情の大菩提心を淨め給ふ。諸佛の所に於て周圍して而も住し給ふ。彼の衆多の月輪從り一切如來の(七)智金剛を出して、即ち婆伽梵毗盧遮那如來の心に入り給ふ。普賢の堅牢に由るが故に、金剛薩埵の三摩地從り、一切如來の加持に由て合して一體と爲る。量は虛空を盡くして徧滿して(八)五峰の光明と成る。一切如來の身と口と

(一) 種種の色相　白青黄赤黒の五色なり。

(二) 承事　金剛薩埵は大日の教勅を承けて自證化他の事を行する尊なる故に承ると云ふ。

(三) 嗢陀南　總攝と譯し亦は自說とも飜す。

(四) 無身　此身法界に徧して無相の故に。

(五) 一切如來の前　一切如來は東方阿閦佛なり前は西

心より金剛の形を出生す、一切如來の心從り出でて佛の掌の中に住す。復た金剛從り金剛形の(一)種種の色相を出だして、舒べ徧くして一切の世界を照曜す。彼の金剛の光明の門從り一切の世界の微塵に等しき如來の身を出だして、法界に徧周し、一切の虛空を究竟して一切の世界の雲海に徧し、徧く一切如來の平等智の神境通を證す。一切如來の大菩提心を發して普賢の種種の行を成辨し一切如來に(二)承事し、大菩提道場に往き詣でて諸の魔軍を摧き、一切如來の平等大菩提を證成し、正法輪を轉じ乃至一切を拔濟し、無餘の有情界を盡して利益し安樂し、一切如來の智最勝の神境通の悉地等を成就し給ふ。一切如來の神通遊戲の普賢を示現するが故に、金剛薩埵の三摩地妙堅牢の故に、聚て一禮と爲り、普賢摩訶菩提薩埵の身を生じ、世尊毗盧遮那佛の心に住して、而も(三)嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉我れ普賢　堅薩埵は自然なり　堅固の(四)無身從り　薩埵の身を獲得す。

時に普賢大菩提薩埵の身、世尊の心從り下て、(五)一切如來の前にして月輪に依て而も住して復た敎令を請ふ。時に婆伽梵一切如來の智三昧耶に入り給ふを金剛三摩地と名く。一切如來の戒と定と慧と解脫と解脫知見とを受用し、法輪を轉し、有情を利益し大

(一) 左は慢　左手金剛拳に作りて左の腰に置くなり。

(二) 右は舞　右の手に五股杵を持て投げ弄むで輪轉すると云ふ。

(三) 跋折羅　嚩曰囉と同じ即金剛なり。

(四) 增進の勢　即抽擲なり。

(五) 金剛を以て　金剛に加す修生の金剛を以て本有の金剛を加持すると云ふ。

(六) 爾時に　の下第二に金剛を明す。

(七) 邏惹　王と譯す。

方便力と精進と大智と三昧耶とを以て、盡くること無き有情界を拔濟して餘すこと無し。一切の主宰となりて安樂悅意せしむるが故に乃至一切如來の平等智と神境通と無上大乘現證の最勝悉地の果とを得給ふ故に、一切如來の成就する金剛を以て彼の普賢摩訶菩提薩埵に授け與へて、一切如來の轉輪王灌頂をなし給ふ。一切佛身の寶冠繒綵を以て灌頂し已て、雙手に授け與へ給ふ。則ち一切如來金剛の名を以て金剛手と號して、金剛手灌頂し給ふ。時に金剛手菩薩摩訶薩、(一)左は慢にして(二)右は舞にして(三)跋折羅を弄むで、則ち彼の金剛を自心に安きて、(四)增進の勢を持して此の嗢陀南を說き給ふ。

此は是れ一切の佛の　金剛の無上を成せり　我が手掌に授け與へて　(五)金剛を以て

金剛に加す。

(六) 爾の時に世尊復た不空王大菩薩の三昧耶に入り給ふ。生ずる所の薩埵の加持を金剛三摩地と名け、一切如來の鉤召三昧耶と名く、一切如來の心なり。自心從り

嚩日囉二(七)合邏引惹一句

を出し給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、則ち彼の婆伽梵金剛手一切如來の大鉤と爲て、出で已て世尊毗盧遮那の心に入り、聚つて一體と爲て、金剛大鉤の形を生

じて、佛の掌の中に住す。金剛大鉤の形より一切世界の微塵に等しき如來の身を出現して、一切如來を召請し、一切佛の神通遊戯を作す、妙なる空しからざる王なる故に、金剛薩埵の三摩地極めて堅牢なる故に、聚て一體と爲て不空王大菩薩の身を生じ、毗盧遮那佛の心に住して此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉不空王　金剛より生ずる所の鉤　一切の佛に徧きに由て　鉤召を成就することを爲す。

時に(一)不空王大菩薩の身佛心從り下て、一切如來の(二)右の月輪に依て而も住して、復敎令を請ふ。時に婆伽梵一切如來鉤召三昧耶に入り給ふ、金剛三摩地と名く。一切如來の鉤召三昧耶を受けて、有情界を盡して餘すこと無く、一切を鉤召し、一切を安樂にし悅意せしむるが故に。乃至一切如來集會して加持し給ふ最勝(三)悉地の故に、則ち彼の金剛鉤を以て不空王大菩薩の雙手に授け與へて、一切如來金剛名を以て金剛鉤召と號して、金剛鉤召灌頂し給ふ時に、金剛鉤召菩薩摩訶薩、金剛鉤を以て一切如來を鉤召して此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　無上金剛の智なり　諸の佛の利益を成ずる　最上にして能く鉤召す。

(一)爾の時に婆伽梵、復(二)摩羅大菩薩の三昧耶に入り給ふ。薩埵加持を出だし生ずるを金剛三摩地と名け、一切如來の(三)隨染の三昧耶を一切如來の心と名く。自心從り嗢日囉二合(四)遲哉一句を出し給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵持金剛一切如來の(五)華器仗と爲て、出で已て世尊毗盧遮那佛の心に入て、聚て一體と爲て、大金剛箭の形を生じて、佛の掌の中に住す。彼の金剛箭の形從り、一切世界の微塵に等しき如來の身を出だし、一切如來の隨染等を作し、一切の佛の神通遊戯を作して極めて殺すが故に、金剛薩埵の三摩地極めて堅牢なるが故に、聚て一體と爲て摩羅大菩薩の身を生じ、世尊毗盧遮那佛の心に住して此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉自性淨　染欲に隨て(六)自然なる　欲を離れて(七)清淨なるが故に　染を以て能く(八)調伏す。

時に彼の摩羅大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(九)左の月輪に而も住して、復た敎令を請ふ時に世尊一切如來の隨染加持に入り給ふを金剛三摩地と名く。一切如

(一)不空王　一切を鉤召して空しきことなき故なり。
(二)右の月輪　北の月輪なり。
(三)悉地　成就と譯す。

(一)爾の時にの下第三に金剛愛を明す。
(二)摩羅　殺と譯す、能殺者なり、二乘の心を殺す。
(三)隨染　衆生の欲に隨ふを云ふ。
(四)遲哉　愛と譯す。
(五)華器仗　弓箭の端に華を附けたるものなり。
(六)自然　本有の欲。
(七)清淨　修生の欲。
(八)調伏　本有性淨の染欲を以て妄想修起の染欲を伏するを云ふ。
(九)左の月輪　東方阿閦佛の南なり。

來の能殺三昧耶を受け、有情界を盡して餘すこと無く、隨染して一切を隨染して一切を安樂にし悅意せしむるが故に、乃至一切如來の摩羅業の最勝の悉地の果を得るが故に、則ち彼の金剛箭を摩羅大菩薩の雙手に授け與へて、則ち一切如來金剛名を以て金剛弓と號し金剛弓灌頂し給ふ時に、金剛弓菩薩摩訶薩金剛箭を以て一切如來を殺して此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　(一)染智にして瑕穢(ヤケガ)れ無し　染を以て(二)猒離を害して　能く諸の安樂を施す。

(三)爾時に婆伽梵復極喜王大菩薩の三昧耶に入り給ふ。生ずる所の薩埵加持を金剛三摩地と名く、一切如來の極喜三昧耶なり、一切如來の心と名く。自心從り囉日囉二合(四)婆度一句を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、則ち彼の婆伽梵金剛一切如來の善哉の相と爲て、世尊毗盧遮那佛の心に入り、聚て一體と爲て(五)大歡喜(クワンギ)の形を生じ、佛の掌中に住し給ふ。彼の歡喜の形從り一切世界の微塵に等しき如來の身を出だして、一切如來の善哉(ゼンサイ)の相を作し、一切の佛の神通遊戲を作し極喜の故に、金剛薩埵三摩地

(一)染智　即大貪染の故に瑕穢れなし。
(二)猒離　二乘の猒離し衆大菩提を猒離するの小生界猒離心なり。
(三)爾時　此の下第四に金剛喜を明す
(四)婆度　此れに喜と譯す。
(五)大歡喜の形　左右の手金剛拳に作て相並べて風指彈指の形を爲すなり。

極堅牢の故に、聚て一體と爲て歡喜王大菩薩の身を生じて、世尊毗盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉我れ善哉の　一切の勝智なり　分別を離るる所の者は　能く究竟(クウ)の喜を生ず。

時に歡喜王大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(一)後の月輪に依て而も住して、復た敎令を請ふ時に、世尊一切如來の等喜加持に入り給ふ、金剛三摩地と名く。已に一切如來の極喜智(ゴクキチ)の金剛三昧耶を受け有情界を盡くして餘すことなく、一切の等喜一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の無上喜味の最勝の悉地の果を得るが故に。則ち彼の金剛喜を彼の歡喜王大菩薩摩訶薩の雙手に授け、則ち一切如來金剛名を以て金剛喜と號し金剛喜灌頂し給ふ時、金剛喜菩薩摩訶薩金剛喜善哉の相を以て、一切如來を歡び悅ばしめて、此の嗢陀南(ウダナ)を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　能く轉ずる善哉の相なり　諸の喜を作す金剛なり　妙喜を增長せしむ。

(二)大菩提心と、一切如來の鉤召三昧耶と、一切如來の隨染智と、大歡喜と、是の如きは一切如來の大三昧耶薩埵なり。(三)爾時に婆伽梵復虛空藏(コクゾウ)大菩薩の三昧耶に入り給ふ。

(一)後の月輪　阿閦佛の東を云ふ。

(二)以上の薩王愛喜の四菩薩は、東方阿閦佛の四親近なり、大菩提心等の四を次の如く薩王愛喜の四菩薩に配すべし。
(三)爾時に　下第五に金剛寶を明す

生ずる所の寶加持を金剛三摩地と名く、一切如來の灌頂三昧耶なり、一切如來の心と名く。自心從り

嚩日囉二合(一)囉怛曇二合一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、一切虛空平等性智善く通達する故に金剛薩埵の三摩地極て堅牢の故に、聚て一體と爲る。則ち彼の婆伽梵持金剛、一切の虛空光明と爲て出だし已て、一切虛空の光明を以て一切の有情界を照曜して、一切の虛空界を成す。一切如來の加持を以て、一切虛空界世尊毗盧遮那の心に入り給ふ。善く修習の故に金剛薩埵の三摩地は、一切虛空界、胎藏の成ずる所なり。一切世界に徧く滿つること等量にして(二)大金剛寶の形を出生し佛の掌の中に住す。彼の金剛寶の形從り一切世界の微塵に等しき如來の身を出だし給ふ。出生し已て一切如來の灌頂等を作し、一切世界に於て一切如來の神通遊戯を作し給ふ。虛空界の胎藏より妙へに出生する故に、金剛薩埵の三摩地極て堅牢の故に、聚て一體と爲て虛空藏大菩薩の身を生じて、世尊毗盧遮那佛の心に住して此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉妙へなる灌頂　無上の金剛寶なり　佛は著する所無きに由て　名けて三界の

(一) 囉怛曇　此れに寶と譯す。

(二) 大金剛寶の形　光焰を放てる三辨寶珠なり。

主と爲す。

時に彼の虛空藏大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(一)前の月輪に依て而も住す、復た敎令を請ふて一切如來の圓滿なる意樂の三昧耶を受け、有情界を盡して餘すこと無く一切の義利を獲、一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の利益最勝榮盛の悉地を得るが故に。彼の金剛(二)摩尼を受けて彼の虛空藏大菩薩摩訶薩に金剛寶轉輪王を與へて、金剛寶等の灌頂を授け與へて雙手に於て安き給ふ。則ち一切如來金剛名を以て金剛藏と號す、灌頂し給ふ時に、金剛藏菩薩摩訶薩金剛摩尼を以て(三)自らの灌頂の處に安きて、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　有情界を灌頂し給ふ　我が手の掌に授け與へて　寶を寶中に於て安き給ふ。

(四)爾の時に婆伽梵復た大威光大菩薩の三昧耶に入り給ふ、寶加持を出生するを金剛三摩地と名く、一切如來の光三昧耶なり。一切如來の心と名く。自心從り

嚩日囉二合帝惹一句

を出し給ふ。一切如來の心從り纔に出で已て、即ち彼の婆伽梵金剛手衆多の大日輪と

(一) 前の月輪　南方寶生佛の北方なり。

(二) 摩尼を受けて　受の字は師傳に依てサヅケと讀む。

(三) 自らの灌頂の處　即頂上なり。

(四) 爾時に　下第六に金剛光を明す

(一)大金剛日の形　日輪の形なり。

(二)右の月輪　寶生佛の東なり。

爲て、出で已て世尊毗盧遮那佛の心に入り、聚て一體と爲て(一)大金剛日の形を生じて佛の掌の中に住す、彼の金剛の日輪從り一切世界の微塵に等しき如來の身を出して、一切如來の光明等を放て、一切の佛の神通遊戯を作し給ふ。極大威光の故に、金剛薩埵の三摩地極て堅牢なる故に。聚て一體と爲て大威光菩薩摩訶薩の身を生じて、世尊毗盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉比べ無き光　有情界を照曜す　能く清淨なる者を淨む　諸佛救世者なり。

時に彼の無垢大威光菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(二)右の月輪に依て而も住して、復敎令を請ふ。時に世尊一切如來の圓光加持に入り給ふ、金剛三摩地と名く。一切如來の光三昧耶を受け、有情界を盡して餘すこと無く、比べ無き光を以て一切を安樂悅意せしむるが故に、乃至一切如來の自らの光明最勝の悉地を得るが故に、金剛日を大威光菩薩摩訶薩の雙手に授け與へて、則ち一切如來金剛名を以て金剛光と號して、金剛光灌頂し給ふ時に、金剛光菩薩摩訶薩、彼の金剛日を以て一切如來を照曜して、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　能く無智の暗を壞るものなり　設ひ微塵數の日なりとも

(一)爾時に　下第七に金剛幢を明す

(二)計都　此れに幢と譯す。

(三)金剛幢の形　即如意寶幢なり。

(四)左の月輪　寶生佛の西なり。

此の光は彼れよりも超えたり。

(一)爾の時に婆伽梵、復た寶幢大菩薩の三昧耶に入り給ふ。寶加持を出生し給ふ金剛三摩地と名く。一切如來の意の願を滿たしむる三昧耶なり、一切如來の心と名く。自心從り

囉日囉二合(二)計都一句

を出し給ふ。一切如來の心從り總に出で已て、即ち彼の婆伽梵持金剛、種種の色の幢旛莊嚴の形と爲り給ふ、出で已て世尊毗盧遮那佛の心に入り、聚て一體と爲て(三)金剛幢の形を生じて佛の掌の中に住す、彼の金剛幢の形從り一切世界の微塵に等き如來の身を出だし、一切如來の寶幢等を建て、一切の佛の神通遊戯を作し給ふ。大寶幢の故に金剛薩埵の三摩地極て堅牢なる故に、聚て一體と爲て寶幢大菩薩の身を生じて、世尊毗盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉比へ無きの幢　一切の益成就し　一切の意を滿たす　一切の願を滿たしむるものなり。

時に彼の寶幢大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の左の(四)月輪に依て而も住し

(一)建立加持　寶幢を建立するを云ふなり。

(二)爾時に　下第八に金剛笑を明す　(三)賀娑　此れに笑と譯す。

(四)金剛笑の形　左右の手の金剛拳を仰へて相並ぶるなり。

て、復教令を請ふ。時に世尊一切如來の(一)建立加持に入り給ふ、金剛三摩地と名く。一切如來の思惟王摩尼幢を受けて能く三昧耶を建て、有情界を盡して餘すこと無く一切の意の願をして圓滿せしめ、一切を安樂悅意ならしむるが故に、乃至一切如來の大利益の最勝の悉地の果を得るが故に、則ち彼の金剛幢を彼の寶幢菩薩摩訶薩の雙手に授け給ふ。則ち一切如來金剛の名を以て金剛幢と號し、金剛幢灌頂し給ふ時に、彼の金剛幢菩薩摩訶薩、金剛幢を以て一切如來を檀波羅蜜に於て安立して、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　能く諸の意の欲を滿たし給ふ　思惟寶幢と名く　是れ檀度の理趣なり。

(二)爾時に婆伽梵、復た常喜悅大菩薩の三昧耶に入て、寶加持を出生し給ふ金剛三摩地と名く、一切如來の喜悅三昧耶なり。一切如來の心と名く。自心從り

嚩日囉二(三)合賀娑一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出で已て、即ち彼の世尊毘盧遮那佛の心に入り、聚て一體と爲て、(三)金剛笑の形を生じて、佛の掌の中に住す、彼の金剛笑の形從り、一切世界の微塵に等き如來の身を出だし、一切如來の奇特等を作し、一切の佛の神通

(一)後の月輪　寶生佛の南なり。

(二)以上の寶光幢笑の四菩薩は南方寶生如來の四親近なり、大灌頂等の四菩薩次の如く寶光幢笑の四に配すべし。

(三)爾時に　下第九に金剛法を明す

遊戲を作す、常喜悅の根の故に金剛薩埵の三摩地極て堅牢の故に、聚て一體と爲て常喜悅根大菩薩の身を生じ、世尊毘盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉我れ大笑　諸の勝大の奇特なり　佛の利益を安立して　常に妙へなる等引に住す。

時に彼の常喜悅大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(一)後の月輪に依て而も住して、復た教令を請ふ。時に世尊一切如來の奇特加持に入り給ふ金剛三摩地と名く。一切如來の出現三昧耶を受け、有情界を盡して餘すこと無く、一切の根をして無上に安樂悅意せしむるが故に、乃至一切如來の根清淨智と神境通との果を得るが故に、則ち彼の金剛微笑を彼の常喜悅根大菩薩摩訶薩の雙手に授け與へ給ふ、即ち一切如來金剛の名を以て金剛喜と號して金剛喜灌頂し給ふ時に、金剛喜菩薩摩訶薩、金剛微笑を以て一切如來を悅ばしめて、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛　奇い哉出現を示して　能く大喜悅を作し給ふ　他の師は知ること能はざるなり。

(二)大灌頂と尋圓光と大利と大笑と、是の如きは一切如來の大灌頂の薩埵なり。(三)爾時に

婆伽梵復た觀自在大菩薩の三昧耶に入て、法加持を出生し給ふ金剛三摩地と名く。一切如來の法三昧耶なり。一切如來の心と名く。自心從り

嚩日羅二合(一)達磨一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、彼の婆伽梵持金剛、自性清淨一切法平等智善く通達の故に、金剛薩埵の三摩地を正法の光明と爲す、出で已て彼の正法の光明を以て一切世界を照曜して法界と成し爲す、法界を盡して毘盧遮那佛の心に入り聚て一體と爲て量虛空法界に徧ねく、大蓮華の形を生じて佛の掌の中に住す。(二)彼の金剛蓮華の形從り一切世界の微塵に等き如來の身を出だして、一切如來の三摩地智の神境通等を以て、一切の佛の神通遊戲を作す。一切世界に於て妙觀自在なるが故に、金剛薩埵の三摩地極て堅牢なるが故に、聚て一體と爲て、觀自在菩薩の身を生じ、世尊毘盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉我が勝義　本より清淨にして自然なり　諸法は筏の喩の如し　清淨にして而も得つ可し。

時に彼の觀自在大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(三)前の月輪に依て而も住

(一) 達磨　此れに法と譯す。

(二) 金剛蓮華　堅の獨股杵の上に赤色の八葉初割の蓮華を安くなり。

(三) 前の月輪　西方阿彌陀佛の東なり。

して、復た敎令を請ふ。時に世尊一切如來の三摩地智に入て、三昧耶を出生するを金剛三摩地と名く、能く一切如來を淨め、有情界を盡して餘すこと無く、我れ清淨にして一切を安樂悅意せしむる故に、乃至一切如來の法智と神境通の果とを得るが故に、則ち彼の金剛蓮華を以て觀自在菩薩摩訶薩正法轉輪王に授け與へ、一切如來の法身の灌頂を授け與へて、雙手に於て灌ぎ給ふ。則ち一切如來金剛の名を以て金剛眼と號して、金剛眼の灌頂し給ふ時に、金剛眼菩薩摩訶薩則ち彼の金剛蓮華の開敷蓮華の勢の如く、貪染の清淨にして染著無き自性を觀察して、觀じ已て此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛　欲の眞實を覺悟す　我が手の掌に授け與へて　法を法に於て安立す。

(一) 爾時に婆伽梵、復た(二)曼殊室利大菩薩の三昧耶に入り給ふ、法の加持を出生し給ふ金剛三摩地と名く。一切如來の大智慧の三昧耶なり。一切如來の心と名く。自心從り

嚩日羅二合(三)底乞灑拏三合一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵持金剛衆多の慧劒と爲る、出で已て世尊毘盧遮那佛の心に入り、聚て一體と爲て、金剛劒の形を生じ

(一) 爾時に下第十に金剛利を明す　(二) 曼殊室利亦は妙德とも譯す。

(三) 底乞灑拏　此れに利と譯す。

て、佛の掌の中に住す。則ち彼の金剛劒の形從り、一切世界の微塵に等き如來の身を出し給ふ、一切如來の智慧等を以て、一切の佛の神通遊戯を作す。妙吉祥の故に金剛薩埵の三摩地極て堅牢なる故に、聚て一體と爲り、曼殊室利大菩薩の身を生じて、世尊毘盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉一切の佛　我れを微妙音と名く　(一)慧には色無きに由るが故に　音聲を以て而も得可し。

時に彼の曼殊室利大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(二)右の月輪に依て而も住して、復敎令を請ふ。時に世尊一切如來の智慧三昧耶に入り給ふ金剛三摩地と名く。一切如來の結使(ケッシ)を斷(だん)ずる三昧耶なり、有情界を盡して餘すこと無く、一切の苦を斷じ、一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の隨順音聲の慧圓滿成就し給ふを得るが故に、則ち彼の金剛劒を曼殊室利大菩薩摩訶薩の雙手に授け與へ給ふ、則ち一切如來金剛の名を以て金剛慧と號す。金剛慧灌頂し給ふ時に、金剛慧菩薩摩訶薩、金剛劒を以て揮ひ斫て、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切佛　智慧度の理趣なり　能く(三)諸の怨敵(オンテキ)を斷し　諸罪を除くこと最

(一) 慧に色無き　碍礙なきを云ふ即文殊の無礙智なり

(二) 右の月輪　彌陀佛の南なり。阿

(三) 諸の怨敵　内の煩惱魔、外の天魔等を云ふ。

勝なり。

(一)爾時に婆伽梵、復た纔發心轉法輪菩薩摩訶薩の三昧耶に入りて、法加持を出生し給ふ金剛三摩地と名く、一切如來の輪三昧耶なり。一切如來の心と名く。自心從り嚩日囉二合(二)係都一句を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵金剛金剛界の大曼荼羅と成り給ふ。一切如來の大曼荼羅と爲り、出で已て世尊毘盧遮那佛の心に入り、聚て一體と爲て、(三)金剛輪の形を生じて、佛の掌の中に住す。彼の金剛輪の形從り、一切世界の微塵に等しき如來の身を出す。纔發心轉法輪(ザイホッシンテンポウリン)の故に金剛薩埵の三摩地極て堅牢なる故に、聚て一體と爲り、纔發心轉法輪菩薩摩訶薩の身を生じて、世尊毘盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉金剛輪　我れは金剛(四)勝持なり　纔に發心するに由るが故に　能く妙へなる法輪を轉ず。

時に彼の纔發心轉法輪大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(五)左の月輪に依て而も住して、復た敎令を請ふ。時に世尊一切如來の輪に入り給ふ金剛三摩地と名く。

(一) 爾時に　下第十一金剛因を明す即轉法輪菩薩なり

(二) 係都　因と譯す。此れに

(三) 金剛輪の形　八輻の金輪なり。

(四) 勝持　持金剛中の最も勝れたるを云ふ。

(五) 左の月輪　阿彌陀佛の北なり。

一切如來の大曼荼羅三昧耶を以て、有情界を盡して餘すこと無く、得不退轉の法輪に入り、一切の安樂悅意を受け令るが故に、乃至一切如來の正法輪を轉ずる最も勝れたる悉地の故に、則ち彼の金剛輪を纔發心轉法輪大菩薩摩訶薩の雙手に授け與へて、則ち一切如來金剛名を以て金剛場と號す。金剛場灌頂し給ふ時に彼の金剛場菩薩摩訶薩、彼の金剛輪を以て一切如來をして不退轉を安立せ令めて、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　能く(一)一切の法を淨め給ふ是れ則ち不退轉なり亦は菩提場と名く。

(二)爾時に婆伽梵、復た無言大菩薩摩訶薩の三昧耶に入て、法加持を出生し給ふ金剛三摩地と名く。一切如來の念誦の三昧耶を一切如來の心と名く。自心從り

嚩日囉二合(三)婆沙一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵金剛手一切如來の法文字と爲て、出で已て世尊毘盧遮那佛の心に入り、聚て一體と爲て金剛(四)念誦の形を生じて、佛の掌の中に住す。彼の金剛念誦の形從り、一切世界の微塵に等しき如來の身を出だして、一切如來の法性等を以て一切の佛の神通遊戲を作す。妙語言の故に

(一)一切の法を淨め　法輪を轉じて諸の煩惱所知の二障を摧破する故に一切法淨となる。
(二)爾時に　下第十二に金剛語を明す。
(三)婆沙　此れに說と譯す。
(四)念誦の形　舌根なり。

金剛薩埵の三摩地、極て堅牢なる故に、聚て一體と爲て無言大菩薩の身を生じ、世尊毘盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉自然の密　我れを(一)秘密語と名く　說く所の微妙の法　諸の戲論を遠離す。

時に彼の無言大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(二)後の月輪に依て而も住して、復た敎令を請ふ。時に世尊一切如來の秘密語言三昧耶に入り給ふ一切如來の秘密語言智三摩地と名く。有情界を盡して餘すこと無く、語を成就せ令め一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の語秘密の體性の最勝の悉地を得るが故に、則ち彼の金剛念誦を無言大菩薩摩訶薩の雙手に授け與へて、則ち一切如來金剛名を以て金剛語と號す。金剛語灌頂し給ふ時に、金剛語菩薩摩訶薩、彼の金剛念誦を以て、一切如來と共に談論して、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛　金剛念誦と名く　一切如來に於て　眞言速に成就す。

(三)金剛法智の性と、一切如來の智慧と、大轉輪智と、一切如來の語、輪轉戲論智と、此れは是れ一切如來の大智の薩埵なり。

(一)秘密語　眞言陀羅尼なり。
(二)後の月輪　阿彌陀佛の西なり。
(三)無言　淺略には四妄言說なき故に深秘には念誦無相の故に無言と云ふ。
(四)以上の四菩薩は西方阿彌陀佛の四親近なり、金剛法智等の四、次の如く法利因語に配して知るべし。

釋。オホスズと訓す。

國譯金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大教王經卷上終

音釋

鐸　達各の切なり。弭　縣婢の切なり。嗢陀　梵語なり、此れに自說と云ふ、嗢は烏骨の切なり。

國譯金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大教王經卷中

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空　詔を奉じて譯す

大曼荼羅廣大儀軌品之二

(一)爾時に婆伽梵、復一切の如來の毗首羯磨大菩薩の三昧耶に入り給ふ。羯磨加持を出生するを金剛三摩地と名く、一切如來の羯磨三昧耶なり、一切如來の心と名く。自心從り囉日囉二合(二)羯磨合一を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、一切如來羯磨平等の智を以て善く通達するが故に、金剛薩埵の三摩地なり、即ち彼の婆伽梵持金剛一切如來の羯磨光明と爲り給ふ。出で已て彼の一切如來の羯磨光明を以て一切の有情界を照曜して、一切如來の羯磨界と爲る、其の一切如來の羯磨界を盡くして、世尊毘盧遮那佛の心に入て聚て一體と爲て、量一切虛空界に徧す。則ち一切如來の羯磨界の故に(三)羯磨金剛の形を生じて佛の掌の中に住す。則ち羯磨金剛の形從り、一切世界の微塵に等しき如來の

(一)爾時に　下第十三に金剛業を明す。

(二)羯磨　此れに事業と譯す。

(三)羯磨金剛の形　二の三股金剛杵を十字に交へ、又へたるものなり、事業成辦の義を表す。

身を出し、一切世界に於て、一切如來の羯磨等を以て、一切の佛の神通遊戯を作し、一切如來の無邊の事業を作すが故に、金剛薩埵の三摩地極て堅牢なる故に、聚て一體と爲り、一切如來の毗首羯磨大菩薩摩訶薩の身を生じ、世尊毘盧遮那佛の心に住して此の嗢陀南を說き給ふ。

奇いかな諸佛の不空　我れ一切の業多し　(一)功無くして佛の益を作し　能く金剛の業を(二)轉ず。

爾時に毘首羯磨大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(三)前の月輪に依て住して復た敎令を請ふ。時に世尊一切如來の不空金剛三昧耶に入り給ふ、金剛三摩地と名く。一切の供養等の無量不空の一切業の軌儀、廣大の三昧耶を轉し、餘り無く有情界を盡して一切の悉地を作し、一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の(四)金剛羯磨性の智と、神境通との果を成就するが故に、即ち彼の羯磨金剛を一切如來の金剛羯磨大菩薩に授け與へて、一切如來の羯磨轉輪王と爲て、一切如來の灌頂を以て雙手に授け與へ給ふ。則ち一切如來金剛名を以て金剛毗首と號す。金剛毘首灌頂し給ふ時に、彼の金剛毗首菩薩摩訶薩、則ち羯磨金剛を自心に於て安立し給ふ。一切如來を羯磨平等

(一)功無くして功力を用ひずして佛の自證化他の事業を作すを云ふ。
(二)轉　轉作の義
(三)前の月輪　北方不空成就佛の南なり。
(四)金剛羯磨性智　成所作智なり。

の處に安せ令て、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛　種種の勝れたる業を作し　我が掌の中に於て授け　業を以て業に於て安じ給ふ。

(一)爾時に婆伽梵、復た難敵精進大菩薩摩訶薩の三昧耶に入り給ふ、羯磨加持を出生す、金剛三摩地と名く。一切如來の守護の三昧耶なり、一切如來の心と名く。自心從り囉日囉二合(二)嚩乞沙二合一句を出し給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵金剛手、衆多の堅固の甲冑と爲る。出で已て世尊毘盧遮那佛の心に入て、聚て一體と爲り、大金剛甲冑の形を生じて、佛の掌の中に住す。彼の金剛甲冑の形從り、一切世界の微塵に等しき如來の身を出だす。一切如來の守護の儀軌、廣大の事業等を以て一切の佛の神通遊戯難敵精進を作すが故に、金剛薩埵の三摩地極て堅牢なる故に、聚て一體と爲り、難敵精進大菩薩の身を生じ、世尊毘盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉精進の甲　我れは固とに堅固の者なり　堅固の(三)無身に由て　金剛の勝印を作す。

(一)爾時に　下第十四に金剛護を明す。
(二)嚩乞沙　此れに護と譯す。
(三)無身　身に身相なく一切處に徧き故に無身と云ふ即無相法身の意なり。

(一)右の月輪　不空成就佛の西なり

(二)爾時に　下第十五に金剛牙を明す。

(三)藥乞灑　此れに靈亦は食と飜す、大力の寛な食ひ靈すの義なり。

時に彼の難敵精進大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(一)右の月輪に依て住して、復た敎令を請ふ。時に世尊一切如來の堅固に入り給ふ、金剛三摩地と名く。一切如來の精進波羅蜜の三昧耶を以て、餘すこと無く有情界を盡して救護して、一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の金剛身の成就の果を得るが故に、則ち金剛甲冑を以て難敵精進大菩薩の雙手に授け與へて、則ち一切如來金剛の名を以て金剛慈友と號す。金剛慈友灌頂し給ふ時に、彼の金剛慈友菩薩摩訶薩、金剛の甲冑を以て一切如來に被せしめ奉て、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　最も勝れたる慈の甲冑なり　堅精進の大護なり　名て大慈友と爲す。

(二)爾時に婆伽梵復た摧一切魔大菩薩摩訶薩の三昧耶に入り給ふ、羯磨加持を出生して金剛三摩地と名く、一切如來の方便の三昧耶なり、一切如來の心と名く。自心從り囉日囉二合(三)藥乞灑二合一句を出だし給ふ。一切如來の心より、纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵持金剛衆多の大牙器仗と爲る、出だし已て世尊毘盧遮那佛の心に入て、聚て一體と爲り、金剛牙の

(一)有形寂靜　有形に即して無相なる故に寂靜と云ふ。

(二)左の月輪　不空佛の東なり。

(三)方便　拆伏の方便。

形を生じて佛の掌の中に住す。彼の金剛牙の形從り、一切世界の微塵に等しき如來の身を出だして、一切の降伏暴怒等を作し、一切の佛の神通遊戲を爲し、一切の魔を善く摧伏するが故に、金剛薩埵の三摩地極めて堅牢なる故に、聚て一體と爲て摧一切魔大菩薩の身を生じ、世尊毗盧遮那佛の心に住して此の嗢陀南を說き給ふ。

奇き哉や大方便　諸佛の悲愍なり　(一)有形寂靜なるに由て　示して暴怒の形と作る。時に彼の摧一切魔大菩薩の身、世尊の心より下て、一切如來の(二)左の月輪に依て而も住して、復た敎令を請ふ。時に世尊一切如來極怒金剛三摩地に入り給ふ。一切如來調し難きを調伏し、有情界を盡して餘すこと無く、無畏を施し、一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の大方便智と、神境通と、最も勝れたる悉地の果とを得るが故に。則ち彼の金剛牙の器仗を以て、彼の摧一切魔大菩薩の雙手に授け與へて、則ち一切如來金剛の名を以て金剛暴怒と號す。金剛暴怒灌頂し給ふ時に、彼の金剛暴怒菩薩摩訶薩彼の金剛牙の器仗を以て、自らの口中に安き、一切如來を恐怖せしめて此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　諸の調し難きものを調伏し給ふ　金剛牙の器仗なり　(三)方

(一)爾時に下第十六に金剛拳を明す。

(二)散地　此れに密合と釋す。

(三)金剛縛の形外縛の印なり。

便を以て悲愍する者なり。

(一)爾時に婆伽梵、復一切如來の拳大菩薩摩訶薩の三昧耶に入り給ふ、羯磨加持を出生す、金剛三摩地と名く。一切如來の身口心の金剛縛の三昧耶なり。一切如來の心と名く、自心從り

嚩日囉二合(二)散地(サンデ)一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵持金剛、一切如來の一切印縛と爲る、出で已て世尊毘盧遮那佛の心に入り給ふ。聚て一體と爲て、(三)金剛縛の形を生じて、佛の掌の中に住す。彼の金剛縛の形從り一切世界の微塵に等しき如來の身を出だし給ふ。出だし已て一切世界に於て、一切如來の印縛智等を以て一切の佛の神通遊戯を作し給ふ。一切如來の拳を以て善く縛する故に、金剛薩埵の三摩地極て堅牢なる故に、聚て一體と爲て一切如來拳大菩薩の身を生じて、世尊毘盧遮那佛の心に住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉妙へなる堅縛　我れは堅三昧耶なり　諸の意樂を成ずるが故に　解脫(ケダツ)せる者を縛と爲す。

(一)後の月輪　不空成就佛の北なり

(二)以上の業護牙拳の四菩薩は、北方不空成就佛の四親近なり、供養廣大等の四、次の四業護牙拳の四に配し、知るべし。此の文は北方の四親近を總じて結すなり、前は之れに准知すべし。

(三)爾時に以下は四波羅蜜菩薩を明す、此の段は初に金剛波羅蜜を明すなり。

時に彼の一切如來の拳大菩薩の身、世尊の心從り下て、一切如來の(一)後の月輪に依て而も住して、復た敎令を請ふ。時に世尊一切如來の三昧耶に入り給ふ、金剛三摩地と名く。一切如來の印の三昧耶を以て、有情界を盡して餘すこと無く、一切如來の聖天の現驗の一切の悉地を得せ令め、一切の安樂悅意を受けしむるが故に、乃至一切如來の一切智智印と主宰の最勝の悉地の果とを得せしむるが故に、則ち彼の金剛縛を一切如來の金剛拳大菩薩摩訶薩の雙手に授け與へ給ふ、則ち彼の一切如來金剛の名を以て金剛拳と號す。金剛拳灌頂し給ふ時に、彼の金剛拳菩薩摩訶薩、彼の金剛縛を以て一切如來を縛して、此の嗢陀南を說き給ふ。

此れは是れ一切の佛の　印縛大堅固なり　速に諸の印を成ずるが故に　三昧耶を越えざるなり。

(一)一切如來の供養廣大の儀軌(ギキ)の業と、一切如來の大精進の堅固の甲冑と、一切如來の大方便と、一切如來の一切印縛智と、是の如きは一切如來の大羯磨薩埵なり。

(二)爾時に不動如來、世尊毗盧遮那の一切如來の智を成就し已て、一切如來の智を印するが故に、金剛波羅蜜の三昧耶に入り給ふ。生ずる所の金剛加持を金剛三摩地と名く

(一)薩怛嚩　有情と翻す。
(二)嚩日哩　金剛女なり。
(三)前の月輪毘盧遮那佛の東なり
(四)爾時に　以下第二に寶波羅蜜を明す。
(五)右の月輪吽盧遮那佛の南なり

一切如來の金剛三昧なり、一切如來の印と名く。自心從り

(一)薩怛二合(二)嚩嚩日哩二合一句

を出し給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、金剛光明を出す、彼の金剛光明の門從り即ち彼の婆伽梵持金剛、一切の世界の微塵に等き如來の身と爲て、一切如來の智を印し、復た聚て一體と爲て、一切世界の量に等くして大金剛の形を生じて、世尊毗盧遮那佛の(三)前の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇しき哉一切の佛の　薩埵金剛の堅なり　堅の無身に由るが故に　金剛の身を獲得す。

(四)爾時に世尊寶生如來、世尊毗盧遮那の一切如來の智を印し給ふ故に、寶波羅蜜の三昧耶に入る、生ずる所の寶金剛の加持を金剛三摩地と名く、金剛三昧耶なり、自印と名く。自心從り

囉怛曩嚩日哩二合一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、寶光明を出す。彼の寶光明從り、即ち彼の婆伽梵持金剛、一切の世界の微塵に等き如來の身と爲て一切如來の智を印し復た聚て一體と爲て、一切世界の量に等く大金剛寶形を生じて、世尊毗盧遮那佛の(五)

(一)爾時に　以下第三に法波羅蜜を明す。
(二)後の月輪吽盧遮那佛の西なり
(三)爾時に　以下第四に羯磨波羅蜜を明す。
(四)一切の三昧耶諸の事業を作す故に一切と云ふ、下の面も向へても、一切處に准じて知るべし、又羯磨杵は首を四方に向くるが故に面を一切處に向へてと云ふなり。

右の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉一切の佛の　我れを寶金剛と名く　一切の印衆に於て　堅灌頂の理趣なり。

(一)爾時に世尊觀自在王如來、世尊毗盧遮那の一切如來の智を印し給ふが故に、法波羅蜜の三昧耶に入る。生ずる所の金剛加持を金剛三摩地と名く、法三昧耶を自印と名く。自心從り

達磨嚩日哩二合一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、蓮華光明を出だす。彼の蓮華光明從り、即ち婆伽梵持金剛、一切の世界の微塵に等き如來の身と爲て、一切如來の智を印し、聚て一體と爲り、一切世界の量に等く、大金剛蓮華の形を生じて、世尊毗盧遮那佛の(二)後の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇しき哉や一切の佛の　法金剛我れ淨なり　自性清淨なるに由て　貪染をして無垢ならしむ。

(三)爾時に世尊不空成就如來毘盧遮那の一切如來智を印し給ふ故に、一切波羅蜜の三昧耶に入る、生ずる所の金剛加持を金剛三摩地と名く、(四)一切の三昧耶を自印と名く、

(一) 左の月輪　大日佛の北なり。

(二) 一切如來の智以上は四波羅蜜天女菩薩を明す、一切如來の智等は次の如く四波羅蜜菩薩に配して知るべし。即四波の惣結なり、又四波は大日の四親近と云ふべし。

(三) 爾時に　以下八供養天女使を明す中に於て此の段は第一に金剛嬉を明す。

(四) 遲西　此れに戲と翻す歡喜即の義なり。

自心從り

羯磨囉日哩二合一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出し已て、一切の羯磨光明を出だす。彼の一切如來の羯磨光明從り、即ち彼の婆伽梵持金剛、一切世界の微塵に等しき如來の身と爲て、徧く一切如來智を印し、復た聚て一體と爲て、一切の世界の量に等く、面を一切處に向ひて、大羯磨金剛形を生じて、世尊毘盧遮那佛の(一)左の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉一切の佛の　我れは多業の金剛なり　一が一切を生ずるに由て　佛界に於て善く業を作す。

(二) 一切如來の智三昧耶と、大灌頂と、金剛の法性と、一切供養と、是の如きは一切如來の大波羅蜜なり。(三) 爾時に世尊毘盧遮那佛、復た一切如來の適悅供養三昧耶に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く、一切如來族の大天女なり。自心從り

囉日囉二合(四)遲西一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、金剛の印を出す、彼の金剛印門從り、

(一) 諸佛の中の供養　上妙供養の義なり。

(二) 爾時に　下第二に金剛鬘を明す

(三) 摩犁　此れに鬘と翻す即寶を貫きたる鬘なり。

則ち彼の婆伽梵持金剛、一切世界の微塵に等き如來の身と爲て、復た聚て一體と爲て、金剛嬉戲大天女と爲り給へり。金剛薩埵の一切の身性種種の形色威儀、一切の莊嚴の具の如くして一切の如來族の金剛薩埵女を攝す。世尊不動如來の曼荼羅の左邊の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇しき哉や比べ有ること無し　(一)諸佛の中の供養なり　供養を貪染するに由て　能く諸の供養を轉ず。

(二) 爾時に世尊毗盧遮那、復た一切如來の寶髻灌頂の三昧耶に入り給ふ。生ずる所を金剛三摩地と名く、一切如來族の大天女なり。自心從り

囉曰囉二合三摩犁一合

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、大寶印を出だし給ふ。彼の大寶印從り、則ち彼の婆伽梵持金剛、一切の世界の微塵に等き如來の身と爲り、復聚て一體と爲り、金剛鬘大天女と爲て、世尊寶生如來の曼荼羅の左邊の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉我れ比べ無し　稱して寶供養と爲す　三界に於て王として勝れたり　敎勅を

(一)爾時に　下第三に金剛歌詠を明す。

(二)霓帝　此れに歌と譯す。

(三)爾時に　下第四に金剛舞を明す

(四)儞哩帝曳　此れに舞と譯す即遍法界の神通舞戲なり。

受けて供養す。

(一)爾時に世尊毗盧遮那、復た一切如來の歌詠供養の三昧耶に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く、一切如來族の大天女なり。自心從り

嚩日囉二合(二)霓愚切帝一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出し已て、一切如來の法印を出だし給ふ。彼の一切如來の法印從り、則ち彼の婆伽梵持金剛、一切如來の世界の微塵に等き如來の身と爲り、復聚て一體と爲り、金剛歌詠大天女と爲て、世尊觀自在王如來の左邊の月輪に而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇き哉歌詠を成じて　我れ諸の見者に供す　此の供は喜せしむるに由るが故に　諸法は響の應ずるが如し。

(三)爾時に世尊毗盧遮那復一切如來の舞供養に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く一切如來族の大天女なり。自心從り

嚩日囉二合(四)儞哩二合帝曳二合

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、一切如來の舞廣大儀を出だし給ふ。

(一)一切如來の無上以上は內の四供養を明す、無上の四句次の安樂等の四句は如來の鬘歌舞の四菩薩に配して知るべし、內の四供は內の大日如來が阿閦等の四佛を供養せんが爲に變現し給ふ所なり、能供の四大日に從へて供と云ふ。

(二)爾時に　以下外の四供養を明す中に於て此段は初に金剛燒香を明す　此れに杜閉香と云ふ。

彼れ從り一切如來の舞供養の儀を出だす、即ち彼の婆伽梵持金剛、一切世界の微塵に等き如來の身と爲り、復聚て一體と爲て、金剛舞大天女と爲て、世尊不空成就如來の左邊の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉廣供養　諸の供養を作すが故に　金剛の舞儀に由て　佛の供養を安立す。

(一)一切如來の無上安樂悅意の三昧耶と、一切如來の鬘と、一切如來の諷詠と、一切如來の無上の供養業となり。是の如きは一切如來の秘密の供養なり。

(二)爾時に世尊不動如來、毗盧遮那如來の供養に答へ奉るが故に、一切如來能悅懌の三昧耶に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く、一切如來の婢使なり。自心從り

嚩日囉二合(三)杜閉二合一句

を出だし給ふ、一切如來の心從り纔に出だし已て、則ち彼の婆伽梵持金剛、種種の儀の燒香供養雲海の嚴飾と爲て、一切の金剛界に舒べ、徧く出だし已て、彼の燒香供養雲海從り、一切世界の微塵に等き如來の身を出し給ふ。復聚て一體と爲て金剛燒香天女の身と爲る。世尊の金剛摩尼寶峰樓閣の隅の左の邊の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

(四)薩埵の徧入　一切の有情に於て徧入するの意なり

(一)爾時に　下第二に金剛華を明す

(二)補澀閉　に華と譯す。此れ

(三)如來の寶性　本有性德なり。

(四)速疾に供養　修生修得なり。

(五)爾時に　下第三に金剛燈明を明す。

奇しき哉や大供養　悅び懌みて端嚴を具せり　(四)薩埵の徧入するに由て　速疾に菩提を證せしむ。

(一)爾時に世尊寶生如來毗盧遮那如來の供養に答へ奉るが故に、寶莊嚴の供養三昧耶に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く。一切如來の承旨の大天女なり。自心從り囉日囉二合(二)補澀閉二合一句を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵持金剛一切華供養嚴飾と爲て、一切の虛空界に舒べ徧くす、出し已て彼の一切華供養嚴飾從り、一切の世界の微塵に等き如來の身を出だす、出だし已て復た聚て一體と爲て、金剛華天女の形と爲て、如來の金剛摩尼寶峰樓閣の隅の左の邊の月輪に依て、而も住して此の嗢陀南(ウダナ)を說き給ふ。

奇い哉華供養　能く諸の莊嚴を作す　(三)如來の寶性に由て　(四)速疾に供養することを獲。

(五)爾時に世尊觀自在王如來、世尊毘盧遮那の供養に答へ奉るが故に、一切如來の光明供養三昧耶に入り給ふ。生ずる所を金剛三摩地と名く。一切如來の女使なり。自心從り

(一)路計　此れに明と譯す即無盡の燈明なり。

(二)爾時に　下第四に金剛塗香を明す。

(三)嚩題　香と云ふ。此れに

囉日囉二合(二)路計一句を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵持金剛、一切光明界の供養の嚴飾を出だして、法界を盡して舒べ徧くす、彼の一切光明界の莊嚴具從り、一切の世界の微塵に等き如來の身を出だし、出し已て復聚て一體と爲て、金剛光明天女の身と爲て世尊の金剛摩尼寶峰樓閣の隅の左の邊の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇しき哉我れ廣大なり　燈の端嚴なるを供養す　速に光明を具するに由て　一切の佛眼を獲。

(二)爾時に世尊不空成就如來毘盧遮那如來の供養に答へ奉るが故に、一切如來の塗香供養の三昧耶に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く、一切如來の婢使なり。自心從り囉日囉二合(三)嚩題(ダンディ)を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、則ち彼の婆伽梵持金剛、一切塗香供養の嚴飾を出だして、舒べて一切の法界に徧くす。彼の一切の塗香供養の嚴飾從り一切の世界の微塵に等き如來の身を出だし給ふ、出だし已て復聚て一體と爲て金剛塗

(一) 一切如來の智は外の四供養を明す、智の次の四句は香華燈塗の四種を知るべし、又外の四供は阿閦等の四佛が大日如來を供養する爲に變現し給ふなり能供の佛に從て外と云ふなり。

(二) 爾時に下四句は第一段を明す。

(三) 印の衆主印衆と云ふ。四攝智を惣じて印衆と云ふ、如來の智情界を以て印衆を以て印衆なる中に於て主伴あり、其主を主と云ふ。

(四) 矩賒 此れに鉤と云ふ。

(五) 金剛門の中曼荼羅東方の門なり。

香天女の身と爲り給ふ。世尊の金剛摩尼寶峰樓閣の隅の左の邊の月輪に依て、而も住して此の嗢陀南を說き給ふ。

奇いかな塗香の供養　我れは微妙の悅意なり　如來の香に由るが故に　一切の身に授け與ふ。

(一) 一切如來の智の徧入と、大菩提の肢分の三昧耶と、一切如來の光明と、戒と定と慧と解脫と、解脫知見との塗香と、是の如きは一切如來の敎令を受くる女なり。

爾時に世尊毘盧遮那如來、復た一切如來の三昧耶鉤三昧耶に入り給ふ。生ずる所の薩埵を金剛三摩地と名く、一切如來の印の(二)衆主なり。自心從り

嚩日囉二(四)矩賒一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、則ち彼の婆伽梵持金剛、一切如來の一切の印衆を出し給ふ、彼の一切如來の一切の印衆より、一切の世界の微塵に等き如來の身を出だして、復聚て一體と爲て金剛鉤大菩薩の身と爲る、世尊の金剛摩尼寶峰樓閣の(五)金剛門の中の月輪に依て而も住して、一切如來の三昧耶を鉤召して、此の嗢陀南を說き給ふ。

(一) 爾時に下第二に金剛索を明す

(二) 播賒 此れに索と翻す。

(三) 寶門の間の月輪 曼荼羅の南門なり。

(四) 爾時に下第三に金剛鎖を明す

奇い哉一切の佛の　鉤の誓我れ堅固なり　我れ徧く鉤召するの由て　諸の曼荼羅を集む。

(一) 爾時に世尊復た一切如來の三昧耶の引入摩訶薩埵の三昧耶に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く、一切如來の引入の承旨なり。自心從り

嚩日囉二(二)播賒一句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、則ち彼の婆伽梵持金剛、一切如來の三昧耶の引入の印を出だす、彼の一切如來の三昧耶の引入の印衆從り、一切の世界の微塵に等き如來の身を出だして、復聚て一體と爲て、金剛索大菩薩の身と爲る。世尊の金剛摩尼寶峰樓閣の(二)寶門の間の月輪に依て而も住し、一切如來を引入して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉一切の佛の　我れは堅き金剛のごとき索なり　設ひ諸微塵に入るとも　我れ復此れに引入せん。

(四) 爾時に世尊復た一切如來の三昧耶の鎖大薩埵の三昧耶に入り給ふ、生ずる所を金剛三摩地と名く。一切如來の三昧耶一切如來を縛するの使なり。自心從り

(一)薩普吒　此れに鎖と譯す。

(二)法門の中曼荼羅の西の門なり

(三)爾時に　下第四に金剛鈴を明す

(四)徧入　振鈴の妙音は徧く一切の身と心とに入る故に徧入なり。

(五)吠捨　此れに徧入と譯す。

嚩日囉二合(一)薩普二合吒一句

を出し給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、即ち彼の婆伽梵持金剛　一切如來の三昧耶縛を出だして印衆と爲す。彼の一切如來の三昧耶の印衆從り、出だし已て一切の世界の微塵に等き如來の身を出だす、復た聚て一體と爲て金剛鎖大菩薩の身と爲る、世尊の金剛摩尼寶樓閣の(二)法門の中の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉一切の佛の　大堅金剛の如き鎖なり　諸の縛をして脫せ令る者なり　有情を利する故に縛す。

(三)爾時に世尊、復一切如來の(四)徧入大菩薩の三昧耶に入り給ふ。生ずる所を金剛三摩地と名く、一切如來の一切印の僮僕なり。自心從り

嚩日囉二合(五)吠捨句

を出だし給ふ。一切如來の心從り纔に出だし已て、則ち彼の婆伽梵持金剛、一切如來の印主と爲て出だし已て、彼の一切如來の印主從り一切の世界の微塵に等き如來の身を出だし給ふ。復聚て一體と爲て、金剛徧入大菩薩の身と爲る。世尊の金剛摩尼寶峰樓閣の羯磨門の中の月輪に依て而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

(一)僮僕　承旨の義なり。

(二)一切如來の三昧耶　以上は四攝を明す、鉤智菩薩を明す、鉤召と引入と縛と調伏と次の如く鉤索鎖鈴に配して知るべし、又鎖は繫ぎ留むる義なり、鈴は四竅か驚覺する義なり、故に、自ら調伏の義なり、此四菩薩大日如來化他の爲に示現し給ふ所なり。

(三)爾時に　下金剛王を明す即召集の三昧耶なり。

(四)三摩惹　三摩は此れに平等と云ひ惹は召集を義とす。

(五)唵引薩普禮の眞言なり　即金剛王を以て曼荼羅の諸佛を召集して禮敬を伸ぶるなり

奇い哉一切の佛の　我れは堅きこと金剛の如き入なり　一切の主宰と爲る　亦即ち僮僕とも爲る。

(二)一切如來の三昧耶の鉤召と、引入と、縛と、調伏と、是の如きは如來の敎令なり。

(三)爾時に世尊一切如來を召き集めんが爲の故に、金剛彈指の相を作して、此の一切如來の召集加持の心を說き給ふ。

嚩日囉二合(四)三摩惹句一

刹那攞嚩須臾の由くの頃に一切如來の彈指の頃の如き相を以て驚覺し已て、一切の世界の雲海の中に徧くす、一切の世界の微塵に等き如來、幷に菩薩、曼荼羅に集會す。集り已て金剛摩尼寶峰樓閣の世尊毘盧遮那如來の所に往詣し、至り已て一切如來の足を禮するを說き給ふ。

(五)唵引薩嚩怛佗孽多二播那滿娜曩迦嚕彌。

此の性成就の眞言に由て、意に隨て念誦し、一切如來を禮し已て、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉大普賢　菩薩の敬儀　是れ如來の輪壇なり　如來に於て影現せしむ。

時に十方の一切の世界の集會の如來、說き給ふこと已て、一切如來の加持に由て、一切の菩薩曼荼羅に集會して、毘盧遮那佛の心に入り給ふ。彼の一切如來の心從り、各各に自らの菩薩衆の曼荼羅を出だし已て、世尊毘盧遮那佛の、金剛摩尼寶峰樓閣の周圍の作壇に依て、三摩地に而も住して、此の嗢陀南を說き給ふ。

奇い哉一切の佛　廣大にして(一)無始より生ず　一切の塵數に由て　佛の一性を獲得せり。

(一)無始より生ず　本不生の義なり

(二)爾時婆伽梵一切如來、復た集會を作して、金剛界の大曼荼羅をして加持せ令るが故に、有情界を盡して餘すことなく、一切を拔濟し利益し安樂にすることを得るが故に、乃至一切如來の平等智と、神境通と、三菩提と、最も勝れたる成就の故に、婆伽梵一切如來の主宰金剛薩埵無始無終の大持金剛を請し奉るに、此の一百八讃を以て而も請す。

(二)爾時に　下一百八名讃を說く。

(三)金剛勇と大心　金剛の諸の如來と　普賢と金剛初と　我れ金剛手を禮す。
金剛王と妙覺と　金剛鉤と如來と　不空王金剛と　我れ金剛召を禮す。
金剛染と大樂と　金剛箭と能伏と　魔欲と大金剛と　我れ金剛弓を禮す。

(三)金剛勇　以下東方の四親近を禮す次の如く薩王愛喜なり。

金剛善と薩埵と　金剛戲と大適と　歡喜王と金剛と　我れ金剛喜を禮す。

(一)金剛寶と金剛と　金剛と空と大寶と　寶藏と金剛豐と　我れ金剛藏を禮す。
金剛威と大焰と　金剛日と佛光と　金剛光と大威と　我れ金剛光を禮す。
金剛幢と善利と　金剛旛と妙喜と　寶幢と大金剛と　我れ金剛刹を禮す。
金剛笑と大笑と　金剛笑と大奇と　愛喜と金剛勝と　我れ金剛愛を禮す。

(二)金剛法と善利と　金剛蓮と妙淨と　世貴と金剛眼と　我れ金剛眼を禮す。
金剛利と大樂と　金剛劒と大器と　妙吉と金剛深と　我れ金剛慧を禮す。
金剛因と大塲と　金剛輪と理趣と　能轉と金剛起と　我れ金剛塲を禮す。
金剛說と妙明と　金剛誦と妙成と　無言と金剛成と　我れ金剛語を禮す。

(三)金剛業と敎令と　金剛廣と不空と　業金剛徧行と　我れ金剛巧を禮す。
金剛護と大勇と　金剛甲と大堅と　難敵と妙精進と　我れ金剛勤を禮す。
金剛盡と方便と　金剛牙と大怖と　摧魔と金剛峻と　我れ金剛忿を禮す。
金剛令と威嚴と　金剛能縛と解と　金剛拳と勝誓と　我れ金剛拳を禮す。

(四)若し此の名の　百八の寂靜の讃を持して　金剛名を以て灌頂することを有らば

(一)金剛寶　下南方の四親近を禮す次の如く寶光幢笑の四菩薩なり。

(二)金剛法　下西方の四親近を禮す次の如く法利因語の四菩薩なり。

(三)金剛業　下北方の四親近を禮す即次の如く業語牙拳の四菩薩なり。

(四)若し此の名の　以下の偈頌は百八名讃を持する功德を演べ、秘密の法を流傳せんと願ひ併せて大曼荼羅を說き給へと請求す

(一)大持金剛　大日如來なり。

(二)流せん　流傳せんと云ふ意なり

(三)爾時に　下諸佛の請求に依て大日如來金剛の大曼茶羅を說き給ふなり。

(四)大薩埵の大印　五股金剛杵なり。

(五)倨傲　高拳の相即慢の相なり。

(六)按行　次第に行くなり。

彼れ亦是の如し

若し此の名を以て　(一)大持金剛を讃して　正意を以て歌詠する者有らば　彼れ持金剛の如くならん。

我等此の名の　一百八名を以て讃す　願くは大乘を現證して　徧く大理趣を(二)流せん。

我れ等世尊に　願くは最勝の儀と　一切の佛の大輪の　勝れたる大曼茶羅とを說き給へと請ひ奉る。

(三)爾時に婆伽梵大地金剛、一切如來の讃ずる語を聞いて、一切如來の三昧耶の生ずる所の加持金剛三摩地に入り、金剛界の大曼茶羅を說き給ふ。

次に當さに我れ徧く　勝れたる大曼茶羅を說くべし　猶し金剛界の如し　名けて金剛界と爲す。

敎への如くして安坐すべし　曼茶羅の中に於て　(四)大薩埵の大印を以て　思惟して應さに加持すべし。

印に住して則ち當さに起て　諸方を顧視し　(五)倨傲にして而も(六)按行し　金剛薩埵を誦すべし。

(一)線智　五色線なり。

(二)四の刹　刹は寶幢柱なり。

(三)勝柱　即前の八柱をいふ。

(四)五の輪壇　五佛の曼茶羅なり。

(五)佛形像　大日如來なり。

(六)佛の一切　四邊の一切の佛は中曼茶羅を周圍せよとなり。

(七)四の勝三昧耶　四波羅蜜菩薩なり

新線を以て善く合せ　量に應して以て端嚴ならしめよ　(一)線智を以て絣くべし　力に隨て曼茶羅をなせ。

四方に應さに四門あるべし　(二)四の刹を以て而も嚴飾し　四線を以て交絡し　繒綵と鬘とを以て莊嚴すべし。

隅の分の一切の處と　門戸合ふ處とに於て　金剛寶を鈿飾よ　外の輪壇を拼くべし。

彼の中をば輪の形の如くし　應さに中宮に於て入て　金剛線を以て徧く拼くべし

八柱を以て而も莊嚴せよ。

金剛の(三)勝柱に於て　應さに(四)五の輪壇を飾るべし　中の曼茶羅に於て　(五)佛の形像を安立せよ。

(六)佛の一切周圍すべし　曼茶羅を中に於てせよ　(七)四の勝三昧耶　次第に而も圖畫すべし。

金剛進にして而も步むべし　四の曼茶羅に於ても　阿閦毗等の四を以て　一切の佛を安立す。

應さに不動の壇を作すべし　持金剛を劑等にせよ　金剛藏等は　寶生の曼茶羅に滿

てり。

金剛眼淨等は　無量壽の輪壇なり　應さに不空成の(一)金剛巧等の壇を畫くべし。

輪の隅に於て安立して　應さに(二)金剛女を畫くべし　外の壇には隅角に於て　應さに(三)佛の供養を畫くべし。

門の中の一切の所には　門を守護する四衆を置くべし　外壇に於て安立して　應さに(四)摩訶薩を畫くべし。

即ち勝れたる三味耶なり　印を結ぶこと儀則の如くすべし　(五)金剛の師入り已て

(六)摧印を以て而も徧く入れよ。

此の諸の徧入の心　請勅すること本教の如し　自身の加持等を　作し已て自の名を

稱へ。

應さに金剛を以て　薩埵金剛鉤を成すべし　金剛の師則ち結ぶべし　召集して彈指

を作して。

應さに一切の佛を請すべし　刹那の頃に諸の佛　幷に金剛薩埵　應さに一切の壇に

滿つべし。

(一)金剛巧　金剛業なり。
(二)金剛女　內四供なり。
(三)佛の供養　外の四供なり。
(四)摩訶薩　賢劫の十六尊なり。
(五)金剛師　大阿闍梨なり。
(六)摧印　師傳を仰ぐべし。

曼荼羅を集め會しては　則ち速疾に大印を以て　金剛薩埵を觀せよ　一徧に百八を

稱へ。

結集に由て則ち喜び　如來皆以固なり　金剛薩を自ら成じ　慈友を以て而も安立す。

諸門の一切の處に　鉤等を以て而も業を作すべし　大羯磨の印を以て　三昧耶を安

立すべし。

印三昧耶　薩埵金剛等を以て　應さに大薩埵を成すべし　弱吽鑁斛を誦すべし。

則ち佛等の一切と　大薩埵とを召き集め　鉤召し引入し已て　縛し以て調伏せ令む。

則ち密供養を以て　(一)大威德を喜ばしめよ　自らと有情との利に應じて　一切の成

を作さんと願ふべし。

是の如きの諸の壇の中には　金剛の師の事業なり。

(一)大威德　諸佛諸菩薩を云ふ。

兜　音トウ。カブトと訓す。
鍪　音ボウ。カブトと訓す。
懌　音エキ。ヨロコブ又タノシムと訓す。
絣　音ホウ。ナハヒクと訓す。
鋼　音テン。カンザシと訓す。

國譯金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大敎王經卷中終

音釋

冑　直又の切、兜鍪なり。懌　夷益の切、喜悅なり。蠟　語蹇の切なり。絣　補

耕の切、繩を以て物を直くするなり。鈿　堂線の切、寶を以て物を飾るなり。拼音ハウ。ヒク と訓す。

耕と同じ。

國譯金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大教王經卷下

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空　詔を奉じて譯す

大曼荼羅廣大儀軌品之三

(一)次に當さに廣く金剛の弟子の金剛大曼荼羅に入る儀軌を說くべし。中に於て我れ先づ有情界を盡して餘すこと無く入ら令て、拔濟し利益し安樂にする最勝の悉地の因と果とを說くべし。此の大曼荼羅に入るには、是器と非器とを揀み擇むべからず。何を以ての故に、(二)世尊或は有情の大罪を作くる者有り、彼れ此の金剛界の大曼荼羅に入て、見已り入り已りぬれば一切の惡趣を離る、世尊或は有情の諸の利と飲食とに貪欲し染著して、三昧耶を憎惡するを先行とする等あり。是の如き等の類も、意に隨て愛樂し入り已んぬれば、則ち一切の意願を滿ずることを得む。世尊或は有情ありて歌と舞と嬉戲と飲食と翫具とを愛樂して、一切如來の大乘現證の法性を曉らめ悟らざるに由るが故に、餘の天族の曼荼羅に入り、一切の意願を滿て、無上を攝受し、能く愛樂歡

(一)上來は一切如來の請に依て大日如來金剛界大曼荼羅を說き、擧て以下は法界の衆生を曼荼羅に引入する作法を說く、器と非器とを揀擇せざるを以て結緣灌頂なり。

(二)世尊或は以下は結緣機を明す慈覺大師の疏第七に云く、以下は第四に敎授弟子の儀軌等を說く此門に廣く灌頂阿闍梨及諸尊の秘密眞印契等の軌範を說く傳法聖者心の裏に記錄す是の故に且く止むと也。

(一) 世尊復正法 此段は從顯入密の正機を明す。
(二) 久く禪定行者顯教に在りし位の歷劫の修行を云ふ、解脫地は十地なり。
(三) 次に當に下曼荼羅に引入する作法を明す、中に於て四禮を明す、即ち阿闍寶生彌陀不空の四佛を禮するなり印度樣の五體投地の禮拜なり。

喜を生ずる一切如來の族の曼荼羅の禁戒に於ては、怖れ畏れて入らず、彼れ惡趣の壇路の門なるが爲に、應さに此の金剛界の大曼荼羅に入るべし、一切の適悅最勝の悉地安樂の悅意をして受用せ令んが爲の故に、能く一切の惡趣の現前の道を轉ずるが故に、(一)世尊復た正法に住せる有情あり。一切衆生の爲に一切如來の戒と定と慧との最勝の方便と佛菩提とを求むるが故に、(二)久しく禪定と解脫地等を修して勞倦せん。彼れ等此の金剛界の大曼荼羅に入るべし、纔に入り已んなば、以て一切如來の果すら尙ほ難からず、何に況や餘の悉地の類をや、(三)次に當さに且く先づ四禮を以て一切如來を禮すべし。全身臂を舒べて金剛合掌して心臆を以て地に著けて東方を禮すべし。眞言に曰く、

唵引一、薩嚩多二、怛他蘗哆二、布惹用唇呼開口角二合曩耶引、怛麼二南、你嘿耶二合多夜彌三、薩嚩怛他蘗多四嚩日囉二合薩怛嚩二、地瑟姹薩嚩合斛五

即ち金剛合掌を心に住せしめて、額を以て南方を禮すべし。眞言に曰く、

唵引一薩嚩怛他蘗多二、布惹引毗囉迦耶引、怛麼二南、涅哩夜二合多夜彌三、薩嚩怛他蘗多四、嚩日囉二合囉怛曩二合、毗詵遮合鉢五

即ち前の金剛合掌を頂に於て安して、口を以て地に著けて西方を禮すべし。眞言に曰く、

(一) 角絡 偏袒右肩に袈裟をかくるが如くするを云ふ
(二) 薩埵金剛の印 外縛二中指を立て、合せたる針印なり

唵引一、薩嚩怛他蘗多二、布惹鉢囉二合鞞栗多二合那夜引、怛麼二南、哩夜二合多夜彌三、薩嚩怛他蘗多四、嚩日囉二合達摩二合鉢囉多二合鞞嘿多二合夜合鉢。

即ち前の金剛合掌を心に當て、頂を以て地に著て北方を禮すべし。眞言に曰く、

唵引一、薩嚩怛他蘗多二、布惹羯磨寧輕呼、阿怛麼二南、涅哩夜二合多夜彌三、薩嚩怛他蘗多四、嚩日囉二合羯磨、句路鉢五

則ち緋の帛を以て(一)角ちがへに絡めぐらして披て、緋の帛を以て面を覆ふて、弟子をして(二)薩埵金剛の印を結ば令め、此の心を以てせよ。

三摩耶薩怛鑁一句二合

則ち二中指を以て華鬘を持せ令め、此の心眞言を以て入ら令めよ、三摩耶吽と入れ已て、是の言を作すべし。

阿伊也二合薩怛鑁三、薩嚩怛他蘗多、句嚩鉢囉、尾瑟姹一二合薩跢二合娜悍諦二、嚩日囉二合枳孃二合曩、母怛跛二合那、以使也二合弭三、曳那枳孃二合泥曩、怛鑁四二合薩嚩怛他蘗多、悉地囉避鉢囉二合鉢且嘶五金吉淫切、布曩囉伊也引二、悉馱藥六、囉惹娜、遮怛嚩耶七、涅哩二合瑟吒、摩訶曼拏羅寫八二、嚩羯哆二合、尾閻麼提二合摩諭九、尾也二合剃伊滯丁異切十合

金剛の阿闍梨、自ら應さに薩埵金剛の印を結ぶべし、及び弟子の頂に安て是の言を作すべし。此れは是れ三昧耶の金剛なり、汝が頂を摧くとも説くべからずと、誓水を加持すること一徧して、弟子をして誓水を飲ま令むべし。眞言に曰く、

嚩日羅二薩怛嚩二合、薩嚩延誐一徐耶紇唎那曳二娑麼嚩悉體切以哆三 揑泥逸句 避徐也合二薩怛乞叉二合哺四夜耶徐也徐沒嚕耶徐五難那去聲閻、嚩日路二合娜迦坻六

則ち弟子に告ぐ、今より已後、汝娑跢我を親せんこと金剛手の如くして、我が言ふ應き所を、汝當さに是の如く作すべし。汝我れに於て輕慢すべからず、汝をして災禍を招か令ること勿れ、死し已て當さに地獄に墮すべし。是の語を作し已て、惟し願くは一切如來加持し給へ、願くは金剛薩埵徧入し給へと。金剛の阿闍梨應さに薩埵金剛の印を結て是の言を作すべし。

阿衍怛、三摩欲開口、嚩日嚂一二合、嚩日囉二合薩怛嚩二合弭底、丁以切薩蜜哩三合躭、阿尾捨野都三諦曳嚩嚩日囉二合枳孃曩、摩弩怛藍四嚩日囉二合吠奢嚩五

則ち(一)忿怒拳摧薩埵金剛の印を結て、意に隨て金剛語を以て大乘現證百字の眞言を誦して、則ち(二)阿毗捨せよ、纔に阿毗捨し已て、則ち微妙の智を發生す、此れに由て

(一)忿怒拳摧薩埵二手金剛拳にして二中指相鉤して咒を誦し畢て擊き開く印なり、此の印を摧印とも云ふなり。

(二)阿毗捨此れに徧入と云ふ。

佗心を知り佗心を悟り、一切の事に於て三世を知る、其の心則ち堅固なることを得、一切如來の敎の中に於て悉く一切の苦惱を除き、一切の惡趣を離れ、一切の有情に於て沮壞するもの無し、一切如來加持し給ふ、一切の悉地現前して、未曾有を得て喜悅安樂の悅意を生せん。此の安樂等に由て、或は三摩地を成就し、或は陀羅尼門、或は一切の意願皆滿足することを得、乃至一切如來の體性を成就せん。則ち彼の印を結て以て弟子の心に於て解き、此の心眞言を誦すべし。

底瑟姹、嚩日囉二合涅哩濁銘婆嚩一捨濕嚩覩銘婆嚩二吃唎二合娜閻銘、底瑟姹三薩嚩悉朕亭淫切遮銘、鉢囉二合也車四吽呵呵呵呵斛五

則ち其の華鬘を以て、弟子をして大曼荼羅に於て擲げ令む。此の心眞言を以てすべし。

鉢囉底車嚩日囉二合斛引一句

華の落つる處に隨て、則ち彼の尊成就す、則ち彼の華鬘を取て彼の弟子の頭の上に繫けて、此の心眞言を以てすべし。

唵引一鉢囉二合底仡哩二合紇娜二合、怛嚩二合弭給、薩怛嚩摩訶麼攞三

此れに由て則ち大薩埵攝受して速に成就することを得、入り已て則ち面を解くに此の

心眞言を以てすべし。

唵引嚩日囉二合薩怛嚩二、薩嚩延帝徐也二灼乞芻引二、娜伽吒三曩、怛鉢嗢烏娜伽吒野底丁以切四合
薩嚩乞芻二、嚩日囉二合灼乞芻、囉弩多嗢五合
即ち見の眞言を誦すべし。

係嚩日囉二合波捨一句
則ち弟子をして次第に而も大曼荼羅を視せ令しむ、総に見已んぬれば一切如來加持し護念し給ふ、則ち金剛薩埵彼の弟子の心に住して、則ち種種の光相遊戯神通を見せしむ。曼荼羅を見るに由り如來の加持に由るが故に、(一)或は婆伽梵大持金剛の本形を示現し給ふを見、或は如來を見奉る。此れ從り已後、一切の義利、一切の意に樂ふ所の事、一切の悉地、及至持金剛及び如來を獲得大曼荼羅を示し已て、(二)則ち金剛を以て香水の餅を加持して、弟子の頂に灌ぐに、此の心眞言を以てす。

嚩日囉二合引(三)毗詵遮一句
則ち隨て一の印を以て鬘を繫け、(四)自の幟幟を以て二手の掌の中に於て安して、心眞言を誦せよ。

(一)或は婆伽梵大持金剛加持世界の海會現前なり。
(二)則金剛を以て五股金剛杵なり。
(三)毗詵遮此れに灌頂と云ふ。
(四)自の幟幟五股杵なり。

(一)阿儞也二合毗色羯哆一合薩怛嚩二合麼斯沒代二嚩日囉二合毘篩羯哆三合伊難帝、薩嚩勃馱怛鑁二合吃哩二合紇拏四合嚩日囉二合蘇悉馱曳五唵引六嚩日囉二合地波底怛嚩七麼毘詵遮彌八底瑟吒嚩日囉二、三摩耶薩怛鑁二合九
則ち金剛名を以て灌ぐに此の心眞言に以てす。

唵引一嚩日囉二合薩怛嚩二合左、麼毗詵遮弭二嚩日囉二合曩摩、毗篩羯哆三合係嚩日囉二合麼麼四金剛某甲。
若し弟子の爲に名號を授けば、應さに係を加へて用て之れを呼ぶべし。已に廣く一切の曼荼羅に入る儀則を說つ、則ち弟子に問て言ふべし、汝が愛樂は出生悉地の智なりや、神通悉地の智なりや、持明悉地智なりや、乃至一切如來の智最勝の悉地の智なり耶、彼れの樂ふ所に隨て、應さに之れを說くべし、則ち義利悉地成辨の印智を敎ふべし。

(二)金剛の形の藏に住せるを　當さに心中に於て觀ずべし　觀じ已て地に於て住せば
則ち當さに伏藏を見るべし。
金剛の形を觀じ已て　空中に而も徧く觀ずべし　若し隨て墮る處を見るは　彼れ則ち是れ伏藏なり。

(一)阿儞也云云より駄曳の眞言は、諸佛金剛灌頂儀汝已如法灌頂竟爲成如來體性故汝應授此金剛杵の文の梵語なり。
(二)金剛の形五股金剛杵を云ふ。

金剛の形を舌に於て　智者應さに是れを觀ずべし　自ら此の處に有りと言ふべし
語り已て眞實と成らん。
金剛の形を一切にして　當さに自身を觀ずべし　徧く入て彼こに於て落れば　其處
是れ伏藏なり。
彼れ等の心眞言に曰く、
嚩日囉二合儞地一囉怛曇二達磨儞地三羯麼儞地四
次に應さに金剛悉地を成辨する印智を敎ふべし。
金剛に入て生じ已て　(一)水に金剛の形を成す　觀速に成就するに由て　水上に於て
遊行す。
復金剛を生じて入らしむ　身の色は自らの形の如し　是の如くなるに於て修習すれ
ば　自然に佛の形の如し。
自身に於て徧入して　自身を空の如しと觀ず　樂ひに隨て修習し已て　則ち(二)安達
怛を得。
金剛自らに入り已て　自ら金剛の如しと觀ず　乃至踊り上り昇て　則ち虛空に行く

(一) 水に金剛の形を成す　水の上に五股金剛杵を觀成する意なり。
(二) 安達怛　此れに曜形と云ふ。

ことを得。
是の如く等の眞言に曰く、
嚩日囉二合惹攞一嚩日囉二合嚕波二嚩日囉二合迦奢三嚩日囉二合麼哈四
次に則ち金剛持明悉地を成辨する印智を敎ふべし。
應さに月の形像を觀ずべし　上み虛空に於て踊り　手に金剛に於て攀れば　金剛の
持明を得。
月輪の上に於て昇り　應さに金剛寶を觀ずべし　淨身の者は欲に隨て　刹那に空に
騰ることを成ず。
月輪に於て昇り已て、手に金剛の蓮を持し　應さに金剛の眼を觀ずべし　則ち持明
の位を得。
月輪の中に於て住して　應さに業金剛を觀ずべし　速に金剛巧を獲、則ち諸の持明
を得べし。
是の如く等の心眞言に曰く、
嚩日囉二合達落一囉怛曇二合達落二播娜磨二合達落三羯磨達落四

(一)速かに念堅固なること念に隨て速かに成ることを云ふ。

次に則ち一切如來の最勝悉地を成辨する印智を敎ふべし。

諸の金剛定に住して　虛空界に於て思はば　樂ひに隨て金剛の身　刹那に空に騰ることを成ず。

諸の淨き等持に住して　最勝に於て修習すれば　五神通を獲得すべし　速疾の智成就す。

金剛薩埵を觀じて　一切の空に於て徧くすれば　(一)速かに念堅固なる事已て　則ち持金剛と爲る。

一切佛の形と成て　虛空に於て觀想すれば　諸佛の等持に由て　則ち正覺を成ずることを得。

是の如く等の眞言に曰く、

嚩日囉二合嚩日囉二合述駄述駄二薩怛嚩二合薩怛嚩二合三沒駄沒駄四

上の如きは是れ一切悉地智を成辨するなり。

次に當さに弟子をして秘密を堪忍する法を持せ令べし、初に且く誓心の眞言を誦ずべし。

唵引一嚩日囉二合薩怛嚩二合二薩嚩延諦儞也二合三吃唎二合那曳平聲四薩摩嚩悉體切丁貝哆揑泥逸切避儞也五怛乞叉喃夜耶六儞也儞沒嚕耶儞難那去聲閻七

則ち是の如くの言を告ぐ、汝此の誓心の眞言を越べからず、汝をして災禍夭壽を招き、此の身を以て地獄に墮さ令ること勿れ、則ち應さに秘密の印智を敎ふべし。

金剛に入り已て　等く引て而も手に　微細の金剛掌を拍つに由て　山石すら尙敬愛す。

次は是れ金剛拍の印なり。

金剛の儀に入り已て　金剛縛して掌を擊つ　微細の掌の法を以てすれば　山石すら尙ほ徧く入る。

上の如きの入の儀を以て　金剛縛を舒べ展て　勝指等く摧くべし　刹那に百族を壞る。

微細徧入の儀　諸の指以て等く引て　金剛縛して解くことを爲せば　能く諸の苦を奪ひ勝つなり。

次に當さに秘密の成就を說くべし。

(一)婆伽に於て身を入れ　女人或は丈夫　一切入り已ると想へ　彼の身を以て徧く舒べ
　合む。
　是の如く等の心眞言に曰く、
　嚩日囉二合嚩苦一嚩日囉二合尾捨二嚩日囉二合訶那三嚩日囉二合訶囉四
　即ち應さに心眞言を授け與へ已て、自らの本尊の四智印を敎ふべし。此の儀則を以て
弟子に告げて言ふべし、汝愼て餘人の未だ此の印を知らざるに於て一印をも指し示す
べからず。何を以ての故に、彼の有情大曼荼羅を見ずして、輙く(二)彼れ等を結べば、
皆成就せず、則ち疑惑を生じて災禍を招き、速に死して無間大地獄に於て墮し、惡趣
に於て墮せん。
　次に當さに一切如來の薩埵成就の大印智を說くべし。
　心智從り應さに發すべし　應さに金剛日を觀ずべし　自らを觀じて佛の形と爲し
應さに金剛界を誦すべし。
　此れに由て纔に成就すれば　智と壽と力と年とを獲ん　一切徧行することを得れば
佛體すら尙ほ難からず。

(一)婆伽に於て身を入れ女人或は丈夫一切入り已ると想へ彼の身を以て徧く舒べの觀なり。

(二)彼れ等を結べば即ち印を結ぶなり。

　此れは是れ一切如來の現證菩薩の印なり。
　次に當さに金剛薩埵成就の大印を結ぶことを說くべし。
　倨傲にして杵を抽擲し　等く金剛慢を持して　身と口と心との金剛を以て　金剛薩
埵と成る。
　此の徧行の印に由て　諸の欲の主として安樂なり　通と壽と力と勝色と　金剛薩埵
の如し。
　(一)三の金剛儀を以て　畫の如く順して修習し　幟幟の印と相應すれば　大薩埵を成
就す。
　我れ今諸の敎の　能成と所成とを說くべし　成就者の大業　我れ今次第に說くべし。
　毎日に先づ時に依り　及び自加持等　作し以て成ずること初の如し　然して後應さ
に意に隨ふべし。
　次に當さに廣く大印成就の儀則を說くべし。
　徧く金剛に入り已て　大印は儀則の如し　身の前に當て應さに結て　大薩埵を思惟
すべし。

(一)三の金剛儀　身口心の三密を云ふ。

彼の智薩埵を見て　應さに自身に於て觀ずべし　鉤召し引入し縛し　喜せ令て成就を作せ。

是の如く等の眞言に曰く、

嚩日囉二合薩怛嚩二合噁一句

此れは是れ金剛徧入の心なり。

嚩日囉二合薩怛嚩二合涅哩舍野二合一句

此れは是れ大薩埵の觀念の心なり。

弱吽鑁斛引一句

此れは是れ大薩埵の鉤召し、引入し、縛し、喜せしむるの心なり。

三昧耶薩怛鑁を誦すべし　徧く背後にして而も月輪に入て　中に於て應さに而も薩埵を觀ずべし　我れ三昧耶薩怛鑁なり。

彼の薩埵の印に隨て　修習して自身に觀せよ　金剛語を以て成じて　能く諸の印を成就す。

弱吽鑁斛を誦して　身中に諸の佛を入る　應さに善思惟を作して　大印をして成就

せ令むべし。

(一)我れ今事業を說かん　金剛の業は無上なり　佛を觀じて成就するに由て　速に佛の自性を獲。

薩埵金剛と成て　諸の佛の主宰と爲る　寶金剛を結ぶに由て　諸の寶の主宰と爲る。

法金剛を成就して　則ち能く佛法を持す　業金剛の印に由て　即ち金剛業と爲る。

(二)金剛薩埵と成ることは　薩埵の印を結ぶに由る　能召の持金剛は　金剛召と相應す。

金剛染の大印は　能く一切の佛を染せしむ　一切の佛を喜ばしむることは　金剛善哉に出る。

佛の灌頂を施し奉ることは　寶印の儀則に由る　速に金剛の光りを爲すことは　金剛光の儀に由る。

金剛幢を持習すれば　則ち一切の願を滿つ　金剛笑の儀に由れば　諸佛と共に戲れ笑ふ。

(一)我れ今事業を說かん以下は大曼荼羅を說く即三十七尊なり中に於て佛を觀じて等は大日、薩埵金剛は阿閦、寶金剛は寶生、法金剛は彌陀、業金剛は不空佛なり。

(二)金剛薩埵至金剛善哉は東方の四菩薩、佛の灌頂至共に戲れ笑ふは南方の四菩薩、金剛法の四菩薩、速に金剛至金剛拳は北方の四菩薩なり、以上は十六大菩薩なり。

(一) 金剛嬉戲至金剛鬘は内の四供養なり。

(二) 皆一切至金剛香は外四供養を明す。

金剛法を持し已ることは　金剛法の儀に由る　諸佛の勝れたる慧を得ることは　金剛利の儀に由る。

金剛輪を持習すれば　則ち能く法輪を轉ず　佛の語言を成就することは　金剛語の儀に由る。

速に金剛業を獲ることは　金剛業を作すに由る　金剛の甲ひを摂き服すれば　金剛身を獲得す。

金剛薬叉を成して　金剛薬叉の如し　一切の印を成就することは　金剛拳を結ぶに由る。

(一)金剛嬉戲を以て　大金剛悅を獲　金剛鬘を結ぶに由て　佛に從て灌頂を獲。

金剛歌と相應すれば　金剛歌を獲得す　金剛舞を結ぶに由て　則ち諸佛を供養す。

(二)皆一切を悅懌することは　金剛燒香に由る　金剛華と相應すれば　諸の群品を敬せしむ。

金剛燈の印に由て　供養するが故に眼を獲　能く一切苦を除くことは　金剛香の儀に由る。

(一) 金剛鉤召至遍入を成すは四攝なり、以上三十七尊なり。

(二) 次に當さに上來大曼荼羅即羯磨會を說き了て以下三昧耶を說く、即三昧耶曼荼なり

(三) 堅固に合掌以下は印母を明す先づ金剛合掌を結び次に外縛に爲すなり。

(四) 堅薩埵　阿閦佛、大と中と等は寶生、指を移して等は彌陀、中指を交へるは不空佛、頭指を中指に附くるは大日にして即五佛の印なり。

(五) 我れ今徧く下は餘の三十二尊の三昧耶會の印契を說くなり。

(六) 月の形　外縛なり。

(七) 勝指　風指なり。

(一)金剛鉤召に由て　能く諸の勝れたる業を作す　能く一切を引入することは　金剛索の儀に由る。

金剛鎖と相應すれば　一切の縛を堪任す　金剛入の儀に由て　能く諸の徧入を成す

(二)次に當さに一切如來の金剛三昧耶の智印を說くべし。

(三)堅固に合掌を結び　諸の指互に交へ結で　名けて金剛掌と爲す　極て結ぶは金剛縛なり。

諸の三昧耶の印は　皆金剛縛より生ず　我れ今結ぶ儀を說く　金剛結は無上なり。

(四)堅薩埵金剛は　中指を堅て針の如し　大と中と寶形の如し　中指而も反し屈む。

指を移して蓮葉の如くし　中指を交へるが如くして合す　頭指を中指に附くるをば名けて第五の佛と爲す。

(五)我れ今徧く如來族の三昧耶の勝印を說くべし。

結するに由て成就を爲す　二手は(六)月の形の如くし　中指を金剛の如くし　餘指は面を著けざるは。

金剛薩埵の印なり　頭を鉤し(七)勝指を交へ　由は彈指の勢の如くせよ　金剛薩埵の

四なり。

此れを衆印等と爲す　寶金剛は頭指　面を合せて而も反し屈む　中と無名と小指と。

舒べ展べて旋らして心に當つ　無名指は幢の如くす　及與び小指を合す　復た笑處に於て住めよ。

則ち彼れ等の印と名く　竪て二大指を齊くして　頭指は屈して蓮の如し　則ち彼の金剛劒は。

中を合して上節を屈す　則ち彼れ無名を齊くし　小指を交へて輪の如し　則ち大指の縛を解け。

舒べ展ること口從り起る　小大指の面を合せて　集會するは業金剛なり　則ち彼れ頭指を齊くして。

心に住めて而も舒べ展べよ　頭指を曲むること牙の如し　小指も亦復然なり　大指を小指の間にして。

頭指を其上に屈せよ　心に於て大指を齊くす　臂を展ぶるを名けて鬘と爲す　掌を勝て口從り散す。

舞を作して頂上に合す　金剛縛にして下だし施す　掌自り而も上げて獻つる　頭指を齊くして相逼めよ。

舒展すること塗る勢の如く　由ほ一の頭指を屈せよ　二頭指を結縛す　大頭の端鎖の如し。

金剛拳の如くにして合す　我れ今能成を說かむ　金剛成は最勝なり　自の印は心に於て住す。

薩埵金剛の定なり　次に事業を作すことを說かむ　金剛業は無上なり　金剛界等の印なり。

如來を集め會するに由て　(一)壇師は弟子に於て　刹那に加持を成す　(二)薩埵金剛を結ぶべし。

則ち持金剛と成る　纔に金剛鉤を結べば　能く一切の佛を召す　欲金剛の儀の故に。

尙ほ等覺者を染せしむ　金剛歡喜に由て　善哉の聲を以て皆喜び給ふ　寶金剛を結ぶに由て。

佛に從て灌頂を獲　金剛日を結ぶに由て　佛の如くに圓光を得　金剛幢を持し已れ

(一)壇師　阿闍梨を云ふ。
(二)薩埵金剛　下十六大菩薩を明す。

ば。

則ち一切の願を滿つ　金剛笑の儀の故に　諸佛と共に等く笑ふ　法金剛の印を持すれば。

法金剛に等同なり　徧く金剛劒を持すれば　慧を得て救世者となる　金剛輪を持習すれば。

則ち能く法輪を轉ず　金剛語に由るが故に　金剛語を成就す　徧く業金剛を持すれば。

金剛業に等同なり　堅く金剛護を作せば　身を成ずること金剛の如し　金剛牙の勝印は。

能く諸の惡魔を摧く　堅く金剛拳を結べば　諸の契印を順伏す　(一)戲に由て喜悅を得

鬘に由ては莊嚴を得　語に由ては語威肅なり　供を得ることは舞に由るが故に　焚香は世を滋澤す。

華に由ては色端嚴なり　燈に由ては世清淨なり　香に由ては妙香を獲　(二)金剛鉤は召くことを得。

(一)戲に由て　下八供養菩薩を明す

(二)金剛鉤　下四攝を明す。

金剛索は入ることを得　金剛鎖は能く縛し　金剛鈴は徧く入る　(一)我れ今法印を說かん。

嚩日囉惹南は(二)佛に通ず　能く堅固の金剛界を作す　次に復我れ今當さに徧く說くべし　法印の勝契は(三)本儀の如し。

三昧耶薩怛鑁二合を誦すれば　一切の印契に主宰と爲る　阿娜耶娑嚩を誦し已れば

則ち能く一切の佛を鉤召す。

阿斛蘇佉を稱誦し已れば　一切の諸佛等を染愛す　娑度娑度是れを語り已れば　皆善哉を以て歡喜せしむ。

蘇摩訶怛鑁を誦し已れば　則ち一切の佛の灌頂を獲　嚕褒你庾多を語り已れば　則ち正法威德の光を獲。

遏佗鉢囉波底を誦すれば　能く一切殊勝の願を滿つ　呵呵吽壑此の笑を作せば　如來微妙の笑を獲得す。

薩嚩迦哩是れを誦し已れば　能く非法を淨めて皆清淨なり　蘇佉掣那を誦し已れば

能く一切の苦を受くる業を斷ず。

(一)我れ今法印下微細會を說く、即法曼荼羅なり、法印とは即眞言なり。

(二)佛に通ず　佛は五佛なり。

(三)本儀の如し　本儀とは三昧耶會の印なり。

沒馱冒地是れを言ひ已れば　曼荼羅に於て主宰と爲る　鉢囉底捨那を誦し已れば
共に諸佛の談語論に預る。
蘇嚩始怛鑁を誦し已れば　一切に徧行するに而も自在なり　你婆也怛鑁を語り已れ
ば　刹那に則ち畏るゝ所無きを得。
捨怛嚕薄乞叉を誦すれば　能く一切の怨敵の者を啖む　薩嚩悉地是れを誦し已れば
一切の妙悉地を獲得す。
摩訶囉底は適悅を得　嚕波輸陛も亦復然り　室嚕怛囉燥佉は樂を得　薩嚩布誓は供
養を得。
鉢囉訶擺你你は悅ぶ　頗擺誐弭は果を獲得す　素帝惹仡哩は光を得　素嚴蕩儗は妙
香を得。
阿夜呬弱は鉤召を成す　阿呬吽吽は能く引入す　係薩普吒鑁は大きに得　健吒嚩嚩
は震動せしむ。
我れ今法印を說きつ　成就して淸淨ならめよ　舌に於て(一)金剛を觀じ　能く諸の事
業を作すべし。

(一)金剛を觀じ五股杵なり。

(一)次に羯磨の印を說かん　羯磨會の印なり。
(二)金剛拳の印を說く　外縛なり。
(三)右の手を左に於て安く　智拳印なり。

(一)次に羯磨の印を說かん　應さに(二)金剛拳を結ぶべし　等く引いて而も兩つに分て
二の金剛印を成ず。
次に則ち結縛を說かむ　持して金剛指を作して　(三)右の手を左に於て安く　此の印
を覺勝と名く。
能く佛の菩提を與ふ　不動佛は觸地なり　寶生は施願の印なり　無量壽は勝定なり。
不空は施無畏なり　次に今當さに徧く說くべし　羯磨の印の次第なり　金剛薩埵等
は。
能く金剛業を轉ず　左は慢にし右は抽擲す　鉤を持する勢に安住す　相應して射る
法の如くす。
善哉の心に於て住す　二の金剛を灌頂にせよ　心に於て日形を示す　右の肘を左の
拳に住せしむ。
二の掌を反して口に於てす　左は蓮右は開く勢にす　左は心にして劒を以て殺害す
旋轉すること火輪の如くす。
金剛の二を口に於て散す　金剛舞を兩つの頰に　旋轉して頂に於て住す　甲冑をし

(一) 金剛鬘　鬘の字は慢なるべし、和本既に然り。

(二) 我れ今金剛業三十七尊の悉地成就を説くなり。

(三) 次に羯磨の印下羯磨會の印の功德を説く。

小指を牙にす。

二つの拳を而も相ひ合す　應さに(一)金剛鬘を以てすべし　頂禮して意に戰悚すべし

鬘を繫け口に於て下より寫す。

旋轉して金剛舞にす　金剛拳の儀を以て　應さに燒香等を獻つるべし　一切の佛の

供養には。

供養の印を分別すべし　小指互に相ひ鉤し　頭指は大なる鉤の如し　索の如くし二

つを鎖の如くす。

手を背けて而も相ひ逼む　(二)我れ今金剛業　作等を成就することを説くべし　應さ

に羯磨金剛を。

心に於て而も修習すべし　(三)次に羯磨の印を説くべし　金剛業は種種なり　智拳を

結ぶに由るが故に。

能く佛智に徧入す　阿閦毗を結ぶに由て　傾動無きことを獲得す　寶生の印を結ぶ

に由て。

能く他に於て攝受す　法輪印を結ぶに由て　則ち能く法輪を轉ず　無畏の勝に由て

速に。

有情に無畏を施す　堅く金剛慢を作せば　金剛薩埵樂む　金剛の鉤召に由て

刹那に諸佛を集む　金剛箭は染せ令む　尙は能く金剛妻たり　金剛喜は諸の佛

咸く善哉の聲を施す　大金剛寶を結べば　師に從て灌頂を受く　徧く金剛日を持す

れば。

金剛日の如くなることを得　金剛幢旛を竪て　則ち寶の雨を雨すことを得　徧く金

剛笑を持すれば。

速かに佛と平等に笑ふ　徧く金剛華を持すれば　則ち金剛法を見る　堅く金剛劒を

結べば。

能く一切の苦を斷ず　徧く金剛輪を持すれば　能く法輪に於て轉ず　所有諸佛の語

は。

成ずるに金剛語を以てす　金剛舞を供養すれば　尙ほ佛をして順伏せしむ　金剛甲

を持するに由て。

金剛堅實を獲　徧く金剛牙を持すれば　尙ほ能く金剛を壞る　金剛拳は能く奪て。

印の成就を獲得す　金剛喜は悅を得　金剛鬘は妙色なり　金剛語は妙語なり。
金剛舞は順せ令む　香を以てすれば意悅び懌しむ　華を以てすれば一切を奪ふ　燈
供は大に熾盛なり。
金剛香は妙香なり　金剛鉤は能く召す　金剛索は能く引く　金剛鎖は縛せしむ。
金剛聲は動せ令む。

我れ今廣く一切の印の都結の儀則を說かむ。
先づ當さに金剛縛にして、自心を摧き拍て心眞言を誦すべし。曰く、
嚩日囉二合滿馱怛囉二合吒一句
則ち一切の印の縛は自の身口心の金剛に於て自在なることを得て、即ち金剛徧入三昧
耶の印を結んで、此の心眞言を誦せよ。唵。
則ち徧く阿尾捨を成ずること親友の如し、加持するに則ち三昧耶の印を以て大薩埵を
想念して、此の心金剛眞言を誦せよ。
摩訶三昧耶薩怛無毛切一哈二
此の眞言に由て、一切の印皆成就することを得、此れは是れ一切印の成就の廣儀則な
り、我れ都廣の儀則を說く。初に自印を結び、結び已て自印の薩埵を自身と觀じて、
此の心眞言を以てすべし。
三摩庾哈一句
則ち自印の薩埵を自身と觀じ已て、此の眞言を以て加持すべし。
三麼耶薩怛嚩二合一地瑟姹薩嚩哈二
則ち然して後に應さに此れは是れ成就の儀則なり。
次に初に義利の成就を求めんと欲することを說かん、此の眞言を以てす。
遏佗悉地一句
此の眞言に由て、意に隨て金剛の成就を得。
次に金剛悉地の成就を說く、此の心眞言を以てす。
嚩日囉二合悉地一句
次に持明の成就を說く、此の心眞言を以てす。
嚩日囉二合尾儞也二合達囉一句
此れに由て意に隨て即ち持明の成就を得、最も勝れたる成就を求めんと欲せば、自印

の眞言を以て、當さに成就を求むべし。

我れ今一切都て自の身と口と心との金剛の中に作さ令ることを說かん、金剛の儀軌の如し。若し印を以て緩慢を加持し、若し意解せんと欲はば、則ち此心眞言を以て堅固なることを作さしめよ。眞言に曰く、

唵引嚩日囉二合薩怛嚩三摩耶麽弩跛引攞耶二嚩日囉二合薩怛嚩二合怛尾怒跛底瑟姹二合三揑哩二合濁寐婆嚩四蘇覩使庚寐婆嚩五阿弩囉羯覩二合寐婆嚩六蘇布使庚寐婆嚩七薩嚩悉朕寐鉢囉二合也車八薩嚩羯麽素者寐九質多室哩樂矩嚕十吽呵呵呵呵斛引一婆誐梵十二薩嚩怛佗孽多嚩日囉二合摩弭悶遮十三嚩日哩二合婆嚩十四摩訶三摩耶薩怛嚩二合噁十五

此の眞言に由て、設ひ無間の罪を作り、一切の如來及び方廣大乘の正法を謗り、一切の惡を作るとも、尙ほ一切如來の印を成就することを得ることは、金剛薩埵の堅固の體に由るが故なり。現生に速疾に樂に隨て、一切の最勝の成就を得ん、乃至如來の最勝の悉地を獲得すべし。婆伽梵一切如來、金剛薩埵是の如くの說を作し給ふ、(一)我今都て一切の印の解脫の儀則を說くべし。彼彼從り出生する所有一切の印は、彼彼に於て當さに解くべし、此の心眞言に由る。

(一)我れ今都て是れ即撥遣作法を說くなり。

嚩日囉二合(一)穆一句

自心從り金剛寶印を起して、灌頂の處に於て安じ、勝指を以て自ら灌頂せよ、手を分て頭ぺに纏ひ髻を繫けしめよ、次に甲冑を結て此の心眞言を以てすべし。

唵引一嚩日囉二合囉怛曩二合毗訖者給二薩嚩母捺囉二合銘捺哩二合稗矩嚕三嚩日囉二合迦嚩制那鑁四

被甲し已て以て掌を齊くして拍ちて歡喜せしむ、此の心眞言を以てす。

嚩日囉二合覩使耶斛引一句

此の心眞言に由て　縛を解て歡喜を得　金剛の體を獲得して　金剛薩埵の如し。

一徧金剛薩埵を誦して　意の愛樂に隨て安樂に住す　幾に誦するに皆速かに成就することを得　金剛手の說く所の如し。

婆伽梵普賢是の如くの說を作し給ふ。

金剛薩埵等の薩埵は　一切成就して事業を作す　意に隨て念誦すれば此の中に於て諸の事業に於て速かに成就す。

眞言と心印と及び諸の明と　樂ひに隨て諸の理趣を修習す　敎の說く所と及び自ら作すに於て　皆成就を得ること一切に徧せり。

(一)穆　穆なるべし。

次に四種の秘密の供養を說くべし、應さに作すに此の金剛歌詠の眞言を以てすべし。

(一)唵引嚩日囉二合薩怛嚩二合僧孽囉二合賀一嚩日囉二合囉怛曩二合麼努怛嚂二合嚩日囉二合達摩誐耶奈引三嚩日囉二合羯磨迦嚕婆嚩四

曼荼羅の中に方て、此の金剛讃詠を以て、而も歌ふて金剛舞を以てす、二の手掌と及び供養の華等を以て供養を作すべし、外曼荼羅に於て金剛香等を供養し已て本處に於て安じて、一切力に隨て而も供養し、一切の如來に啓白し意に隨ふ香等を供養し、已に曼荼羅に入ては、力に隨て以て大曼荼羅に獻つれ、一切の滋味の飲食と安樂等の一切の資具とを充ち足らはして受用せしめよ。應さに一切如來の成就し給へる金剛の禁戒を受け與ふべし。

此れは是れ一切の佛の體性　金剛薩埵の手に於て住す　汝今應さに常に當さに而も金剛薩埵堅固の禁を受持すべし。

唵引一薩嚩怛佗孽多悉地二嚩日囉三合摩耶　底瑟吒二合三駅沙怛鑁二合駄囉夜弭四嚩日囉二合薩怛嚩二合四四四四吽。

即ち各各に復告げて言く、餘人に於て說くこと得ること勿れと、則ち誓心の眞言を誦

(一)唵引嚩日囉二合薩怛嚩二合僧孽囉二合賀一嚩日囉二合囉怛曩二合麼努怛嚂二合嚩日囉二合達摩誐耶奈引三嚩日囉二合羯磨迦嚕婆嚩四

すべし。先さに已に入らん者は、一切の如來に啓白して、薩埵金剛の印を結び、下も從り上に向て解て此の眞言を以てすべし。曰く、

唵引訖里二合都嚩、薩嚩薩怛嚩二合、嚩佗悉地捺多二也、佗弩誐孽車駄梵二合三沒駄微灑閻四補那囉誐囉也都五嚩日囉二合薩怛嚩二合穆六

是の如く一切の曼荼羅に於て三昧耶の勝印を而も解くことを作すべし。

國譯金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大敎王經卷下終

音釋

晤　五故切　明なり。跛　補火切なり。曬　所賣切なり。詵　疏臻切なり。坼　取格切なり。幖幟　幖は卑遙切、幟は昌志切、並に旗の類なり、㨨擲　㨨は初尤切、擲は直隻切なり。擾　胡慣切、貫なり。褒　博毛切なり。蕣　乃豆奴沃二切なり。掣　敕列切なり。啖　徒濫切、食なり。頰　古協切、面旁なり。閲　初六切なり。

乾八、縮図二、藏十六奎七、

(一)是の如く序文なり中に於て初に通序。
(二)天女使　定門の尊なることを示す。
(三)微細　三十七尊各各の三密相互に渉入する故に微細の法身と云ふ。
(四)十地を超過　法身内證の境界は因人の知る所に非る義を示す。
(五)各五智　三十七尊各各の五智なり。
(六)五億　各具五智無際智の故なり又心數心王過刹塵の故に俱胝微細と云ふ。

國譯金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經卷上

唐南天竺國三藏沙門金剛智　譯す

序品第一

(一)是の如く我れ聞きき、一時薄伽梵金剛界の遍照如來、五智の成ずる所の四種法身を以て、本有金剛界自在大三昧耶自覺本初大菩提心普賢滿月不壞金剛光明心殿の中に於て自性の成ずる所の眷屬金剛手等の十六大菩薩と、及び四攝行の(二)天女使と金剛内外の八供養の金剛天女使と與なりき。各各の本誓加持を以て、自ら金剛月輪に住して、本三摩地の幟幟を持せり。皆以て(三)微細の法身祕密の心地なり、(四)十地を超過して身語心は金剛の如くなり。(五)各五智光明峯の杵に於て、(六)五億俱胝の微細の金剛を出現して、虛空法界に遍滿す。諸地の菩薩も能く見ること有ること無く、俱に覺知せば、熾然の光明と自在の威力とあて、常に三世に於て不壞の化身を以て、有情を利樂すること時として暫くも息むことなし。金剛の自性と光明の遍照と、清淨にして不染なると、種種の業用とを以て、方便し加持して有情を救度せんとして金剛乘を演べ給ふ。唯一

(一) 此の甚深以下別序なり、教主法身の説法を攝し、流出の眷屬を攝し、遠く未來實類の機を攝することを明す。

(二) 爾時に以下正宗分なり、三十七尊明なり、就て其次第淺深又深淺なるは雜亂の次第なるに非ずして俱時圓滿本有なるは義の顯す、又初に慧門の十六大士を擧げ、後に定門の十六大士を擧げ、中間に四佛を安く、大士は慧の不二なる顯す、最後に三大日を擧ぐるは、十六尊皆大日の差別智印にして、大日に皈す深旨を示す。

(三) 虛空に於て擲ぐ　修生顯得上轉の義。

(四) 還て手中に住す　還同本覺の義

(イ)(ロ)(ハ)(ニ) 東方四親近に四佛の種子を用ゆること因即是果の義を顯すなり。

の金剛のみ能く煩惱を斷ず。(一)此の甚深祕密の心地、普賢自性の常住法身を以て、諸の菩薩を攝し玉ふ。唯し此の佛刹は、盡く以て金剛の自性清淨なるに成せられたる密嚴華嚴なり。以て諸の大悲行願圓滿せると、諸の有情の福智の資糧の成就する所なり。五智の光照を以て常に三世に住して暫くも息むこと有ること無き平等の智身なり。

(二) 爾時に普賢金剛手等の十六大菩薩、定從り而も起て遍く虛空を照す、金剛自性の成辨する清淨の光明なり。同聲に偈を以て讃して曰く、

大日は金剛の峯の如く　微細にして住すること自然なり　光明の常に遍く照すと不壞なると清淨なると業となり。

此語を説き已る時に、金剛手菩薩右の手に持する所の五峯の金剛を以て(三)虛空に於て擲るに寂然一體にして(四)還て手の中に住するとき、此の金剛を説て曰く、(イ)吽引。

時に金剛王菩薩持する所の鉤を以て虛空に於て擲るに、寂然一體にして、還て手中に住するとき、此の摩尼を説て曰く、(ロ)怛嗒二合

時に金剛染菩薩、金剛白蓮を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の蓮華を説て曰く、(ハ)紇哩以二合

(一) 金剛稱は契稱の義、法身に契稱せしむる故に亦喜とも云ふ、大喜法身に證して大喜を生ずしむる故に

(二) 金剛箜篌首に三鈷杵を附けたるなり。

(イ)(ロ)(ハ)(ニ) 南方四親近に四攝の種子を用ゆるは南方は寶部萬德を集む、四攝は鉤召萬德引入等の故に集聚に合ふ。

(三) 幢旗　竿頭に寶珠を安きたるはタボコを寶幢と云ふ、之れにかけたる旗なり。

(四) 金剛旛　頭に龍頭ある竿にかけたる旛を云ふ。

時に(一)金剛稱菩薩、(二)金剛箜篌を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の羯磨を説て曰く。(三)惡。

時に四大菩薩、同聲に金剛界の如來に告げ奉て言く、我れ今此の神通を現ずることは一切の有情の本性を動かして開顯し、彼の愚童を鉤召して諸佛の妙法を染愛して、本有の法身を成就せしめんが爲めの故なり。

時に虛空藏菩薩、復手中の寶缾を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に來るとき、此の金剛藏を説て曰く。(イ)惹。

時に金光菩薩、手中の日輪を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に來るとき、此の金剛光を説て曰く。(ロ)吽引。

時に虛空旗菩薩、手中の(三)幢旗を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に來るとき、此の金剛旗を説て曰く。(ハ)鑁。

時に虛空笑菩薩、手中の(四)金剛旛を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に來るとき、此の金剛旛を説て曰く。(ニ)鵠。

時に四大菩薩、同聲に金剛界の如來に告げ奉て言く、我れ今此の神通を現ずることは

一切の有情を鉤召して法界に入れしめ、索を以て金剛場に引至し、鑽を以て諸の藏識を堅くして、鈴を以て彼の性を適悅して快樂ならしめんと欲するが爲の故なり。

時に觀自在菩薩、手中の鏡を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の金剛智を說て曰く。(イ)阿上聲。

時に妙吉祥菩薩、手中の(一)鉢惹爽を以て虛空に擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、摩尼行を說て曰く。(ロ)阿引。

時に轉法輪菩薩、手中の輪を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の蓮華定を說て曰く。(ハ)暗。

時に金剛言菩薩、手中の螺を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の羯磨を說て曰く。(ニ)噀引。

時に四大菩薩、同聲に金剛の如來に告げ奉て言く、我れ今此の神通を現ずることは、一切有情の本有不生の性を開かんと欲するが爲の故に、萬行を修行して滿足せしめんが爲めの故に、大菩提を成就せしむるが故に、不動如如智に入るが故に。

時に金剛業菩薩、手中の綠寶を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)西方の四親近に胎の四佛の種子を以てするは、是れ亦因即果の深旨を顯す、胎は因曼荼羅の故に。

(一)鉢惹爽　般若經の梵夾なり。

住するとき、此の瑜伽を說て曰く。(イ)伊去聲。引

時に金剛護菩薩、手中の傘蓋を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の瑜伽を說て曰く。(ロ)伊引。

時に金剛盡菩薩、手中の摩羯の首を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の瑜伽を說て曰く。(ハ)汙。

時に金剛持菩薩、手中の月輪を以て虛空に於て擲ぐるに、寂然一體にして還て手中に住するとき、此の瑜伽を說て曰く。(ニ)奧上聲。

時に四大菩薩、同聲に金剛界の如來に告げ奉て言く、我れ今此の神通を現ずることは一切の法を出生して、一切の有情をして其れに隨て受用せしめんと欲するが爲め、如來の三身を成就せしめんと欲するが爲め、法界に遍周して一切の有情の身を成就せしめんと欲するが爲め、生死の中に於て自在の樂を得しめんと欲するが爲の故なり。

時に四方の如來、一切の如來の本有金剛の性を現證せしめんと欲するが爲の故に、同聲に四種の一字心密眞言を說て曰く。(一)吽引。

時に四波羅蜜菩薩、一切の有情を利益し、大悲行願を修行せしめんと欲するが爲の故

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)北方の四親近に伊引汙の奧の行の摩多を用ゆるは、行即涅槃の果なることを顯す、前には因果不二の義を示し今は行果不二の義を示すなり。因行果皆本有の故に

(一)四佛の眞言に吽字を以てするは四佛は果中の因なる義を顯はして金剛薩埵の種字を用ゆるなり。

(二)四波羅蜜に唵字を用ゆるは、唵は能生の母の義あり、四波は諸佛能生の父なる故に。

に、同聲に此の四種の一字心方便瑜伽を說て曰く。(二)唵。

時に內供養の天女使者、如來の內の神通遊戲の喜鬘歌舞等の供養を顯さんと欲するが爲に、同聲に此の四種の一字金剛心を說く。(一)鶻。

時に外供養の天女使者、一切有情をして諸行速に圓滿することを得せしめんと欲するが爲の故に、此の四種の一字心を說く。(二)吽引。

時に四門の使者天女、一切の有情を攝入して、法界宮に至らしめんと欲するが爲めの故に、同聲に此の四種の一字心を說く。(三)吽引。

時に金剛界の如來、復た窣覩波法界普賢一字心密言を說て曰く。(四)鑁。

(五)爾時に金剛界の如來、復た金剛手に告げて言く、若し善男子善女人有らんに、此の深密瑜伽金剛、一切如來大勝金剛心瑜伽を受持して、三十七尊の自覺聖智を成就せんとする者は、應さに金剛界の中の三十七の羯磨の印を用て成就すべし。常に當さに(六)普賢菩薩一字心の明を持して、出入の息と與に氣に隨て相應すれば、身語意の金剛の智、當さに速かに之れを獲て速かに普賢薩埵の身を證すべし、此れを普賢金剛薩埵の三昧耶、三十七智深密相應と名くるなり、大阿闍梨應さに此の法を作すべし、若し諸の阿闍梨、曾て金剛界の大灌頂に入り、及び金剛界の阿闍梨位を受けたらん者は、(一)應さに此の法を修すべし。(二)常に一字を以て齊く三業を連べ、當さに大普賢薩埵の身を獲得すべし。爾時に金剛界の普賢如來、偈を以て讃して曰く、

(三)本有金剛の性と　光明遍照の王と　清淨妙蓮の染と　無爲にして而も業を作すと
金剛の鉤召を起すと　熾盛に三界を威すと　無智の暗を決除すると　金剛の甲鎧を
被ると。
染欲と諸の有情を　安樂行をもて饒益すると　機に隨て法輪を轉ずると　盡く諸の
蓋障を除くと。
稱讃して歡喜せしむると　戲笑して悅意を獲せしむると　言を離れて我れ能くする
所なると　三業に常寂を持すると。

(四)持明阿闍梨　十六義を思惟して　一字心密を誦すれば　三十七圓滿す。
常に此の讃王を持して　(五)大羯磨の印を結び　一字心の明を以てすれば　三十七圓
滿す。
若し曼荼羅を作り　及び瑜伽の像を畫くには　窣覩波の印を結て　明を誦して四處

(一)內の四供に鶻字を用ゆるは、內の四供養なり、身分の供は暴流の二執を脫したる三業を以て供養する意なり。
(二)外の四供は身外の色法の供養なり、然るに識大の種子吽を以て種子心不子とするは、色心二の義を顯す。
(三)四門の四攝に長の重體の吽字を種子とするは、一切の有情を攝入するは四攝の三昧なり、上の吽は能攝の佛、下の吽は所攝の衆生にして生佛不二の義を顯す。
(四)大日の種子に鑁字を以てするは此の經の源底灌頂の骨目は只此の大事にあり、更に問へ。
(五)爾時に金剛界上來は三十七尊の一字心を說き畢て、自下は一字心を持するに就て羯磨印を結ぶべきことを明す、中に於て長行と偈頌とあり。
(六)普賢菩薩一字心　鑁の明なり。
(一)應さに此の法　通じては外五鈷印に三十七尊一字心の明、別しては當經の印信なり。
(二)常に一字　宗の骨目法の肝心、唯此文にあり、更に問へ。
(三)頌の中初の十六句は智門の十六大士を讃す。
(四)持明阿闍梨の所作下は阿闍梨の所作を明す。
(五)大羯磨の印　外五股の印なり。

を加せよ。

普賢三昧耶をもて　進力を屈して鉤の如くせよ　檀慧と禪智とを合すべし　是れを彼の大印と名く。

次に一字の明を誦せよ　大羯磨の印を結て　時時に間斷せざれば　三十七圓滿す。

一切如來金剛最勝義利堅固染愛王心品第二

爾時に世尊、復た(一)馬陰藏三摩地に入り玉ふ。一切如來幽隱玄深にて寂靜熾燃なり、光明勇猛忿怒威峻なり、獅子の吼るが如くなる音、震動すること電の掣が如し、天鼓自ら鳴る、香象王の聲、大金剛の聲、大商佉の聲、是の如く等の聲を作す。

時に金剛界の如來、金剛手等に告げて言く、金剛手眞言あり、一切如來金剛最勝王、義利堅固染愛王の心眞言と名く。一切の瑜伽の中に於て、最尊最勝にして速かに悉地を獲、能く一切の見る者をして皆、父母妻子の想を生せしむ、所作の業皆成就すること

(一) 馬陰藏　秘密語なり如實知自心を云ふ。

を得、持する所の餘の眞言、若しくは佛頂部及び諸の如來部と、蓮華部と、金剛部と、寶部と、羯磨部等と、皆能く彼れ等の眞言を持誦するに速かに成就せしむ。若し眞言行人持して(一)三十萬徧を經れば、一切の眞言主及び金剛力の大漫拏羅王、皆悉く集まり會して一時に成就を與へて、速かに大金剛の位乃至普賢菩薩の位を得せしむ。

爾時に世尊復た頌を說て曰く、

(二)二手金剛拳にして　相ひ叉へて內に縛を爲せ　直く忍と願とを堅てゝ針の如くにせよ　相ひ交へて即ち染を爲せ。

是れを根本の印と名く　若し此の眞言を持し　及び密印の力を以て　心と額と喉と頂とを印すれば。

(三)金剛頂の身の如し　一切の諸の罪垢　纔かに結べば即ち當さに滅すべし　若し寂灾と增益と。

愛敬と降伏とは　其の所愛の者に隨て　纔かに此の眞言を誦すれば　彼れ即ち當さ

(一) 三十萬徧　身口意の三密因根究竟の三句を表す、即本有俱生障等の三障を斷じて三部曼荼羅を開顯す。

(二) 唵引摩訶引囉誐囉日囉二合瑟捉合沙囉日囉二合薩怛囉二合惹引吽引鑁斛引　愛染明王の根本の眞言なり。

(三) 二手金剛拳　愛染明王根本の印即ち弓に箭を加へたる印なり。

(四) 金剛頂の身　愛染王の身を云ふ

に獲得すべし。

若しは毒若しくは相ひ憎まんに　纔かに結誦せば當さに息むべし　食を加持すること七徧せば　我れ當さに甘露を降すべし。

攝一切如來大阿闍梨位品第三

爾時に金剛界の如來、復た一切如來の(一)眼色如明照三摩地に入り玉ふ、復た攝一切阿闍梨行位の眞言を說て曰く、

唵引嚩日囉二合素訖史麼三合摩訶引薩怛嚩二合吽吽。

若し眞言行者、此の明を持して、日日誦持すること、(二)一月の所を經ば、是の一切の阿闍梨の修行する所の、法事と、一切の智慧と、通達せる義利と、善巧方便とを、速かに當さに獲得すべし、即ち一切如來の爲に常に應さに覆護せらるべし。金剛薩埵常に親友と爲て、常に行人の心中に住して、憶ふ所の處に便ち至らん。更に請召及以印契眞言等を勞せず、若し常に此の眞言を持すれば、一切の諸明悉く皆成就せん、諸の持明仙常に小使と爲らん、焰魔王と、水天と、火天と、風天と、主藏天と、大自在天と、那羅延天と、帝釋天等も、常に使者と爲て須ゆる所を供給せん。一切の意願速かに獲

(一) 眼色如明照佛眼の三摩地なり

(二) 一月の所一月の間に於て四種法同時成就を明す

ること久しからずして、當さに大金剛阿闍梨の位(一)法性大日の身を得べし。一切の見る者皆悉く足を禮して降伏し歡喜せん。其印は定と慧との手を以て、肘を屈して、上に向けて、合掌して肩と齊くして、各各戒と忍と方と願とを屈して掌に入れよ。或は坐し或は立ちても皆成就せん。

金剛薩埵(二)冒地心品第四

爾時に世尊、復た一切有情の本有の金剛の光明、遍く照し淸淨にして染らず、本來寂靜にして常に恒に三世に休息することあること無き、金剛堅固の薩埵、眞實大覺の本來寂然にして熾盛にして、一切の有情の金剛平等の性を觀ることを說き玉ふ。即ち金剛薩埵の菩提心の明を說て曰く、

唵引嚩日囉二合句舍沒馱涅哆吽。

金剛手若し此の眞言を持することある者は、即ち當さに諸の佛に親み近づきて長子たるべし、普賢の中に於て亦上首たらん。若し日日に此の眞言を持すること七遍すれば、即ち當さに現世に諸佛に替て現生に有情を救度すべし、大金剛薩埵と名けん。亦大覺本有金剛と名けん。若し側らに近く金剛界場、及び大悲胎藏、幷に諸部の道場を置く

(一) 法性大日大日を以て法性法身と爲す典據なり。

(二) 冒地心品此の品金剛薩埵の菩提心の明を說く故に冒地心と云ふ。

者あらんに、若し此の眞言を誦すれば、彼の諸の漫拏羅王悉く皆親み近づきて、持明の行者を尊敬せん。何を以ての故に、能く諸の如來の行願を修する力を以ての故に、諸の佛の行に替て有情を救度することを行ずる故に、能く諸の佛と共に同く行願を行じて、一切の法に於て平等の薩埵なるを以てなり。其の印は二手内に相ひ叉へて各各禪と智とを以て、進と力とを捻せよ。

金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經愛染王品第五

爾時に金剛手、復た佛に白して言く、世尊我れ今更に愛染王の、一切如來共に雜法の悉地を成就すると、及び畫像の法とを說かん。(一)扇底迦と、(二)布瑟置二合迦と、(三)嚩始迦囉拏と、(四)伽多耶と、(五)阿毗左嚕迦との法等なり。爾時に遍照薄伽梵、金剛手に告げて言く、我れ已に一切如來の所に於て、曾て修行せしことを說く。汝今諸の末法の世の中の善男子善女人等の爲に、廣く說て利樂せよ。時に金剛手、偈頌を以てして曰く、

(六)(七)白月の鬼宿に於て淨らかなる　(八)白の素氎を取て　愛染金剛を畫け　身の色日の暉りの如く。

熾盛なる輪に於て住せり　三目にして威怒に視る　首の髻りに師子の冠りあり　利

(一)扇底迦　息災法。(二)布瑟置迦　增益法。(三)嚩始迦囉拏　敬愛法なり。(四)伽多耶　敬愛中の鉤召法。(五)阿毗左嚕迦　調伏法。(六)頌の中初に形像を明す。(七)白月の鬼宿合宿際に當る即定慧不二を表す。(八)白の素氎　本有菩提心を表す。

毛にして忿怒の形なり。

又五股鈎を安いて　師子の頂きに於て在らしめよ　五色の華鬘を垂れ　天帶耳に於て覆へり。

左の手には金の鈴を持し　右には五峰の杵を執れり　儀形は薩埵の如し　衆生界を安立す。

次の左には金剛の弓　右には金剛の箭を執れり　衆星の光を射るが如く　能く大染の法を成す。

左の下の手には彼れを持し　右には蓮をもて打つ勢の如くにす　一切の惡心の衆速かに滅することは疑ひあることなし。

諸の花鬘の索を以て　絞へ結んで以て身を嚴り　結跏趺坐を作して　赤蓮花に於て住せり。

蓮の下に寶瓶あり　兩の畔りに諸の寶を吐けり　(一)像を造て西に於て安きて　行人の面を西に對せよ。

(二)大羯磨の印を結び　及び根本の明を誦せよ　兼て(三)三昧耶と　(四)一字心の密語を

(一)像を造て以下供養の作法を明す。(二)大羯磨の印　根本の箭の印なり　(三)三昧耶　外五股印。(四)一字心　下に出す五字の明。

(一)薩縛訥瑟吒　一切惡心の衆。
(二)孽囉　鬼の類。孽囉訥の下異本に速滅無時方刹那不復生又取彼那磨置於師子口の四句あり。
(三)五指　一指量は五分又は七分。

示すべし。

能く成し能く斷じ　一切の惡心の衆を滅す　又金剛界の　三十七の羯磨を結び。
及び本業の明を以てすれば　速かに百千事を成す　(一)薩縛訥瑟吒　及び諸の(二)孽囉
訥。
忿怒降伏の如く　一夜に當さに終り竟るべし　大根本の明を誦し　三昧耶の印を結
べ。
又伽跋耶ならしめんには　紅蓮花の藥を取て　一百八護摩せよ　一宿に即ち敬愛せ
む。
又彼れを攝伏せしめんには　白檀香を取て　金剛愛染王を尅むべし　(三)五指をもて
量等と爲す。
長く身に於て帶して藏せ　一切の有情類　及び諸の刹利王　攝伏せらるること奴僕
の如し。
常に羯磨印を結て　大根本の明を誦すれば　一切の福を增益して　堅固なること金
剛の如し。

(一)那摩　名字なり。
(二)頂行　吐那耶迦の一種なり。
(三)惡種の惹　惹は王の梵語、具には羅惹と云ふ。

若し七曜命業　胎等の宿に陵逼せば　彼の形と(一)那摩とを書いて　師子の口に於て
置け。
念誦すること一千八せよ　速かに滅して復た生せず　乃至釋梵尊　水と火と風と焔
魔と。
(二)頂行の惡類と　疾く無邊の方に走らん　一切の(三)惡種の惹と　淨行の苾芻衆と。
調し難き毒惡の龍と　那羅延と自在と　護世の四天王と　遠かに除て命を失せしむ。
復愛染王の　一字心の明を說て曰く、
吽引吒枳吽引惹入聲
復根本の印を說かん　二手金剛縛にして　忍と願と堅て相ひ合て　二風を鉤の形の
如くせよ。
檀と慧と禪と智とを　竪て合て五峯の如くせよ　是れを羯磨の印と名く　亦は三昧
耶とも名く。
若し纔かに結ぶこと一遍し　及び本眞言を誦すれば　能く無量の罪を滅し　能く無
量の福を生ず。

扇底迦等の法　四事速かに圓滿す　三世三界の中に　一切能く越ゆるもの無けん。
此れを金剛王と名く　頂の中に最勝なり　金剛薩埵の妻とも名く　一切の諸佛の母
なり。
復た扇底底迦の　五種の相應印を說かん　戒と方と掌に入れて交へよ　禪と智と相
ひ鉤して結べ。
檀と慧と合て針の如くせよ　忍と願と竪てて相ひ捻せよ　進と力と各偃け竪よ　是
れを寂灾(ジャクサイ)の印と名く。
進と力とをもて忍と願とを捻して　四指の頭並て齊くすべし　是れ布瑟置迦(ホシチギヤ)の　(一)
母捺羅(モダラ)大印なり。
進と力とをもて蓮葉の如くする　印をば伽跢耶(カタヤ)と名く　進と力とをもて忍と願との
上節を捻して感(つまめ)て三角にせよ。
阿毘左嚕迦(アビシヤロキヤ)には　當さに此の密契を用ゆ　進と力とを屈して鉤の如くにして　誦す
るに隨て而も招き召くは。
金剛(ワウク)(二)央俱施(シ)なり　一切の時に作業(ザウ)せよ　大染金剛頂の　五の密印說くこと竟ぬ。

(一) 母捺羅　印と云ふ。

(二) 央俱施　鉤召なり。

一切佛頂最上遍照王勝義難摧摧邪一切處瑜伽四行攝法品第六

爾時に金剛手、復た一切の處に相應せざることなき眞言を說て曰く、
唵引嚩日囉二合薩怛嚩二合惹吽引鑁斛。
復た佛に白して言く、世尊此れ四行攝の法なり。一切の處一切の事、世間の染愛及び
世間の一切法に於て、皆四攝行の想を生じて、慈の鉤と悲の引と喜の縛と捨の住と等
を起すなり。但し一切の事と處とに於て、皆此の四行攝の法を生ずとは、一切の聲聞
と獨覺との乘の中に於て、常に此れ等の四行を起して、四攝の眞言を誦し、四種の鉤
印を結ぶべきなり。謂はゆる四種の鉤印とは、(一)眼を以て慈を一切に於て起し、眼を
以て悲を一切に於て起し、眼を以て喜を一切に於て起し、眼を以て捨を一切に於て起
すなり。眞言行者は常に此の四種の心を起すべし。但し世間の一切の事を作すに違ふ
ことなければ、速かに無上菩提を證して、現生に一切の法に於て、平等無二無染無淨
無違無礙の身を證得すべし。常に金剛薩埵の三昧に住して、此の四攝の法を以て、廣
く一切の有情を利樂することを作せ。但し一切の事と處とに於て、無違の相を生じて
此の四種の眼法を用ゐよ。常に一切の時に於て、二乘を壞(やぶ)る心を起して、此の(二)壞二

(一) 眼を以て四種の眼法を明す、眼に見る所に於て四無量心觀を修すべきことを明す、理實には六根に通じて修すべしと雖も今は且く眼見を擧ぐるなり。

(二) 壞二乘心の眞言　此の眞言の中の怛那の怛の字異本にはなきなり。摩訶野那は大乘と譯す、即ち文殊なり、薩嚩達摩は一切法と譯す、一切法は清淨なり、清淨は觀音の大悲と智とを以て二乘の心を破す故に此の眞言は文殊と觀音の眞言なり

乘心の眞言を誦して曰く、

唵引摩訶引野怛那合薩日囉二合薩怛薩合薩達磨尾戊駄吽。

常に此の眞言を誦して、一切の時に於て、自心を觀察して、一切の執著を壞れ、一切の法は本來清淨なりと觀ずべし。此れに由て福德增長して、現生に於て一切の法の清淨なる、金剛乘金剛性を獲得せん。一切の福德を增長して、一切の如來に常に加護せられん。一切の金剛常に以て業を破て、現生に於て大金剛の位處を證せしめん。

一切如來大勝金剛心瑜伽成就品第七

爾時に金剛手、復た金剛薩埵を成就する一字心の大勝心相應を說き玉へり。此の眞言を說て曰く、

吽引悉地。

復た此の眞言は、若し常に誦持するは、一切の天と人とに愛敬せられ降伏することを得、能く一切の人見る者をして歡喜せしめ、能く一切の心願を成就して悉く皆圓滿す。速かに金剛薩埵の身を成就する悉地を得て、現生の世間に一切の法平等の金剛心を獲得す。時に會中の諸地の菩薩、各各神力を以て、福德威光を以て金剛手を歎じて、而も

偈を說て言く。

一切の諸の菩薩の　見聞し能はざる所なり　今此の法敎を演べ玉ふ　善く我が心密を解す。

諸法は自性なし　願も無く染淨もなし(一)金剛の一を乘と爲す　諸の法敎をも壞せず。時に會中に忽に一りの(二)障者あり。空從りも生せず亦他方よりも而も來らず。亦地よりも出生せず、忽然として而も現はれたり。(三)諸の菩薩各醉るが如し、所從來の處を知らず、時に薄伽梵面門微笑して、金剛手及び諸の菩薩等に告げて言く、此の障は何れ從りか而も來るや。一切の衆生の本有の障無始の無覺の中より來れる、(四)本有俱生の障、(五)自我所生の障なり、(六)無始より初際なく本有俱本の(七)輪なり。時に障者忽然として身を現はして、金剛薩埵の形と成りぬ、頂上に於て一の金剛輪を現し、足の下に一の金剛輪を現し、兩手の中に各一の金剛輪を現し、又心上に於て一の金剛輪を現す、遍身に光りを放て、會中の諸の大菩薩を照觸す。時に金剛手、佛に白して言く、遍照薄伽梵、我れ今此の自性障の金剛頂法を說かんと欲す。唯し願くは我が解說を許し玉へ。時に金剛手、佛の聖旨を承て、而も頌を說て言く、

(一)金剛の一　菩提心を一と云ふ、又金剛一乘は即事而眞の故に、諸の法敎を壞せずと云ふなり。
(二)障者　根本無明なり。
(三)諸の菩薩　修生未究竟の因人なり。
(四)本有俱生の障　貪。
(五)自我所生の障　嗔。
(六)無始より初際なく　無始より初際痴。
(七)輪　善法を摧破す。

若し諸の眞言の師　眞言の法を持誦するに(一)一の散亂の心に於て　此の障即便りを爲して。

能く眞言師の　修する所の功德の業を奪ふ　若し愛染王の　根本一字心を持すれば

此の障速かに除滅して　少も親み近づくことを得ず　常に自心の中に於て　一の吽字の聲を觀じて。

出入して命息に隨へよ　身と心とを見ざれ　但し字の因起を觀じて　大空に於て等同ならしめよ。

堅く金剛の性に住して　全く金剛の體と成て　速かに自の身分を轉じて　便ち金剛の身に同なり。

(二)秋の八月の霧に　微細なる清淨の光りあるが如し　常に此の等持に住す　是れを微細定と名く。

自性より生ずる所の障　此に方便を得ること無し　決定して金剛に同ふしぬ　三界に能く越るものなし。

時に自生の障、此の語を聞き已て忽然として現せずなりぬ。

(一)一の散亂の心即ち此の俱本輪の障なり。

(二)秋の八月の霧は本覺の菩提心に喩ふ、霧は前の障者にして無明に喩ふ、然るに霧即月光は煩惱即菩提の義なり。

一切如來大剛金剛頂最勝眞實大三昧耶品第八

爾時に遍照薄伽梵、復た種種の光明を現じ玉へり、頂上に於て金剛威怒(イヌ)の光明を放て諸の菩薩を照し玉ふに、金剛手等皆各默然たり。復た身手を現ずるに十二臂を具へり、智拳印を持し、復た五峰の金剛と蓮花と摩尼と羯磨と鈎と索と鑼と鈴と智劒と法輪との十二の大印を持し玉ふ。身は千葉の大白蓮華に住し、身の色は日の如し、五髻の光明あり、其光り主なくして十方に於て遍くす、面門微笑して、即ち大勝金剛頂最勝眞實大三昧耶の眞言を說て曰く、

唵引(ヌン)摩(マカ)訶引(バザ)嚩日囉(ラ)二(シユニ)合(シヤウムタ)悉(ラク)捉二合(キリク)灑吽(アクウム)怛(タ)嚩(ラク)二合紇(キリク)哩二合(アクウム)噁吽引。

此の明を說き已て、復た頌を說て曰く、

十方淨妙の國と　三世と及び三界とに　最も尊獨無比なるは　此の大轉輪(アンリンワウ)王なり。

能く諸の佛頂を摧き　能く諸の等覺を攝す　親近して眷屬と爲る　速かに大悉地を成す。

若し末法の世の人　長く此の眞言を誦せば　刀兵も害すること能はず　水火も焚き漂はせず。

蓮華と金剛手と　翼從して而も侍衛せん　若し一百八を誦せば　能く百切の罪を滅せん。

若し一千遍を誦せば　能く意の願を成滿せん　若し一洛叉を誦せば　大金剛の身を得ん。

若し一俱胝を誦せば　遍照尊と成ることを得ん　千佛來て守護せんこと　決定して疑ひあること無けん。

我れ今更に印を說かん　金剛最勝の心なり　內に十度を堅てて縛して　忍と願とを屈して頂の如くせよ。

是れを根本心　最勝轉輪印と名く　若し常に此の印を結ばば　金剛薩埵尊と。

蓮華と摩尼王と　毗首羯磨尊と　一切の諸の聖尊と　咸く來て增す覆護せん。

此の人は金剛の如く　諸の惡も能く壞ること能はず　此の身は光りの聚まりたるが如し　能く三界の冥を破せん。

此の人は蓮華の如し　諸の塵も染すること能はず　此の身は羯磨の如し　大に諸の佛事を作す。

身は遍照尊の如し　諸の佛も捨つること能はず　身は妙吉祥の如し　能く無盡の慧を成ず。

身は金剛の輪の如し　能く理趣の輪を轉せん　此の眞言を持すれば　能く是の如くの事を成せん。

觸と淨との處に依るが如きは　但し最勝の印を結び　及び根本心を誦すれば　一切爲らずと云ふことなし。

作すに隨て皆成就し　一切の願皆滿つべし　(一)最勝尊を成就する　金剛頂の明に曰く、

唵引嚩日囉二合薩怛嚩二合句捨吽引

金剛手の最勝の摩尼を成就するに曰く、

唵引嚩日囉二合囉怛那合句捨怛嗢二合

金剛手の蓮華を成就する最勝心、

唵引嚩日囉二合達磨句捨紇哩二合

金剛手の巧業を成就する最勝心、

(一)最勝尊を成就以下は大勝金剛內證の四佛四波羅蜜法輪八供四攝等の明を說くなり、中に於て初の四は四佛の明なり。

(一)金剛鉤以下四波羅蜜の明を說く。

(二)復次に金剛輪小金剛輪の印明なり。

唵引嚩日囉二合羯磨句舍噁入聲

(一)金剛鉤を成就する最勝者は能く鉤す、

唵引嚩日囉二合薩怛鑁二合句捨惹入聲

金剛索を成就する最勝者は能く引す、

唵引嚩日囉二合囉怛那二合播捨吽引

金剛鎖を成就する最勝者は能く縛す、

唵引嚩日囉二合鉢納麼二合娑破二合吒鑁

金剛鈴を成就する最勝者は能く喜す、

唵引嚩日囉二合羯磨欠吒斛

八の大明を持するに由て　能く百千の事を成す、印は金剛界の如し　眞言者は當さに知るべし。

一切の難勝の者には　應さに此の明とを用ゆべし。

(二)復次に金剛劍、密語應さに知るべし。

唵引嚩日囉二合薩怛嚩二合底訖叉拏三合吽引

能く無智の城を壞て　能く諸佛の慧を生ず　印は妙吉祥に同じ　羯磨と三昧耶とな

り。

復次に金剛輪の密語あり、應さに當さに聽くべし。

唵引嚩日囉二合斫訖囉二合吽引惹吽引鑁斛吽。

二羽金剛拳にして　檀と慧と進と力と　四度互ひに鉤結せよ　是れを彼の密印と名

く。

若し眞言行者　曼荼羅を作らずとも　但し此の印と明とを持せば　即ち大に一切の

曼荼羅を安立するに同ふして。

自身の一切の支　悉く諸佛の聚と成らん　無比にして不思議なり　更に無過上味な

り。

(一)復次に以下四攝の明を說く。

(一)復次に四攝の明あり、密語應さに當さに說くべし。

唵引薩嚩怛他引誐擔勾始吽引惹入聲

唵引薩嚩怛他引誐多播舍斛引吽引

唵引薩嚩怛他引誐多引娑普二合致吽鑁。

(一)八供及び四攝惣じて八供四攝の明を說く。

(二)復次に秘密主以下大勝金剛內證三摩地の五瑜伽を說く。

唵引薩嚩怛他引誐多引尾舍吽鉢。

纔かに此の密語を誦すれば　十六大菩薩　法界從り出生して　各本幟幟を持せり。

次に八供養と及び　以て四攝の明を誦せよ　即大圓壇と成らん　次に本尊の句を誦せよ。

(一)八供及び四攝の　密言次に當さに說くべし。

唵引薩嚩布惹惹入吽引鑁斛。

(二)復次に秘密主　我が此の心の最心に　更に秘密の法を說かん　佛を五瑜伽と名く。

當さに遍照王を觀ずべし　自身悉く同等なり　復當さに自らの前に於て　勝金剛寶を觀ずべし。

熾盛の日に於て住して　妙なる大寶幢を執れり　次には右に復當さに　金剛蓮華鈎を觀ずべし。

黃色の輪に於て住して　鈎を執て大微笑せり　次に左に復當さに知るべし　金剛寶大庫なり。

綠色の輪に於て住して　大圓鏡を執持せり　次に當さに復後に於て　金剛大染蓮。

紅色の輪に於て住して　大紅蓮を執持せり　是れを五瑜伽と名く　極密最上の味なり。

一切の希願する所　皆悉く圓滿することを得　常に此の瑜伽を作して　前の八大明を誦せよ。

及び密印の力を以て　皆悉く祈願を成す　請召の印を假らず　及び香花の明を誦せずとも。

最上の成就を得て　現世に速かに之れを獲ん　時に會の諸の菩薩　一切の執金剛。

一心に佛を觀じ心に　歡喜して而も安住せり。

國譯金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經卷上終

音釋

幟幟　幟は卑遙切、幟は昌志切。鑁　亡敢切。鑾　莫班切。鎧　可亥切、甲なり。宓覩波　梵語なり、此れに方墳と云ふ、宓は蘇骨切。掣　昌列切。佉丘加切。肘　陟柳切、臂節なり。替　他計切、代なり。捻　奴協切、指を捻るなり。氎　達協切、毛布なり。股　果五切。

國譯金剛峰樓閣一切瑜伽瑜祇經卷下

唐南天竺國三藏沙門金剛智　譯す

(一)金剛吉祥大成就品第九

爾時に金剛薩埵、復た一切如來の前に於て、又復た一切の佛眼大金剛吉祥一切佛母の心より、一切の法を出生し、一切の明を成就して、能く一切の願を滿ち、一切の不吉祥を除き、一切の福を生じ、一切の罪を滅し、一切の有情の見る者をして皆歡喜せしめ、能く一切の衆生の語言を解し、速かに諸部の頂輪と成て、最勝無比にして奇特難勝なり。十地を起過し、(二)一切の諸佛と菩薩と金剛と諸の大天王とを攝し、能く一切難解の事を成辨すること速疾にして過なく、五部の深密皆悉く成して、(三)一時に齊く證ることを說き玉ふ。(四)時に金剛薩埵、一切如來の前に對して、忽然として一切の佛母の身を現ばし作して大白蓮に住し、身白き月の暉のごとく作れり、兩目微笑なり、二手臍に住して(五)奢摩陀に入るが如し、一如の支分從り十凝誐沙倶胝の佛を出生す、一一の佛皆禮を作して本出生する所を敬ふ。刹那の間に於て、一時に化して一字頂輪王

(一)金剛吉祥　佛眼佛母の名なり。

(二)一切の諸佛等　佛眼尊に下に明す所の三層八葉の曼荼羅の諸尊を攝するを云ふなり、諸佛は頂輪王、菩薩は八大菩薩、金剛は八大金剛、諸の天王は外の八方天を云ふ。

(三)經の始めより一時に齊しく證るを迄は惣說段なり。

(四)時に金剛薩埵以下は別說段なり中に於て四段あり此れは第一に金剛薩埵が佛眼の身を現じて根本明王を說くことを明す。

(五)奢摩陀　此れに止と翻す。

(一)輪の印　八輻輪なり。

(二)爾時に佛母以下眞言の功能を說く。

(三)金剛山　須彌山を云ふ。

(四)金剛杵　五鈷金剛杵。

(五)金剛頂峰　樓閣なり。

と作る、皆(一)輪の印を執れり、頂より光明を放て倨り傲るの目をもて視る、大神通を現はして、還り來て本出生する所の一切の佛母を禮し敬て言く、我が說く所の一切の頂輪の眞言をもて、唯し願くは尊者、一切の衆生に與へて、大成就を作さしめ玉へ、我れ今唯し願くは、尊者大吉祥を作して、其れをして成就せしめ玉へ。爾時に本所出生の一切の佛母金剛吉祥、一切の方所を顧み視て、根本の明王を說て曰く、

曩謨婆誐嚩底一瑟捉二合沙二唵三嚕嚕婆跛二合嚕四入嚩二合攞底瑟吒二合五悉馱路左捉六薩嚩囉他二合娑馱嚩曳七娑囉二合訶八

(一)爾時に佛母、諸の如來に告げて言はく、若し金剛より生ずる金剛子等有て、常に此の明を持する者は、身(三)金剛山の如し、(四)金剛杵の如し、(五)金剛頂峰の如し、金剛界の如來の如し、彼の蓮華手の如し、彼の虛空寶の如し、彼の毗首羯磨の如し、彼の四波羅蜜と十六大菩薩と四攝と八大供養との如し、一切の佛心の如し、一切の佛の化身の如し、百千倶胝不可說不可說の佛の設利羅の如し、佛の眞身の如し、佛の擧念の如し、所作の事業皆一切の佛に同じ、出す所の言語は、便ち眞言と成り、支節を擧動すれば大印契と成り、目に覩る處のものは信ち大金剛界と成り、身

に觸るる處のものは便ち大印と成らん。若し常に持せん者は、當さに是の如くの金剛の用を得べし。若し大阿闍梨と爲て、密法印等を敎へ授けんと欲はんときは、當さに須らく先づ此の明一千遍を誦すべし。一切の諸佛と菩薩と金剛薩埵と皆悉く歡喜し給ふ、一切の有情見る者父母の想の如くならん、福は輪王の如くにして七寶具足し、壽命長久にして千萬倶胝ならん。若し常に此の明を持せば、金剛薩埵、及び諸の菩薩常に隨ひ衛護せん、大神通を得て作す所の事業皆悉く成就せん、急難の中には日の空に昇らんが如くにして、一切の宿業重障ありとも、七曜二十八宿破壞すること能はず大安樂を得ん。若し百萬遍を持すれば、大涅槃を得ん。(一)我れ今更らに觀行密印曼荼羅の法を說かん。當さに自身を觀ずべし、我が形相の如くして大白蓮に住して、漸漸に舒べ展て大空界に遍すと、或は(二)根本の印を結びて自身を加持し、(三)法界定に住して速かに當さに一切智智を獲得すべし。其の印相は、二手虛心合掌して二頭指を屈して二中指の上節に附けて、眼笑の形の如くせよ、二空をもて各忍と願との中節の文を捻して、亦眼笑の形の如し、二小指復微開きて、亦眼笑の形の如くせよ、是れを根本の大印と名く。(四)若し印を以て目と及び眉を拭ひ、兼て堅さまに眉の間を拭ひ五眼を成

(一) 我れ今以下密印と曼荼羅法を說く。
(二) 根本の印　佛眼の印なり。
(三) 法界定　法界定印に住するなり
(四) 若し印を以て下五眼加持の作法を明す。

すと想へ。又印を以て兼て明を誦して、右に旋らして面を拭ふこと三遍すれば、一切の見る者皆悉く歡喜すべし。

(一)爾時に一切の佛頂輪王、各金剛輪を以て、本所出生の一切の佛母の足下に於て置き、合して二輪と成る、一は其の足を承け一は頂上に覆へり。時に一切の佛頂輪王皆悉く供養して圍繞す、妙伽陀一百八名大金剛吉祥無上勝讃を誦して曰く、

(二)嚩日囉二合薩怛嚩二合、摩訶引薩怛嚩、二合嚩日囉二合囉惹、三摩訶引囉惹四、嚩日囉素乞叉麼三合、摩訶引素乞叉麼三合、嚩日囉二合野曩七摩訶野曩八囉日朗二合句捨九摩訶倶舍十嚩日囉二合五止多十一摩訶止多十二

(三)嚩日囉二合惡乞芻、毘野十二合十三娜謨室覩二合帝、

嚩日囉二合三婆嚩　南謨引室覩帝、

嚩日囉二合濕嚩二合囉　南謨室覩帝、

嚩日囉二合悉地　南謨室覩帝、

嚩日囉二合馱怛鑁二合　南謨室覩帝、

(四)薩怛嚩二合嚩日哩二合　南謨室覩帝、

(一) 爾時に一切の以下第二に所生の佛頂輪王能生の佛眼を恭敬して百八名讃を說く。
(二) 初より摩訶止多迄の六句は總德の大日を讃す。
(三) 嚩日囉惡乞芻より馱怛鑁迄の五句は五佛の別德を讃す。
(四) 薩怛嚩より以下の八句は四波羅蜜を讃す。

（一）薩日囉薩怛縛以下の三十二句は十六大菩薩を讚す中に於て第一の八句は東方の四親近なり。

薩怛吠二合縛日哩二合引　南謨宰覩帝、
囉怛曩二合縛日哩二合　南謨宰覩帝、
囉怛寧二合縛日哩二合引　南謨宰覩帝、
達磨二合縛日哩二合　南謨宰覩帝、
達弭二合縛日哩二合　南謨宰覩帝、
羯磨二合縛日哩二合　南謨宰覩帝、
羯弭二合縛日哩二合　南謨宰覩帝、
（二）縛日囉二合薩怛縛二合　南謨宰覩帝、
縛日哩二合薩怛吠二合　南謨宰覩帝。
縛日哩二合囉嚩以精切引　南謨宰覩帝、
縛日囉二合囉惹　南謨宰覩帝、
縛日囉二合囉誐　南謨宰覩帝、
縛日哩二合囉儀以研切　南謨宰覩帝、
縛日囉二合娑度　南謨宰覩帝、

（一）縛日囉囉怛那以下の八句は南方の四親近なり。

縛日哩二合娑池　南謨宰覩帝、
（二）縛日囉二合囉怛那二合　南謨宰覩帝、
縛日哩二合囉怛寧　南謨宰覩帝、
縛日囉二合帝惹　南謨宰覩帝、
縛日哩二合帝唧　南謨宰覩帝、
縛日囉二合計都　南謨宰覩帝、
縛日哩二合計帝　南謨宰覩帝、
縛日囉二合賀娑　南謨宰覩帝、
縛日哩二合賀細　南謨宰覩帝、
（三）縛日囉二合達磨　南謨宰覩帝、
縛日哩二合達弭　南謨宰覩帝、
縛日囉二合底乞史拏三合　南謨宰覩帝、
縛日哩二合底乞史扼三合　南謨宰覩帝、
縛日囉二合係都　南謨宰覩帝、

（三）縛日囉達磨以下の八句は西方の四親近なり。

(一)𗍫日囉羯磨以下の八句は北方の四親近なり。

(二)𗍫日囉囉多以下の八句は内の四供養なり。

𗍫日哩二合斫羯囉二合　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合婆去聲沙　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合鼻始　南謨室覩帝、
(一)𗍫日囉二合羯磨　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合羯弭　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合囉乞叉二合　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合哩乞史二合　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合藥乞叉二合　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合以乞史二合　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合散地　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合母瑟智二合　南謨室覩帝、
(二)𗍫日囉二合囉多引　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合囉帝　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合麼攞　南謨室覩帝、

(一)𗍫日囉度婆以下の八句は外の四供養なり。

𗍫日哩二合麼鬚　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合儗多　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合儗帝　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合儞哩二多　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合儞哩二帝　南謨室覩帝、
(一)𗍫日囉二合度婆　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合度閉　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合補瑟波　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合補瑟閉　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合儞波　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合儞畢也二合　南謨室覩帝、
𗍫日囉二合嗏駄引　南謨室覩帝、
𗍫日哩二合嗏第　南謨室覩帝、
(二)𗍫日囉二合句捨　南謨室覩帝、

(二)𗍫日囉句捨以下の八句は四攝智なり、

(一)唵引𤙖日囉金剛吉祥の明なり最後に之れを説くことは上の諸尊悉く佛母尊に帰入する義を示すなり。

(二)若し此の讃王以下の頌は百八名讃を受持する功能を説く。阿尾捨降伏なり、一切は内外の諸魔なり。

(四)諸の法皆成就鉤召。

𤙖日哩二合句勢　南謨宝覩帝、
𤙖日囉二合播捨　南謨宝覩帝、
𤙖日哩二合播勢　南謨宝覩帝、
𤙖日囉二合塞怖二合吒引　南謨宝覩帝、
𤙖日哩二合塞怖二合鍐引　南謨宝覩帝、
𤙖日囉二合健吒引　南謨宝覩帝、
𤙖日哩二合吠捨　南謨宝覩帝、
(一)唵引𤙖日囉二合室利二合曳娑𤙖二合賀引
(二)若し此の讃王を持して　纔かに一遍稱誦すれば　諸佛悉く雲のごとくに集まり玉ひ　三十七智圓かなり。
若し當さに兩遍を誦すれば　諸佛悉く身に入り　一切(三)阿尾舎し　及び以て三界の主たらん。
若し誦すること三遍を經れば　(四)諸の法皆成就すべし　若し誦すること四遍を經れば　行と住と及び坐と臥との。

(一)安穩と滅罪鳥突。敬愛　文の如し。

(二)福を生ず増益なり、即ち五種法の成就を明すなり。

(四)此の語を説き以下第三に畫像法と曼拏羅法とを説く。(五)白淨の素氈自淨信心を表す、曼荼羅は行者の白淨信心の上に書圖するものなる故なり。(六)身の自ら坐入我々入同於本尊の義を表す。(七)七曜使者　第一重に置きて佛眼と金輪に近づかしむるは祈伏して障難を爲さしめず、又攝受して眷屬とする義を表す、故に八大菩薩は攝受門八大金剛は祈伏門なり。

所作皆(一)安穩なり　若し誦すること五遍を經れば　天と人とに(二)敬ひ愛せらる　誦すること六遍に於て至れば。
能く一切の罪を滅す　若し誦すること七遍に滿てば　能く無量の(三)福を生ず　若し金剛子有りて。
常に此の讃王を持てば　諸の佛常に衛り護り玉ふなり。
(四)此の語を説き玉ひ已て、時に本所出生の大金剛吉祥佛母、復た畫像と曼拏羅の法とを説き玉へり。(五)白淨の素氈を取て、自身の量に等しく而も之れを圖畫せよ。凡そ一切の瑜伽の中の像は、皆(六)身の自ら坐するときの量に之れを畫け、中に於て應さに三層の八葉の蓮華を畫くべし、中に我が身を畫け、當さに我が前に於て、一の蓮華葉の上に一切の佛頂輪王を畫け、手に八輻の金剛寶輪を持せり、此の次に於て右に旋て(七)七曜使者を布けよ。次の第二の華院は、頂輪王の前に當て金剛薩埵を畫け。次に右に旋て八大菩薩を畫け、各本幟幟を執れり。次の第三の華院に、右に旋て各八大金剛明王を畫くべし。又華院の外の四方の面に於て、八大供養と、及び四攝と等の使者を畫け、皆師子の冠りを戴けり、是れを畫像の法と名く、曼拏羅も亦是の如し。

(一)法將阿闍梨　不空三藏か。

(二)七曜の形　慈覺大師の請來の七曜攘災決に出でたり。

(三)次に成就　以下第四に成就法を明す。

(四)爾時に佛母　上來佛眼法を說き了て、以下は大悲胎藏八字の法を說く、中に於て眞言と功能と印契との三段は知るべし。

(五)本三昧耶　法花の印の如し。

(六)虛心合掌　張り替への印なり。

(七)爾時に復富貴　以下五大虛空藏法を說く、眞言と曼荼羅及び功能と印契との三段は自ら知るべし。

(一)(法將阿闍梨の云く、八大菩薩は理趣經の如し、八大金剛は攝一切佛項輪王經に說くが如し、又八供養及び四攝等の標幟は金剛界の如し、(二)七曜の形は別に之れを授くべしと)

(三)次に成就を作す法を說くべし、心宿に直るの日と、柳宿に直るの日と、昴宿に直るの日と、牛宿に直るの日と、日と月との吉と凶とを簡ばず。但し此の宿の直る日に於て、一日の中に於て、食せずして誦して、一千八十遍を滿てば、所有心の願は時に應じて便ち遂に大悉地を獲ん。像の壇の前に對て作法せば、即ち佛母成就して身を現ずることを得ん、(四)爾時に佛母金剛吉祥、復た大悲胎藏を成就する八字の眞言王を說き玉ふ。

惡入引尾羅吽欠平聲吽紇哩二合惡短呼

若し誦すること一千萬遍を滿つれば、大悲胎藏の中の一切の法を一時に頓證することを獲得す。其印は釋迦牟尼の鉢の印の如し、印を以て定從り起て旋轉して、便ち(五)本三昧耶の印を結ぶべし。二手を以て(六)虛心合掌にして、復た心に當てゝ即ち成せよ。

(七)爾時に復た富貴を成就する金剛虛空藏の鉤召の五字明王を說て曰く、

鑁一吽二怛洛二合三紇哩二合四噁五

行者應さに五大金剛虛空藏を畫くべし、一圓明の中に於て、自身の量に等しく之れを畫け、一の圓の中に於て、更に分て五と爲す。中の圓に於て白色の虛空藏を畫け、左の手に鉤を執り、右の手に寶を持せしめよ。前の圓の中に黃色の虛空藏を畫け、左に鉤を持し、右に寶金剛を執れり、右の圓の中に青色の虛空藏を畫け、左に鉤を執り、右に三辨の寶の大光明を放つを持せり。後ろの圓の中に於て赤色の虛空藏を畫け、前の如く左に鉤を持し右に大なる紅蓮華を持せり。左の圓の中に黑紫色の虛空藏を畫け、前の如く左に鉤を持し、右に寶羯磨を持せり、是れを五大虛空藏の富貴を求むる法と名く。若し此の像を畫かんには、青色或は金色の絹の上に於て之れを畫け、其の菩薩の衣服と首冠と瓔珞と皆本色に依れ、各半跏坐にせよ。此の像を畫き了て壇の前に於て對て時と方とを問ふことなく、五字の明を誦すること一千萬遍すれば、即ち富貴成就することを得、時時に護摩せよ、速かに大悉地を獲ん。

次に當さに印相を說くべし。

毗首羯磨三昧耶は　忍と願と峰を相ひ合せて針の如くにせよ　是れを法界虛空藏と名く　三昧の密印應さに當さに知るべし。

次に進と力とを改めて三鈷の如くにせよ　是れを金剛虛空藏と名く　復た進と力と

(一) 爾時に復金剛上來は佛眼法と胎藏八字の法と五大虚空藏の法かと説き畢て、以下金剛吉祥寺の三明を説く中に於て初に二明を説く、又此の三明は佛眼法の所用なり、又第一の明は前と後とは佛眼にして、中間は七曜なり、即ち七曜の障難を消除する義なり。

を改めて寶の形の如くにせよ　是れを寶光虚空藏と爲す。

又進と力とを屈して蓮葉の如くにせよ　即ち蓮華虚空藏と名く　戒と方と進と力と

互に相ひ又へよ　是れを業用虚空藏と名く。

(一)爾時に復金剛吉祥成就一切明を説て曰く、

唵一嚩日囉二合室哩二合摩賀引室哩二合三阿涅寧迭底也二合室哩二合四素麼室哩二合五阿儗囉迦室哩二合六沒馱引室利二合七沒囉賀引娑麼二合底室哩二合八戊訖囉二合室哩二合九捨禰始者二合囉始制二合帝室哩二合十摩賀引三摩曳室哩二合十一娑嚩二合賀引十二

復妙吉祥破諸宿曜の明を説て曰く、

唵一薩嚩怛囉二合三摩曳三室利二合四娑嚩二合賀引五

復次に行者、應さに金剛子を用て珠と爲して、綠りの金剛線を以て之れを穿くべし。

像の前に對して三百遍を誦せよ、一切の希願を滿足すべし。其の印相は二羽金剛掌に

して、檀と慧とを以て內に相ひ鈎して、戒と方とを屈して掌に入れ、忍と願とを相ひ

合て峰の如くし、進と力とを屈して各忍と願との上節を捻し、禪と智とを以て忍と願

との初の文を捻せよ、是れを金剛吉祥の印と名く。

(一) 指の節を痛て諸の曜宿を降伏する義なり。

(二) 時に本所出生以下後に成就一切明の眞言を説く、中に於て初に放光現瑞して眞言を説く。

(三) 此の眞言以下後に印契と功能とを説く。

內縛して(一)指の節を痛て　並べ遍て二空を竪てよ　是れを破七曜　一切不祥の印と

名く。

當さに妙吉祥を觀じて　而も降伏の事を作すべし　印を結んで百遍を誦せよ　久し

からずして即ち成就せん。

(二)時に本所出生の一切の佛母、復た頂上に於て百千道の雜色の光明を放ち玉ひ、一一

の光の中に於て無量の金剛杵を出生す、勇健熾盛なり。足の下に於ても亦然なり、即

ち一切の明を成就する、眞言を説て曰く、

唵一吒短吒引吒烏短引二置智引置智引三吒烏短吒引吒烏短吒烏引嚩日囉二合薩怛嚩二合五惹吽鑁

斛六紇哩二合鶴吽泮吒七吽八

(三) 此の眞言は、能く一切の明を成就し、能く一切の天を攝伏し、能く一切の事を成辨す。

若し未だ一切の萠さざるの事を知らんと欲はば、印を結で左脇に於て安じて、眞言一

百八徧を誦して、印に隨て便ち睡れ。本尊阿尾奢して即ち夢の中に於て、一切の吉凶

の事を見せしめ玉ふ。其の印は定慧の手を以て不動尊の刀印を作て、刀刃を以て互に

掌中に挿で即ち成ず。若し一切の眞言を誦せんと欲はゞ、先づ此の明三七遍を誦せよ、

一切速に成就することを得ん。若し諸の方所に往かんと欲せば、(一)前の宿の形を想て、足の下に在て之れを按せよ。自身を觀ずること本尊の如くすべし。即ち一切の方處に無礙無障なることを得て、作す所皆成就することを得。此の吉祥の明は、能く百千種の事を成辨して、意の起す所皆情に逐ぐることを得るなり。又の法(二)藕絲を以て燈炷と爲て、薫じて煙と成して取て眉の中間に點せよ、一切の(三)摩奴嚩皆伏從し敬愛せん。時に諸の佛頂輪王、各各還り來て、薩埵佛母の一一の毛孔の中に入て、忽然として現はれず。時に大會の衆一時に寂然たり。

(四)(五)一切如來内護摩金剛儀軌品第十

復次に金剛手　我れ(六)内護摩を說かん　謂く因業を淨め除ひて　菩提心を獲せしむるなり。

端坐して月輪を成せ　(七)水字の光焰を觀せよ　生身にして(八)佛の形の如し　智拳にして悲愍に住せよ。

此れを扇底迦の　如來の内護摩と名く　復次に觸地の儀には　(九)因の字(一〇)金剛の句をもてせよ。

(一) 前の宿の形　今日に對して明日即正く出發せんとする日の直宿を云ふ。
(二) 藕絲　散愛法の相應物なり。
(三) 摩奴嚩　人と翻す。
(四) 上の品は金剛手大日の許可を得て、佛母身を現し、三法と三明とを說き了る、此の品は大日如來金剛手に對して、内護摩法を說き玉ふ故に我れとは大日尊の自稱なり。
(五) 一切如來　三十七尊なり。
(六) 内護摩　三十七尊皆金剛光菩薩の三摩地に入て、第八識の中の業壽の種を焚滅するを云ふなり。
(七) 水字　鑁字なり。
(八) 佛形　大日如來の形。
(九) 因字　吽字なり。
(一〇) 金剛句　阿乞芻吽耶なり。

(一) 如字　怛路字なり。
(二) 摩尼句　囉怛那三婆嚩なり。
(三) 清淨　紇哩字なり。
(四) 無塵の句　路計濕嚩囉囉惹なり。
(五) 寂靜　噁字なり。
(六) 無著の言　謨伽悉帝なり。阿
(七) 大悲波羅蜜　四波羅蜜を云ふ。

猛利の火を發生して　衆の不祥を燒き除く　金剛持地と名く　速かに無等覺を悟る。

復次に施願の形には　(一)如の字(二)摩尼の句をもてせよ　寶光もて三業を淨む　寶光もて諸の業を壞る。

勝三摩地の印には　(三)清淨(四)無塵の句をもてせよ　染欲と及び諸垢との　結使皆清淨なり。

業より生ずる諸有を拔くには　(五)寂靜(六)無著の言をもてせよ　一切の能く作す所無礙なることを得て染寂なり。

金剛手薩埵　此れを五種の智　如來寂灾密と名く　諸の菩薩の爲に說けり。

(七)大悲波羅蜜は　四無量の心を起す　印と明とは四佛に同じ　亦佛息灾と名く。

纔かに一遍を誦し竟れば　諸佛咸く共に言はく　此れ眞に是れ佛の子なり　如來に常に護らるゝ。

能く無等の罪を滅し　能く無等の福を生じ　能く三世の厄を寂む　諸佛咸く衛護し玉ふ。

復た次に金剛手　更に密言の句を說かん　汝當さに心を寂めて　五種の如來の智と

及び四波羅蜜とを聽け、

唵引𩜁日囉二合駄引覩阿儗儞合鑁。

唵引𩜁日囉二合阿乞芻二毗也二阿儗儞吽。

唵引𩜁日囉二合囉怛那二合三婆𩜁阿儗儞怛嚩。

唵引𩜁日囉二合路計濕𩜁囉囉惹阿儗儞紇哩。

唵引𩜁日囉二合阿謨伽悉帝阿儗儞噁。

唵引𩜁日囉二合薩怛𩜁合𩜁日哩阿儗儞吽。

唵引𩜁日囉二合囉怛那二合𩜁日哩阿儗儞怛嚩。

唵引𩜁日囉二合達磨𩜁日哩阿儗儞紇哩。

唵引𩜁日囉二合羯磨𩜁日哩阿儗儞二合噁。

(一)復次に一心に聽け　金剛薩埵の明には　本羯磨の印を結べ　因の字より(二)金剛を生ず。

彼れ大空界に滿ちて　遍く此れ金剛の火なり　能く諸の金剛を召て　攝伏して僕從と爲せり。

(一)復次に一心の五佛と四波羅蜜とは惣じて息災に約して說く、以下は別類として十六大士を說く、東方の四親近は息災なり。四種護摩に約して說く、東方の四親近は息災なり。

(二)金剛を生ず　薩埵の三昧耶形即五股杵なり。

唵𩜁日囉二合薩怛𩜁二合阿儗儞二合吽噁。

復次に金剛王は　本業三昧の印なり　(一)鉤の字より大鉤を生ず　鉤を遍くして法界に等し。

十方の一切の佛　盡く來て成就を爲す　心の敬禮する所に隨て　速かに時の限なきことを獲。

唵𩜁日囉二合囉惹阿儗儞二合吽弱入聲

復次に金剛染は　本業三昧の印なり　(二)悅の字より歡喜を生ず　聲十方界に遍す。

一切の佛と菩薩と　盡く染愛の妻と爲る　三界世の中の天　人王等敬愛す。

唵𩜁日囉二合囉誐阿儗儞二合鵠。

復次に金剛稱は　本業の三昧耶なり　讚の字より適悅を生ず　正受三昧を得て。

大空界に於て遍くして　自も他も適悅を生ず　大悅にして平等なることを得て　諸の寃退散することを得。

唵𩜁日囉二合娑度阿儗儞二合吽索。

(三)上の如き四寂灾は　諸佛の甚深の密なり　所有三世の苦　速に滅して餘あること

(一)鉤の字　王菩薩の種子の弱字なり。

(二)悅の字　愛菩薩の種子の鵠字なり。

(三)上の如き以上は東方の四親近なり。

(一) 如如　唵字を云ふ、唵は本有の淨菩提心を表する故に如々と云ふ。

(二) 光明　如意寶珠なり、用の光明を擧げて其體を顯はす。

(三) 熾燃の字　暗字なり。

(四) 光を發　光明の用を擧げて其體を顯はす、體は即日輪なり、日輪は此の尊の三形なり

(五) 生の字　怛嚂字なり。

(六) 諸の寶を雨す　此の尊の三形の寶幢なり。

(七) 喜の字　鵠字なり。

(八) 音聲　笑ふ聲にして其體は舌根なり。

なし。

復次に金剛手　金剛寶威光は　本羯磨の印を結べ　(一)如如より光明を生ず。

威德ありて諸天　及び以て人王等を隨ふるに　一切皆隨順して　自の求むる所を增長す。

唵嚩日囉二合囉怛曩二合阿儗佉二合吽唵。

金剛(二)光明の威は　(三)熾燃の字より(四)光を發す　一切の天主王　釋と梵と及び人趣と。

日と月と三世の有と　能く敢て申べ覩ることなし　彼れ等に能くする所ありとも盡く皆隨順することを得ん。

唵嚩日囉二合帝惹阿儗儞二合吽暗引。

金剛幢大軍は　(五)生の字より(六)諸の寶を雨らす　彼の本業の印を結て　能く一切の寶を召く。

唵嚩日囉二合計覩平聲阿儗你二合吽怛囉二合引

金剛笑菩薩は　(七)喜の字より(八)音聲を生ず　彼の本業の印を結て　能く一切の愛を

(一) 是の如く以上は南方の四親近なり。

(二) 增長　增益の意なり。

(三) 清淨自在の字　紇哩字なり。

(四) 徹して三界　此の尊の三形なり三昧耶形は鏡なり

(五) 劒の字　談字を云ふ。

(六) 談は利劒の種子なる故に。

(七) 輪の字　斡字なり。

長ず。

唵嚩日囉二合賀娑引阿儗儞二合吽鶴。

(一)是の如くの四の秘密は　諸の佛の密の(二)增長なり　求むる所皆悉く成て　自身の佛を增長す。

三界の天人見て　悉く皆是れ我なりと云ふ　生身をもて諸の有を化するを　遙かに禮して敢て近づくことなし。

復次に金剛手　蓮華自在王は　(三)清淨自在の字をもて(四)徹して三界の冥を照らす。地獄と諸の惡趣と　悉く淨なること蓮華の如し　本羯磨の印を結て　能く是の如くの苦を伏すべし。

唵嚩日囉二合達磨阿儗儞二合吽紇哩二合

金剛猛利の刀は(五)劒の字より大光を放つ　三界の暗を照らし徹して　能く訥瑟吒を伏す。

唵嚩日囉二合底乞叉拏三合阿儗儞二合吽(六)談。

金剛轉輪者は(七)輪の字より諸の輪を化して　能く那羅延と　及び龍と金翅鳥とを

(一)密の字なり、秘密語の種子なる故に密の字と云ふなり。嚂字

(二)系系たるを知らず、何の義本には二字を合してつぎにと訓せり此の一句一本なし以上は西方の四親近即ち降伏の三昧耶なり。

(三)輪の字なり、即羯磨輪の種子なり。鉗字

殺す。

唵嚩日囉係二合親阿儗儞二合吽鑁。

金剛語言誦は (一)密の字より諸の雹を化して 諸の修羅と 及び一切の宿曜を打ち破る。

唵嚩日囉婆二合引灑阿儗儞二合吽嚂。

(二)系系に金剛手 是の如くの四の秘密を 誦結すれば諸の天の 一切不祥の事を破る。

三世と三界との怨 人と及び非人衆と 惡心を起す所の者 彼れ皆悉く化し盡さしむ。

梵天と那羅延と 自在と日と月との天と 天主と頂行の衆と 住空と地底との天と。

四秘密を結び 明を誦すること纔かに一遍するに 速に滅して疑ひあることなし

此れを內護摩と名く。

金剛手復た聽け 羯磨金剛藏は (三)輪の字より光明を發す 能く一切をして愛せしむ。

唵嚩日囉羯二合磨阿儗儞二合吽劒。

(一)甲の字 憾字なり、即甲冑の種子なり。

(二)牙の字 吽字なり、即牙の種子なり。

(三)持の字 鑁字なり、即拳菩薩の種子なる故に持の字と云ふ、此尊は法佛の三密を持する故に。

(四)此の四 北方の四親近の敬愛の護摩を總結し兼て其勝利を明す。

(五)金剛の阿闍梨以下正く內護摩法を說く。

(六)水字 鑁字即大日の種子なり。

(七)生ず 大日の羯磨身を生ずるなり。

彼の本業の印を結て 金剛甲冑光は (一)甲の字より光明を放て 能く一切をして愛せしむ。

唵嚩日囉二合囉乞叉二合阿儗儞二合吽憾。

金剛怖の食噉は (二)牙の字より光明を發す 見るも觸るるも皆清淨にして 悉く彼れをして敬愛せしむ。

唵嚩日囉二合藥乞叉二合阿儗儞二合吽吽引。

金剛密持尊は (三)持の字より光明を放つ 彼の本業の契を結は 能く一切をして愛せしむ。

唵嚩日囉二合散地阿儗儞二合吽鑁。

(四)此の四の秘密の 金剛の內護摩に由て 能く一切に敬愛せしめて 隨順せざることなし。

上は諸の如來に至り 下は一切の人に至るまで 隨順して悉く礙りなし 敬愛は息滅することなし。

(五)金剛の 阿闍梨 應さに是の如くの法を作すべし 初の(六)水字の(七)生ずるより

(一)二十四尊四波と四佛と十六大士なり。
(二)本種智　二十四尊の種子の字なり。
(三)諸の等覺　以下五種の內護摩を明す、文の如く知るべし。
(四)我れ此の　以下內護摩の起因を明す。

(一)二十四尊に至るまで。
皆(二)本種智を以て　發生して彼の身を成す　威儀悉く同等にして　圓明を火焰と爲す。
自身の口を爐と爲して　遍く虛空界に至る　即此の光明の中に　諸の不祥の者を擲つ。
惡人と惡天衆と　上み等覺尊に至るまで　自の本誓に違する者を　爐の內に於て擲て焚て。
疾く本成就を得べし　(三)諸の等覺の衆を焚て　能く一切の厄を息む　諸の大有情衆は。
能く一切を成長し　諸の執金剛手は　一切の怨を摧滅す　一切の明妃衆は。
能く一切を敬愛す　鉤索鑁鈴の四は　盡く鉤召の事を成す・乃至八供養は。
還て彼の業印を結び　及び焰光の明を誦するに　能く自と他との願を成ず　一切成せずと云ふことなし。
(四)我れ此の內護摩を以て　往昔の寶生佛　金剛界の中に於て　無量の有情を度し玉

(一)金剛手　未灌頂の人に授く可らざることを明す。
(二)未だ具誓　三摩耶戒を受けざるを云ふ。
(三)以下八供四攝の明を說く金剛界羯磨會の印を用ふべし。

ふ。
我れ今故らに演說す　(一)金剛手善く聽いて　諸の眞言師の爲に　廣く說て利益を成せ。
妄りに(二)未だ具誓を受けざる者と　衆ては智慧なき人とに傳授すること勿れ　金剛の內護摩　我れ今當さに說くこと竟ぬ。
(三)唵引嚩日囉二合邏細阿儗儞二合吽鵠。
唵引嚩日囉二合摩嚩阿儗儞二合吽怛囉二合吒。
唵引嚩日囉二合儗帝阿儗儞二合儗入聲。
唵引嚩日囉二合涅哩二合帝阿儗儞二合吽紇哩吒。
唵引嚩日囉二合度閉阿儗儞二合吽嚩。
唵引嚩日囉二合補瑟波二合阿儗儞二合吽唵。
唵引嚩日囉二合路計阿儗儞二合吽禰入聲。
唵引嚩日囉二合嗜馱阿儗儞二合吽虐。
唵引嚩日囉二合句捨阿儗儞二合吽弱入聲。

(一) 此の品の中に八種の法を明す。

(二) 爾時に世尊第一に金剛薩埵内作業灌頂法を明す

(三) 眞言を持す大阿闍梨の一身に十五尊の眞言の字を布することを明す即布字觀なり。

(四) 根本の命字本不生なり、即阿本有の菩提心金剛薩埵を云ふ。

唵引𤙖日囉二合播捨阿儗儞二合吽吽。
唵引𤙖日囉二合娑普二合吒阿儗儞二合吽鑁。
唵引𤙖日囉二合吠舍阿儗儞二合吽斛。

(一)金剛薩埵菩提心内作業灌頂悉地品第十一

(二)爾時に世尊、復た金剛手に告げて言はく、我れ今更らに汝が爲に金剛薩埵一字心極秘無上深勇智光を成就する密言を說かん。而も頌を說いて曰く、

(三)眞言を持する行者　身を佛の形の如しと觀せよ　(四)根本の命金剛は　釋輪を以て座と爲し。
多羅を二つの目と爲し　毗俱胝を耳と爲し　吉祥を口舌と爲し　喜戲を鼻端と爲し。
金剛と觀自在とを　以て定慧臂を成す　三世と不動尊とを　以て兩膝脚となし。
心を遍照尊と爲し　齋を虛空眼と成す　虛空寶を冠りと爲し　相好は金剛日なり。
此の十五尊を以て　共じて一の佛身と爲す　世の月の團にして圓なるが如し　佛性も亦月の如し。

初に成就を作してより　乃し悉地を得るに至るまで　心心間斷せざれば　十五尊を成就す。
是れ即極めて深密なり　眞言當さに知るべし　金剛薩埵の心なり。
菩提の密言に曰く。
吒一斫訖囉二合二多囉斫乞芻三合渤哩二合句胝四曼殊室利二合曳五嚩日囉二合擺細六紇哩二合吽七悉怛哩二合路枳也二合八左囉吽九鑁十欠一室哩二合十二阿迦捨麼嚩十三帝惹十四吽十五。
此の成就の明を誦して　作法して尊の身と成る　然る後に薩埵に入る　一字心の密語には。
薩埵の業印を作し　自身の分に安立せんには　十五尊の句を以てす　密語種子の字を。
一一に支分に布へて　而も大悉地を成すべし　金剛薩埵の心　一字の密言に曰く
吽引。
金剛の阿闍梨　諸の弟子を敎授せんには　緋の繒を以て面を掩ふて　彼れに與へて
加持を作せ。

次の阿闍梨をして　薩埵の誓を敎授し　花を印の中に於て置き　彼れをして支分に散らさしめよ。

華の墮つる處に隨て　行人而も尊奉すべし　彼の本明と印とを敎へて　其れをして成就を作さしめよ。

此れを金剛手の　內作業灌頂と名く　極めて秘密の中の秘なり　此れを五部の源と名く。

金剛即ち寶光なり　蓮華即ち羯磨なり　如如にして同一躰なり　即ち此の身五佛なり。

右の臂は觀音部　左の臂は金剛業　頂上は摩尼の屬　多羅と毗俱胝とは。

並に是れ羯磨部なり　三世と不動尊とをば　即ち四攝智と名く　喜戲を供養と名く

虛空眼は外持なり　金剛光は彼岸なり　即ち三十七　寂上極深密と名く。

法佛の秘成就なり　(一)復た次に金剛手　更らに內火法を說かん　息災は月を爐と爲す。

各本尊の貌の如し　種智より光焰を發して　一切の罪を焚き燒く　五佛と波羅蜜と

(一)復次に金剛手以下第二に內薄摩法に三十七尊と一切の天との五種護摩を具することを說く。

を。

名けて息災の事と爲す　三世の天人等を　並に護摩の木と爲す　諸の忿怒天を擲て以て降伏の業と爲す　日と月との遊空天を　名けて增益の事と爲す　那羅延と自在と。

俱摩羅と釋王と　金剛尾(一)延那とを　名けて(二)遂他の用と爲す　水族の諸の天王と。

金翅と難陀龍とを　名けて吉祥の業と爲す　火天と焰魔王と　七母と八執曜とを。

名けて(三)勝他の作と爲す　皆金剛手の　(四)一字心の密言を用よ　及び(五)本業の印を用て。

而も用て加持を作せ　但し彼の天の明を誦せむには　金剛界の鈎を用て　彼れを攝して空中に至らして。

彼れを擲て而も事を爲せよ　此れを(六)寂勝尊の　心地極秘の法と名く　名けて阿闍梨と稱す。

及び成就の近きことを覺る　是の如くの(七)光澤を得て　方に此の法を作す可し

(一)延那　一本近那に作る。
(二)遂他の用　鈎召なり。
(三)勝他の作　敬愛なり。
(四)一字心　吽字なり。
(五)本業印　外五鈷の印。
(六)最勝尊　大日なり。
(七)光澤　心內の智火なり。

(一)次に遜婆以下第三に遜婆明王五部吽迦羅三十七尊内外の火法を明す。
(二)菩提の大印羯磨會の金剛薩埵の印。
(三)羯磨の四印羯磨會の薩王愛喜の四菩薩の印なり
(四)此の段の遜婆即降三世明王は、金剛薩埵の威儀に住する二臂の尊なり。
(五)二羽に言惣なり實は右の手なり。
(六)金剛杵　五股杵なり。
(七)皆心　菩提心より流出するなり
(八)其本色　五種法に隨て其色別なり。
(九)又黑鹽　以下第四に三尊の外火法と一切世天の九種の護摩となる明す

而して乃し人に傳へ與ふべし。
妄りに諸の過を作すこと勿れ。
(一)次に遜婆明王の根本の眞言を說て曰く、
唵嚩日囉二合吽引羯囉吽短聲吽吽短聲吽短聲顎遜婆吽短聲
(二)先づ菩提の大印に住し已て　(三)羯磨の四印をもて加持を作せ　以て(四)三世大誓の身と成て　兩臂青色にして薩埵の儀なり。
然して後に忿怒王の業に入れ　(五)二羽に(六)金剛杵を抽て擲て　空に至て却し下るを承るは薩埵なり　復次に三び金剛を旋らして舞して。
空に至て却し下すは金剛王なり　乃至善哉も亦是の如し　即ち能く廣く諸の事業を作せ　是れを最初の吽迦羅と名く。
前に結ぶ所の如く心密を誦して　方に應さに此の護摩の業を作すべし　吽短。
用ゆる所の護摩の物は其の體同じ、此の明は(七)皆心より流出して、各(八)其本色に隨ふ、之れを傳ること爾り。
又(九)黑鹽を取て護摩せよ、能く一切の天を召く、名に隨て之れを呼べば、能く求むる

(一)又法　世天の九種護摩なり。

所の事を滿つ。
又烏の牛糞を取り以て護摩せよ、能く一切の妙吉祥菩薩を召て、能く般若波羅蜜を成就す。
又法は黑沈香を以て護摩すれば、能く普賢菩薩をして、一切の明法を授け與へしむ。
又法は黑き華を以て護摩すれば、能く虛空庫菩薩をして、一切の雜事業を受與せしむ。
(一)又法黑き土を以て　而も護摩の業を作せば　悉く皆能く一切の　地居天を召き集む。
若し白き色の華を以て　護摩し供養を作せば　一切吉祥天　金寶藏を賜與す。
意に恣に而も受用す　護摩するに白樹の汁をもてすれば　能く諸の母天をもて　妙なる仙藥を授與せしむ。
服すれば壽命一劫ならむ　若し檀香を以て護すれば　上界の天を亟使す　護摩に蘇合香以てしぬれば。
空に住することも亦是の如くす　麝香を以て護摩すれば　遊空天を役使す　地居には牛黃を以てす。

(一)若し常に第五に金剛手外火法に於て三十七尊三昧耶を授くることを說く。

(二)丁香をもて以下第六に外火法に於て五部の灌頂を授くることを明す。

地底には安悉を用よ　(一)若し常に沈香を以て　護摩して而も奉獻すれば　十六大菩薩。

各速疾に本大　三摩耶を與授す　若し常に龍腦を以て　而も護摩の業を作せば八供養の菩薩。

三摩耶を授け與へて　速疾に成就せしむ　黃檀をもて常に護摩すれば　五部四攝等の。

菩薩は使者と爲て　意に隨て皆能く辨ず　護摩に鬱金を以てすれば　五方の諸の如來。

不壞の應身の故に　常に來て加持を作す　(二)丁香をもて護摩を作せば　一切の蓮華部の。

曼荼羅皆集りて　三摩地殊勝の　灌頂を授け與ふ　護摩に菩提の業を以てすれば。

一切の金剛部の　曼荼羅皆集りて　降魔の灌頂を授けしむ　白蓮華をもて護摩すれば。

寶部の曼荼羅　雲の如くに集りて而も法財　灌頂の位を授け與ふ　護するに青蓮華

(一)又寂災の法以下第七に五種の神線法を說く。

(二)蓮花智の種子紇哩。

(三)虛空智　怛嚂字。

(四)羯磨智　欠字

(五)金剛の因字　慢字。

(六)金剛部の四尊薩王愛喜。

を以てすれば。

能く如來部と　五部の曼荼羅と　是の如く等の聖衆をして　種種の類に隨ふ。

所業の灌頂を授けしむ　上の如きの所說は　最勝護摩の法なり　百八眞言を誦して。

加持して而も業を作せ　作す所の業と物と　是の如くの法を獲得す　三業淨らかにして柔輭なり。

輕安にして適悅を受く　大印の三菩提　速かに疾く而も成就す　(一)又寂災の法を說く。

(二)蓮華智の種子と　及び以て(三)虛空智とを取て　合和して神線を爲て　左の臂の上に相ひ繫けよ。

即ち能く諸の過を離る　或は(四)羯磨智と　及び(五)金剛の因字とを取て　和合して神線を爲くる。

即ち能く身を利樂す　又(六)金剛部の　四尊の種智の字とを取て　和合して色線を爲くれば。

即ち能く降伏するの業なり　又(一)摩尼部の　四聖の密智の字を取て　和合して色線を爲くれば。

能く増益(ゾウヤク)するの事なり　又(二)蓮華部の　四聖の種子の字を取て　和合して四線を爲くれば。

即ち能く一切愛す　又(三)羯磨部の　四尊の密智の字を取て　和合して四線を爲くれば。

即ち能く鉤召するの用なり　(四)此れを内護摩と名く　前の火中に依て作せ　乃し三十七に至るまで。

並に此の法敎に依れ　金剛薩埵の心と　及び爐の光焰とを以てなり　(五)又の法は青き茅(チカヤ)を取て。

一の旋茅環を作て　進と力との指に於て釧(クシロキ)せば　能く衆の不祥を除く　忍と願との節に於て釧きすれば。

能く一切の苦を除く　禪と智との度に於て釧きすれば　能く那羅(ナラ)の力を奪ふ　戒と方との指に於て釧きすれば。

(一) 摩尼部の四聖　寶光幢笑。

(二) 蓮花部の四聖　法利因語。

(三) 羯磨部の四尊　業護牙拳。

(四) 此れを内護摩至光焰とを以てなり　此の句は上の句の次にあり　速かに疾く而も成就すべし、傳法の聖者慢法の人を防がん爲に亂脫するなり。

(五) 又の法は以下第八に五種の茅草の指環を明す護摩の所用なり。

能く本尊をして悅て　一切の願を授與し　及び一切を成就せしむ　檀と慧との節に於て釧きすれば。

親(マノアタ)り諸の悉地に近づく　一切の佛歡喜して　本誓力に違はず。

叶。

(一)大金剛焰口降伏一切魔怨品第十二

爾時に世尊、復た一切の未來世の諸の薄福の有情を觀じて、(二)大悲壺三昧に住して、而も伽陀を說き玉へり。曰く、

佛有り金剛　大藥叉と名く　一切の惡有情と　及び無情等の物と。

三世の一切の惡と　穢觸染欲(エンソクゼンヨク)の心とを呑(の)み噉(くら)ふて　彼れをして速かに除き盡して

呑み噉ふて餘あることなし。

汝ち金剛薩埵　一心にして此の明を聽け　廣く諸の有情に布せよ　金剛壺の明に曰く。

唵(オン)一摩賀引(マカヤキ)藥乞叉(シヤ)二合(ハチ)嚩(バ)日囉(ラ)二(ニ)薩(サ)怛(タ)嚩(バ)二(ニ)合(ジヤク)弱(ウム)入引(バンコク)擊(ハラ)吽引三鑁斛引四跋囉(ベイシヤ)二合(ウム)吠捨五吽(ウム)短六。

此れを金剛食と名づく　諸の能摧を主宰す　菩薩化身の天　及び正業を以て果を受

(一) 大金剛焰口金剛藥叉明王の異名なり。

(二) 大悲壺三昧大悲至極の義なり

(一) 男女　七八歳位にして色情なきを要むべし。
(二) 阿尾捨　遍入の義、即此の金剛盡の明を以て加持すれば、本尊明王其童男女の身に遍入して、行者の問ふ所の事を悉く知らしむるなり。

くるもの。

此れを誦すること一千八すれば　隨順して而も三千世界　の中の上有頂の類に至るまでを攝伏す　若し(一)男女を加持すれば。

能く(二)阿尾捨せしめて　三千世界の事　盡く能く知て咎を休す　若し此れを洛叉誦すれば。

能く三界の天を令すれば　問ふ所の吉凶の事　速かに阿尾奢せしむ　若し諸の觸れたるを食せんと欲せば。

先づ七遍明を誦すれば　便ち諸の觸れたる物を食するに　能く悉く清淨ならしむ

若し人に與へられて毒を食はんに。

明を誦すること三七遍し　印を擲て彼の器に加すれば　即ち藥噌拏と成て。

諸の龍毒を噉食せん　或は本尊と成ると觀せよ　或は印本尊と成て　皆彼の毒を攝することを得。

若し人をして敬愛せしめんには　印を以て遙かに彼れに擲げよ　或は印を以て擊つと想へ　彼れ皆奴僕の如くならん。

(一) 若し曼荼羅以下此の尊の曼荼羅を說く。
(二) 大羯磨輪　羯磨の十二股は十二因緣を表す。
(三) 五の大月輪　五趣生死輪を表す
(四) 二十五輪　二十五有を表す。
(五) 金剛界の字　金剛界の羯磨會の五佛四波十六生の種子を以て二十五輪に安布するなり
(六) 身は四方の色　金剛界の色法に依て青黃赤黑次の如く東南西北なり。

(一) 若し曼荼羅を作り　及び畫き或は觀じて成せんとき　當さに吽の一字ありて

(二) 大羯磨輪と成て。

光焰を放て金色なりと觀ずべし　復た臍輪の中に於て　鉆に當てゝ五分に於てし

(三) 五の大月輪を觀せよ。

一輪に五尊を安せよ　共して(四)二十五と爲る　(五)金剛界の字を用て　羯磨印に安布すべし。

次に輪の四隅に於て　種種の色光を放つ　一隅に四の忿怒あり　四隅に十六護なり。

各五峯の杵を持して　金剛擲歩を作す　皆吽字より生ず　(六)身は四方の色を作せ。

最中の圓には佛處り玉へり　四隅は內の供養なり　次に四方の面前と　左と右とに二尊を安せよ。

謂は所る鉤等の四と　及び香と花と等の四なり　次に後ろと相對する處とに　妙吉祥幢を安せよ。

種種の諸の寶網と　繒の衣と珠の鬘と花と　輪と鉤と拂と商佉とあり　天女は衆の樂を作す。

(一)前の成就以下修行の分軌及び悉地の行相を説く

(二)復次に金剛手以下は根本の印を説く。

是の如く等を安布せよ　皆吽字より生ず　(一)前の成就の明を用よ　安し了て一遍を誦せよ。

即能く眞實と成る　堅固なること金剛の如し　行人自ら佛と爲て　輪臍の中に於て處すべし。

四時に間斷せず　誦して三十萬を滿つれば　前の觀行門に依て　速かに本尊の身を得べし。

若し諸の惡人　藥叉(ヤシャ)と羅刹主と　風と雨と龍と山神と　七母と諸の宿曜と。

海神と江河神と　釋と梵と日と月との天と　金剛毘伽那(ビキヤナ)と　三界の中の天と人と有らんに。

俱に此の觀に依て住せば　彼れ見て仁者の如く　禮を作して能くする所を獻(たてまつ)り　敎を受けて而も命を請せん。

(二)復次に金剛手　我れ今更らに印を說かん　戒と方と忍と願との指　內に相ひ叉へて菌と爲し。

檀と慧と曲げて鉤の如くし　進と力と及び禪と智と　由(なぞ)し笑眼の形の如くせよ　是れを根本の印と名く。

亦根本の心と名く　結護と及び供養と　扇底迦の四事とに　皆此の印を用て作すべし。

(三)我れ今更らに秘の　金剛藥叉の形を說くべし　六臂にして衆の器を持せり　弓と箭と鉤と輪との印と。

及び薩埵の羯磨となり　(四)五眼(ゲン)を布して忿怒なり　三首にして(五)馬王の髻あり　珠寶をもて逼く嚴飾せり。

其餘の諸の聖尊は　畫くこと金剛界の如くせよ　(四)若し諸の病を治せんと欲はゞ應さに十六の吽を稱すべし。

彼の金剛業を結で　勢ひ金剛を持するが如くして　口に言ふ所の(五)約を誦せよ　彼れ皆悉く命を受けん。

大海と須彌(シュミ)とを移し　及び三界の天を取り　惡趣を開き罪を放(ゆる)して　作す所皆稱(かな)ひ遂(と)げん。

若し仙藥を得んと欲し　及び極樂界と　知足天王宮に往かんに　意ふ所に隨て便ち得。

(一)我れ今更らに以下本尊と諸尊の形像を說く。

(二)五眼　五智を表す。

(三)馬王の髻　馬の嘶く時のたてがみの如くなるを云ふ。

(四)若し諸の病以下は雜法悉地の相を說く。

(五)約　誓約にして即本誓の眞言なり。

(一)金剛薩埵汝に以下は佛金剛薩埵に對して阿尾捨の規則を明す。

(二)薩埵の誓薩埵の印即針印なり

(三)我れ秘密の句以下五種相應の法を說く。

(四)彼の未來以下慢法の人を攝伏せんが爲に更らに一字心を說く。

(五)一字心下に說く淹吒枳吽等の明なり、此の呪十三字あれども、皆吽の一字に歸する故に一字心と云ふ

(一)金剛薩埵汝に　更らに阿尾捨を說かん　童男と童女とを取て　淨浴せしめて新淨の衣をもてし。

彼の(二)薩埵の誓をして　上に白き華を安じ於て　加持せよ面を掩はしめて　再び一千八を加せよ。

彼れ即阿尾捨して　彼の身或は空に住して　所有の三世の事　一切皆知者ならん。

(三)我れ秘密の句を說かん　汝等善く諦かに聽くべし　底迦等の五事　秘句に眞言を說かん。

圓寂大悲の常なる　是れを寂灾の句と名く　歸依と及び蓮華とを　是れを增益の句と名く。

忿怒破壞の稱　是れを降伏の句と名く　敬愛は伽跢耶なり　金剛鈎は鈎召なり。

是れを五秘密　金剛語の瑜伽と名く　(四)彼の未來に　師に依て授からざる者。

此の法に於て輕慢して　自ら逃べて自ら意を師とし　阿闍梨なりと迷ひ誤らしめんと欲する　剛强の大我等にをいて。

更らに(五)一字心の　秘が中の寂勝の密なるを說かん　此れを寂勝密　金剛身語心と

(一)爾時に大衆以下は第三流通分なり。

名く。

諸佛の大悲身　常に此の字の中に在す　處に隨て一遍を誦すれば　諸の大果の菩薩。

一切の人天界　悉く皆彼の人を禮す　前に作す所の法の如く　或は此の眞言を誦せよ。

一切速かに成す　不可思議の力　金剛薩埵に系る　此れを最秘密と名く。

妄りに人に傳へ與ふること勿れ　當さに智慧ある者に付すべし。

淹吒枳吽娑破二合吒鉢囉二合吠捨吽發吒引。

(一)爾時に大衆十六大菩薩、及び諸の忿怒金剛等、皆悉く佛を禮して位に依て而も住す。時に佛と菩薩と等、忽然として現せず、諸の金剛等各各互に相ひ謂て言はく、何の故に諸の佛忽然として現せざる。即ち是の時に於て法界に於て遍して而も聲ありて言はく、善い哉諸の金剛等、我れ本より言あることなし、但し利益の爲に說くと。時に金剛手等も亦復現せずなりぬ。

國譯金剛峰樓閣一切瑜伽瑜祇經卷下終

音釋

鰥　卓皆の切。鼉　所賣の切。鈴　牟合の切。雹　弼角の切、雨冰なり。冑　直又の切、兜鍪なり。掾　初尤の切。蘖　魚列の切。

千時、大正九年一月廿四日、老眼を拭ふて國譯し畢る。願くは此の功德を以て、密敎を紹隆して、遠く龍華の三會に逢し、衆生を利益して悉く菩提心を證せしめん。

權田雷斧時年七拾又五歳

乾十、縮閏二、續藏二套四。

(一)大廣智云々　不空三藏のこと。

(二)含暉院云々　禁中の一院宮殿のこと。

(三)一切の面　四面具足の大日如來のこと。

(四)釋迦牟尼如來　大日の異名なり。

(五)四方を觀察云云　四面大日の義なり。

(六)夫れ修行者已下　四禮を明す。

(七)紇哩娜野心　堅實心と譯す。

國譯金剛頂瑜伽略述三十七尊心要

(一)大廣智三藏和上(二)含暉院承明殿道場に於て說く

そのときに、毘盧遮那如來、須彌盧金剛摩尼寶樓閣より至り已て、金剛界如來、一切如來の加持を以て、一切如來の獅子座に於て、(三)一切の面安立したまふ。時に、大菩提心不動如來●大福德聚寶生如來●三摩地妙法藏觀自在王如來●毘首羯磨成就一切事業不空成就如來●一切如來自身を加持し、婆伽梵(四)釋迦牟尼如來、一切平等に善く通達したまふが故に、一切の方を平等に、(五)四方を觀察して坐したまふ。

(六)夫れ修行者の初發信心は、以て菩提心を表はす、即ち大圓鏡智(七)紇哩娜野心にして、是れ衆生の內心なり、吽字を安んじて種子となす、種子を變じて月輪となす所なり。輪の光明の中に於て、五智金剛杵を想へ、光明照徹す、即ち杵を易へて金剛薩埵と爲よ。即ち普賢菩薩の異名なり。此れは東方阿閦如來金剛部を表はすなり。即ち大圓鏡智これなり。次に當に南方福德聚寶生如來を禮したてまつるべし、摩尼寶綵を持すと想ふて、一切如來のために灌頂したてまつると想へ、即ち虛空藏菩薩、摩尼寶珠

を執り、一切衆生の所求の願を成滿す、此の福德聚功德に由て、無量無邊の赫奕たる威光あつて、所求の願滿ず、此れは乃ち寶生如來寶部の所攝なり。即ち平等性智なり。次に西方阿彌陀如來を禮したてまつるべし、一切如來(一)三摩地智を表す。初發心に便はち能く法輪を轉ずるに、辯は言說すべきなく、理は涯際なし、(二)語部に收むる所なり、能く衆生をして聰明利智ならしむ、此れは乃ち西方法部の所攝なり、即ち妙觀察智なり。次に北方不空成就如來を禮したてまつるべし。大慈方便を以て能く一切如來の事業及び衆生の事業を成ず、毘首羯磨菩薩善巧智方便に由て、能く一切有情の菩提心を成就して、畢竟不退ならしめ、菩提道場に坐して、衆魔を降伏し、多諸の方便を以て沮壞せしむることなく、亦た能く虛空を變じて庫藏となして、その中の珍寶虛空の中に滿ちて十方微塵の一切の諸佛を供養す。此の虛空庫菩薩は、即ち毘首羯磨菩薩の異名なり。行願所成の印、堅固解脫の門を傳へ、善能く三密門を護持するの大印の方便なり、此れ乃ち業部所攝即ち成所作智なり。其の四方の佛を禮したてまつる所の儀軌乃至眞言具さに經の中に在て明らかに說けり。應に知るべし、その中方の毘盧遮那佛は、即ち如來部なり。(三)報身圓滿し、萬德莊嚴して、須彌盧頂の寶峯樓閣大摩

(一)三摩地智　密教にて佛智のことを云ふ。
(二)語部　西方妙觀察智は說法斷疑の德なるが故に語部と云ふ。
(三)報身　理智相應せる故に斯くいふ。

尼寶殿に於て、金剛臺に坐して、等正覺を成じ、衆魔を降伏し、諸の毛孔より、大光明を放ち、十方の如來及び諸の聖衆咸な來て同證したまふ。十地滿足の菩薩皆な此の會に歸して、各々本方座位に處して、三摩地心に住し、皆な毘盧遮那如來心內の智の中より、無量無邊の秘密法門を流出し、菩薩の修行三昧に相應し、瑜伽(一)理智滿法界の心なり。此の大菩提は(二)五智圓滿す、即ち毘盧遮那如來眞如法界智なり、中位に處す。次に、(三)十六大菩薩の三摩地の位に入れ。

夫れ、修眞言行人は、須らく十六大菩薩の三摩地の次第各々不同なることを知るべし。三昧耶心に於て差別異りあり、(四)且らく金剛薩埵の如きは、東方を首となす大菩提心なり。初發意より堅固勇猛にして、三摩地智に住し、自受用身光明赫奕として廣く照らすこと無邊なり、五智の金剛杵を執り其の座位に據て傲慢自在なる、即ち金剛薩埵の事なり。經の偈に曰はく、

奇なる哉大普賢、堅薩埵自然なり、
堅固の(五)無身に從て　薩埵の身を獲得す。

(六)薩埵の正位を證すと雖も、見惑未だ除かず、一切有情は何を將てか引化せん。須ら

(一)理智滿法界の心　理智不二、周遍法界の體は、大日如來の身心なれば斯く稱す。
(二)五智　法界體性智・大圓鏡智・平等性智・妙觀察智・成所作智。
(三)十六大菩薩　已下、金剛界十六大菩薩を明す。
(四)且らく云々　最初金剛薩埵を明す。
(五)無身　一切の身に周遍せる故に無身といふ。
(六)薩埵の正位　第二王菩薩を明す

く四攝法を行じて之を濟度すべし。(一)四攝法とは何んぞ、布施●愛語●利行●同事等を以て之を攝取するなり、所以へに、金剛王菩薩、金剛鉤を執雙して用て召集をなし、而して之を攝召す、即ち不空王菩薩の妙用なり。經の偈に曰はく、

奇なる哉不空王、金剛所生の鉤なり、
一切の佛に遍ずるに由て、最勝にして能く鉤召す。

(二)鉤召ありと雖も、然れども未だ大悲の心を具せず、須らく愛念を一切有情に發して救護すべし。是れ金剛愛菩薩なり。乃ち大悲の箭を執て、能く二乘の計執の心を射、若し能所忘ぜずんば、豈に濟拔することをせんや、此の大悲の弓箭を持し、亦た能く一切の煩惱を殺害して、直ちに菩提を取る、即ち金剛愛菩薩の行位なり。經の偈に曰はく、

奇なる哉自性淨、染欲に隨て自然なり、
欲を離れて清淨なるが故に、染を以て而も調伏す。

(三)斯の勝行に由て、極喜善哉す、即ち一切の善法三種の秘密心を獲、善口善意善身三善の法門三業清淨なり、讃善の功德無量無邊なり、即ち善哉菩薩の本事なり。經の偈に

(一) 四攝法、顯教の布施●愛語●利行●同事を以て菩薩の衆生救度の四方便となすに反し、密教は鉤(布施)索(愛語)鎖(利行)鈴(同事)の四菩薩となす。

(二) 鉤召云々第三愛菩薩を明す。

(三) 斯の勝行云々第四喜菩薩を明す

曰はく、

奇なる哉我れ善哉、諸の一切の勝智なり。
分別を離るゝ所の者は、能く究竟の喜を生ず、
已上金剛部の四菩薩なり。

(一)斯の善法に由れども、果願未だ圓かならず、須臾に灌頂して、その體を莊嚴し瑩飾す、即ち虛空藏菩薩、摩尼寶髀を持し、復た想へ、一切如來大摩尼寶を發生し、大菩薩に灌頂して位を受けしめ、乃し轉輪王の位に住する時に至るまで、悉く皆之がため利益恒沙なり、無邊の福德聚威德自在なり、此れ乃ち虛空藏菩薩の福智なり。經の偈に曰はく、

奇なる哉妙灌頂、無上金剛の寶なり。
佛は所著なきに由て、名けて三界の主と爲す。

(二)灌頂を受くと雖も、未だ威光を獲ず、須らく日輪圓光を得、洞かに千界を照らすべし、所以は金剛光明の日を持し赫奕暉煥にして皎徹すること涯りなし、微塵數の日ありと雖も能く映奪することなし、此れ乃ち金剛威光菩薩の照徹なり。經の偈に曰は

(一) 斯の善法第五寶菩薩を明す。

(二) 灌頂云々第六光菩薩を明す。

く、

奇なる哉無比の光り、有情界を照耀す、

能く静にして清淨なる者なり、諸佛の救世者なり。

(一)既に光明廣大にして、功業彌よ高し、錫賚(シライ)酬賞するに須らく檀施あるべし、即ち金剛幢菩薩、大摩尼幢を建立し、上に如意寶珠を安んじ、光明照曜し、摩尼と百寶の幢と蓋と繒旛と微妙の香華とを雨(ふら)して、皆な一切有情に施與して、所須意に隨ひて、檀波羅蜜行願を滿足し、大悲心を具し、無量の珍財、施すに施す所なし、得る所無得の心なり、此れ乃ち金剛幢菩薩の大悲願力なり。偈に曰はく、

奇なる哉無比の幢、一切の益成就し、

一切の意滿せる者なり、一切の願を滿ぜしむ。

(二)既に施の利を蒙て喜悅、心に成ず、即ち奇特の志を獲て、發言歡喜し微笑し、悅樂して、廣く有情を度して、喜捨の心能事備はんぬ、此れ金剛笑菩薩奇特の喜智なり。

偈に曰はく、

奇なる哉我れ大笑、諸の勝甚の奇特なり、

(一)既に光明云々第七幢菩薩を明す

(二)既に云々第八笑菩薩を明す。

佛の利益を安立して、常に妙等引に住せり。

已上寶部の四菩薩なり。

(一)能く願を滿ずと雖も、由(なほ)散動を恐る、散動に具さに六種の散動有て(作意散動・自性散動・外散動・內散動・相散動・座散動・是れを六種散動と名づく。)心王を制止すること能はず、須らく三摩地の法を修して、以て其の心を住すべし。殊勝の行門、微妙の理義大悲方便を以て之を筏喩す、勝義菩提と行願と玆れに因て頓證す。此れ乃ち觀自在菩薩の悲智なり。偈に曰はく、

奇なる哉我れ勝義、本より清淨にして自然なり、

諸法は筏喩の如し、清淨にして而も得べし。

法の圓滿を悟ると雖も、結使の煩惱、仍ほ未だ之を遣(や)らず。(二)是に於て文殊師利大菩薩、般若波羅蜜圓滿して、智慧涯(はま)りなし、遂に乃ち智劒を操持して、繒網を劃斷し、(三)四魔と(四)二乘の確執の心を除害して、而も所住なし、空有に居らず、永く二邊を絕し、能く一切有情の(五)結使の心を斷じて常住無爲智慧圓明なり、即ち文殊の般若の智慧なり。偈に曰はく、

奇なる哉一切の佛、我れ微妙の音を聞く、

(一)能く云々第九法菩薩を明す。

(二)是に於て云々第十利菩薩を明す

(三)四魔　善法を障害する四種の魔煩惱魔・五陰魔・天子魔・死魔。

(四)二乘　聲聞乘・緣覺乘のこと。

(五)結使　煩惱のこと。

(一)斯の云々第十一因菩薩を明す。

(二)三輪清淨若し轉法輪なれば則ち能說の人と所說の法と能聽の衆とをいふ。

(三)妙法已下第十二語菩薩を明す。

慧には色なきに由るが故に、音聲を以て得べし。

(一)斯の斷惑に由て、須らく妙法斯に傳ふべし、即ち總發心即轉法輪菩薩なり。三摩地の心に住し、大悲願行を起し、正法輪を轉んず、輪輻の光明大千界を動かし、(二)三輪清淨にして、諸の曼陁羅に於て以て主宰たり、諸魔の所に於て之を敎令し、有情を調伏して、正受三昧せしむ、即ち金剛場菩薩の智輪の用なり。偈に曰はく、

奇なる哉金剛輪、我れは金剛の勝行なり、
總發心するに由るが故に、能く妙法輪を轉んず。

(三)妙法既に轉んず、須らく頓に無言語文字の本空に入るべし、眞如法界は平等の修多羅藏なり、恒沙の法門圓滿せり、大乘を悟て開演せざることなし、玆の勝法を以て、諸佛と共に談論し、念誦す。良に一代の眞言備さに此れに在り、乃ち無言菩薩の語言三摩地智なり。偈に曰はく、

奇なる哉我れ秘密、我れを秘密語と名く、
所說の微妙の法は、諸の戲論を遠離せり。

已上四菩薩は法部なり。

(一)即ち云々第十三業の菩薩を明す。

(二)五種の施一施遠來者、二施遠去者、三施病瘦者、四施餓鬼者、五施智法人。

(三)即ち云々第十四護菩薩を明す。

語智に通ずと雖も、而も諸佛の事業及び衆生の事業は未だ之を成就せず、(一)即ち一切業用善巧門に入りて、成辨せられ、廣く供養を興し、有情を利樂し、虛空を以て庫藏となす、是の中の珍寶虛空の中に滿ちて蒼生を給濟し、(二)五種の施あつて匱乏なからしめ、十方の如來、一切の諸佛微塵の刹海に於て普ねく心を以て供養す、即ち毘首羯磨菩薩の善巧智なり。偈に曰はく、

奇なる哉我れ不空、我れ一切の業多し、
功無くして佛事を作し、能く金剛の業を轉んず。

既に事業を具しぬ、堅固の精進を以て之れを妙用すべし、若し精修せずんば、魔即ち便りを得て、退還を生せん、所以へに精進の鎧甲を被て、萬行を持し、心を修めて法門を守護し、退轉せざらしむ、(三)即ち慈護廣大にして能く懈怠を除き、堅猛の智を護り、頓に究竟菩提を成じて被ずと云ふことなし。此れ乃ち難敵精進菩薩の大慈護なり、偈に曰はく、

奇なる哉堅固の甲、我れは堅固にして固き者なり、
堅固の無身に由て、堅固の身を獲得す。

(一)精進第十五　牙菩薩を明す。
(二)金剛牙　理智不二の智を表はす
(三)自の口中　六大法界を表す。
(四)一切如來云々　此の如來は衆生具縛の心にして即ち魔なり。

(五)斯の云々　第十六拳菩薩を明す。

(六)阿閦如來　以下は四佛より四波羅蜜菩薩を出生する義を説く。
(七)內心云々　最初金剛波羅蜜菩薩を明す。

(一)精進既に具せり、天魔●蘊魔●及び煩惱魔等須らく之を摧伏して、金剛藥叉形を示し、可畏色(おそろしき)を作し、熾焰赫奕恚怒威猛にして、(二)金剛の牙を持して(三)自の口中に安んじ、能く一切有情の無始の無明及び諸の執見を食して之を摧滅し、大悲方便を作して、能く(四)一切如來を恐怖せしむ。此れ乃ち金剛藥叉菩薩の大悲方便の智なり。偈に曰はく、

奇なる哉大方便、諸佛の悲愍なり、
形あれども寂靜なるに由て、暴怒の形と作ることを示したまふ。

(五)斯の威猛に由て、解脫の理之を助成す、三際苦輪衆生秘密の金剛、而も能く濟度す、大權の方便、三密の加持、祕印心を以て傳へて三摩地に住し、一切の法要を以て、而も能く縛を解し、苦を脫せしめ、樂を與へて四無量心に住す。此れ乃ち金剛拳菩薩の密印智なり。偈に曰はく、

奇なる哉我れ堅縛、我れは堅三昧耶なり。
諸の意樂を成ずるが故に、解脫せる者を以て縛と爲す。

已上四菩薩は羯磨部なり。

(六)阿閦如來、(七)內心に於て金剛波羅蜜を證得し、金剛三昧耶加持一切三摩地智に入りたまふ、自受用の故に、五峯光明金剛菩提心三摩地智の中より、金剛光明を流出して、遍ねく十方世界を照らし、一切衆生大菩提心を淨ふし、還來て一聚に收りぬ、一切菩薩を印して、自ら三昧耶智を受用せしめんがための故に、金剛波羅蜜菩薩の形を成じ、金剛杵を持し、毘盧遮那如來の前の月輪に住す。偈に曰はく、

奇なる哉一切の佛、我れは堅金剛の身なり、
堅の無身に由るが故に、金剛身を獲得す。

(一)寶生如來、內心に於て、虛空寶大摩尼藏功德三摩地智を證得し、自受用の故に虛空寶大摩尼藏功德三摩地智より、虛空寶の光明を流出し、遍ねく十方世界を照らして、一切衆生をして功德圓滿ならしめ、還來て一聚に收りぬ、一切菩薩を印して三昧耶智を受用せしめんとす、故に金剛寶波羅蜜菩薩の形と成り、大摩尼の寶を持し、毘盧遮那如來の右邊の月輪に於て住す、偈に曰はく、

奇なる哉一切の佛、我れを寶金剛と名く、
一切の印衆に於て、堅灌頂の理趣なりと。

(一)寶生如來第二寶波羅蜜菩薩を明す。

(二)觀自在王如來云々　第三法波羅蜜菩薩を明す。

(二)觀自在王如來、內心に於て、大蓮華智慧三摩地智を證得し、自受用の故に、大蓮華

(一)不空成就如來第四業波羅蜜菩薩を明す。

智慧三摩地智より、蓮華光明を流出し、遍ねく十方世界を照らし、一切衆生客塵煩惱を淨め、還來て一聚に收りぬ、一切菩薩を印し、三昧耶自受用智を受用せしめんが爲めの故に、法波羅蜜菩薩の形を成じ、大蓮華を持し、毗盧遮那如來の後の月輪に於て住す。偈に曰はく、

奇なる哉一切の佛、法金剛にして我れ淨なり、
自性淸淨なるに由て、貪染をして無垢ならしむ。

(一)不空成就如來、內心に於て、羯磨金剛大精進三摩地智を證得し、自受用の故に、羯磨金剛大精進三摩地智より、羯磨の光明を流出して、遍ねく十方世界を照して、一切衆生をして、一切の懈怠を除て、大精進を成せしめ、還來て一聚に收りぬ、一切菩薩を印して自ら三摩耶智を受用せしめんための故に、羯磨波羅蜜菩薩の形を成じ、羯磨金剛を持し、毗盧遮那如來の左邊の月輪に住す。偈に曰はく、

奇なる哉一切の佛、我れは多業の金剛なり、
一一切を成ずるに由て、佛界に善く業を作る。

已上四波羅蜜大菩薩の堅固の體なり、虛空の由若くして能く沮壞することなし、煽塵

(一)毘盧遮那云々以下は八供養出現の次第を明す。(二)此れ乃ち內の四供養の中最初嬉菩薩を明す。

雲霧の能く空界を翳がためにに、日月の光の猶ほ障礙をなすがごとく、一切衆生は本來自性淸淨なれども、客塵煩惱と、能所の二相とのために、その心を纏染せられて、自在なることを得ず、今此の妄想の所有の本體は自ら空なり。諸法の不生を了すれば、空有無礙なり、是に於て、(一)毗盧遮那佛、即ち菩提心觀に住し、徹照圓明にして、適悅莊嚴種種の供養を流出す、(二)此れ乃ち金剛喜戲菩薩大菩提心の妙用なり、不動如來の曼荼羅の左邊の月輪に住す。偈に曰はく、

奇なる哉無比の有、諸佛の中の供養なり、
貪染の供養に由て、能く諸の供養を轉んず。

(三)毘盧遮那第二鬘菩薩を明す。

今ま喜戲の供養を具す、(三)毘盧遮那佛內心より金剛寶鬘を流出し、其の體を嚴飾し、即ち衆寶を集めて、用て莊嚴を爲し、寶聚の光明福德圓滿し、五種の施願、而も能く滿足す、南方寶生如來の曼荼羅の左邊の月輪に住す。偈に曰はく、

奇なる哉我れ無比なり、稱して寶供養となす、
三界に於て王として勝れたり、敎敕して供養を受けたまへり。

(四)即ち云々第三歌菩薩を明す。

寶鬘供養已はんぬ、(四)即ち毘盧遮那、內心より、大悲方便を流出し、三摩地の心に住

し、歌讃諷詠を發し、供養を興し已て、六十四種の梵音を獲得して、說法無礙に住す、その音淸雅にして、衆樂●簫瑟●箜篌をして能く供養せしむ、此れ即ち音聲を以て佛事をなすなり、法利の言說本體自ら空なり、眞如凝然として法界淸淨なり、此れ乃ち金剛歌菩薩の供養語智なり、觀自在如來の曼荼羅左邊の月輪に住す。偈に曰はく、

奇なる哉歌詠を成じて、我れ(一)諸の見者に供す、
此の供養に由るが故に、諸法響の應ずるが如し。

歌詠を具すと雖も、未だ神通を獲ず、(二)即ち毘盧遮那佛、內心の中より、如來事業及び衆生事業を流出し、善巧智及び自受用智を作し、種種に供養す、金剛舞印を結び、廣大の儀軌を以て大神通を現んじ、妙舞を以て莊嚴し以て佛事を爲し、微塵佛刹にして、供養すること恒沙なり。三昧門に於て出入無礙なり。此れ乃ち金剛舞菩薩の妙用なり、不空成就如來の曼荼羅の左邊の月輪に依りて住す。偈に曰はく、

奇なる哉廣く供養す、諸の供養を作すが故に、
金剛の舞儀に由て、佛の供養を安立す。

已上四菩薩は內の供養なり。

(一)諸の見者　妙觀察智を指す。

(二)即ち云々　第四舞菩薩を明す。

(一)阿閦如來云々　外四供養を明す中最初香菩薩を明す

(二)寶生如來云々　第二華菩薩を明す

(三)即ち云々　第三燈菩薩を明す。

(一)阿閦如來、內心の中より、焚香菩薩を流出して毘盧遮那如來を供養したてまつる、其の香雲海の如く、法界に遍周して、見聞覺知の者に能く適悅を生ぜしめ、能く諸佛の體中に遍入して、悅樂歡喜せしむ、此れ乃ち金剛焚香菩薩、大佛事供養を作すなり。

偈に曰はく、

奇なる哉大供養、悅澤して端嚴を具せり、
薩埵の遍入に由て、速疾に菩提を證す。

香は已に供養せり。(二)寶生如來、內心より、微妙の覺華を流出して、毘盧遮那如來に奉獻したてまつる、金剛寶蓮に由て、その華開敷して光明あり、その色鮮美なり、福德の聚、種種の莊嚴を以て能く有情安樂の願を施す、此れ乃ち金剛華菩薩の妙用なり。

偈に曰はく、

奇なる哉一切佛、能く諸の莊嚴を作す、
如來の寶性に由て、速疾に供養を獲。

華は已に供養せり、未だ光明を獲ず、(三)即ち觀自在王如來、內心の中より、金剛智燈を流出して、毘盧遮那如來を承事供養し、光明照徹如來五眼淸淨を獲得し、內外の障

(一)摩尼　如意寶珠のこと。

(二)即ち云々　第四塗香菩薩を明す

(三)即ち云々　以下四攝の菩薩の流出の次第を明す。

色悉く咸な覩見す、内の智燈に於て、一切の法を照すに本性清淨なること(一)摩尼の由若し、百光千明能く映蔽することなし、智慧の日斯の燈に由る、此れ乃ち金剛燈菩薩の智照なり。偈に曰はく、

奇なる哉我れ廣大なり、燈の端嚴なるを供養す、
速に光明を具するに由て、一切の佛眼を獲べし。

燈は既に供養せり、未だ清涼を獲ず、(二)即ち不空成就如來、内心の中より、金剛塗香菩薩を流出し、香印を執持して、毘盧遮那如來を供養したてまつる、此の妙塗香を以て、能く一切有情鬱熱の疾を除き、能く如來の五分法身たる戒●定●慧●解脫●解脫知見を獲て、その體を莊嚴し、亦た能く清淨菩提の心廣大に圓滿することを證得す。此れ乃ち金剛塗香菩薩の供養なり。偈に曰はく、

奇なる哉香の供養、我れ微妙の悅意なり。
如來の香に由るが故に、一切の身に授與す。

已上四菩薩は外の供養なり。
八供養は已に畢はんぬ。四攝の事未だ圓かならず。(三)即ち毘盧遮那、内心の中より、

(一)金剛鉤菩薩を流出して之を召集す、夫れ鉤をなすとは、四攝の義あり、愛語と布施と利行と同事とを以て而も能く無量の衆生を運度す。復た難調の衆魔あるを而も能く析伏す。亦能く狂象を控制して而も皆な順從せしむ。即ち此の大菩提心廣大圓滿し、堅固猛利にして、決定して退せず、亦た能く一切賢聖を召集して、道場に降臨せしめて、能く一切の眞言行菩薩の速に悉地を證することを滿んぜしむ。これ乃ち金剛鉤菩薩召集の智なり。偈にいはく、

奇なる哉一切の佛、鉤の誓我れ堅固なり、
我れ遍ねく鉤召するに由て、諸の曼荼羅に集む。

既に鉤の義を具せり、引攝の事未だ圓かならず。(二)即ち毘盧遮那佛、内心の中より、金剛索菩薩を流出し、能く一切煩惱無明妄想昏闇の心を禁制し、能く一切苦輪を縛して解脫を得せしむ。復た能く禪定大菩提心を等引す。一切の印衆みな來て聚會し、微塵の佛刹より咸悉く曼荼羅道場に降臨して、共に佛事を作す。偈に曰はく、

奇なる哉一切の佛、我れ堅金剛の索、
設ひ諸の微塵に入るとも、我れ復た此に引入せん。

(一)金剛鉤　最初鉤菩薩を明す。

(二)即ち云々　第二索菩薩を明す。

(一)即ち云々第三鎖菩薩を明す。(二)惡趣地獄・餓鬼・畜生等を三惡趣といふ。

(三)即ち云々第四鈴菩薩を明す。

索の義は既に辨せり。制止の理未だ行せず。(一)即ち毘盧遮那佛、內心の中より、金剛鑠菩薩を流出す。その鑠はこれ制止の義なり、能く一切の諸の(二)惡趣の門を閉ぢん。大慈悲を起し、一切有情に於て、而も救護を生じ、能く一切衆の印、及以び如來使を縛し俱に解脫に由て、大涅槃を得。復た微塵の海會の如來をして、此の道場に於て三摩地心に住し、同密嚴の佛會をして大佛事を作さしむ。偈にいはく。

奇なる哉一切の佛、大堅金剛の鑠、
諸の縛をして脫せしむる者なり、有情を利するが故に縛せり。

鑠の義、制止の事を具すと雖も、理智に遍入すること未だ圓通せず、(三)即ち毘盧遮那佛、內心の中より、金剛鈴菩薩を流出し、光明磬を執持して之を供養し、無量微妙の音を發生して、一切聖衆聞く者の歡喜せざることなし。諸佛の種子惡字能く一切如來の身心の中に遍入して、瑩けること明鏡の如し、無量の有情の身田に、大種智を下し、能く諸佛の所とに於て、身を捨て、僮僕と作て、承事供養し、三摩地の中に於て、適悅し歡樂す。これ乃ち金剛鈴菩薩の妙響なり。偈にいはく、

奇なる哉一切の佛、我れ堅金剛入なり、

(一)次に云々以下は大供養會三十七尊の廣大供養を明す。

一切の主宰となり、亦た即ち僮僕たり。
此れ乃ち一切如來の三昧耶を以て、鉤召し引入し、縛し、調伏するなり。三昧耶の印を結び、已て能く修行の人をして、諸の三摩地佛性海の中に入れ、適悅し安樂し、斯れに由て供養せしむ。

(一)次に、五如來の供養の法に入れ、即ち毘盧遮那佛の觀に入て、遍照尊如來の印を結べ、觀門せば即ち身心淸淨にして菩提を圓滿して法界に廓周す。

次に、金剛薩埵三摩地印に入り、菩提心を堅固にせよ。

次に、虛空藏菩薩の大寶印に入り、一切衆生の所願滿足して匱乏する所なきことを獲得せよ。

次に、蓮華三昧耶觀自在菩薩印に入れ、此の淸淨にして染着なきに由るが故に、一切の殊勝微妙の法を獲。

次に、羯磨大菩薩三摩地に入り、能く一切如來事業衆生事業を成じ、おらゆる修持成就せずと云ふことなし。此れ乃ち毘盧遮那及び四大菩薩即ち五如來に同なり。

次に、當に十六大菩薩の供養を修行すべし、是れ諸の大菩薩供養のための故に、各々

器械の印を持して、身の上の諸の支分の間に布在し、能く如來のために大佛事を作す、初め金剛薩埵、五智金剛杵の印を持し、以て堅固勇猛菩提心を表す。

次に金剛王菩薩、金剛雙鉤の印を持し、四攝法を行じ、一切如來及び一切有情を召するに雲集せずと云ふことなし、之を右脇に置き以て標幟となす。

次に、金剛愛菩薩の弓箭の印を結び、能く一切有情を愛念して、又た能く二乘の見執の心を射せしむ、之を左脇に置き、用て一切の色相染着する所なし。

次に(一)娑度大菩薩の歡喜の印を結び、一切如來及び諸の聖衆みな善哉して彈指し、讃歎して隨喜したまふ、之を腰の後に置き以て善哉を表はす。

已上金剛部の四大供養なり。

次に、當に虛空藏大菩薩の大寶印を結ぶべし、能く一切有情の所求を滿じてみな得せしむ。之を額に置き、種種の寶を雨らし、また摩尼寶髀を持し、一切如來のために灌頂す。

次に、當に金剛威光大菩薩の印を結ぶべし。

威光赫奕として能く千日を蔽ひ、金剛の日を持して、面前に旋轉すること日輪を轉んずるが如し。

(一) 娑度云 喜菩薩のこと。

次に、金剛幢菩薩の印を結べ、如意寶幢のごとく、能く一切有情の求願を滿じて滿足せしむ、之を置て直く上ぐること寶幢の由若くせよ。

次に、金剛笑菩薩の印を結べ、能く一切の賢聖諸佛の海會及び天仙等をして歡喜せずと云ふことなからしむ。之を口の已上に置き、以て大喜笑を表はす。

已上寶部の四供養菩薩なり。

次に、當に蓮華部三摩地に入るべし、此の觀自在菩薩の觀に住するに由て、能く有情をして法に於て無礙にして染汚するところなからしむ、即ち蓮華の印を持して、口中に安在し、清淨の法音の演べ化するところなり。

次に、當に文殊室利菩薩智慧の觀に入るべし。當に有情をして正法を辨明し、智慧の劒を持して、能く邪山を破し、二乘の見執の心を絶して、法の空●無相●無願解脫門に住せしむべし、右の耳輪の邊に安んじ、以て止住を爲す。

次に、當に法輪淸淨觀に入て、能く無上の法輪を轉んずべし、三たび法輪を(一)大千に轉んじて、廣く有情を度し、即ち金剛因菩薩金剛輪器杖を持して、左の耳に安在して以て標幟となす。

(一) 大千 三千大千世界のこと。

次に、當に無言三昧耶に入り、一切の萬法みな言語を離るべし。言語の性空にして本來常寂なり、また所說なし、即ち金剛語菩薩、金剛舌を持して、即ち頂後に安在して、以て無言を表はす。

已上四親近菩薩は法部なり。

次に、業部の十七供養をせよ、即ち金剛喜戲菩薩能く有情をして適悅歡喜せしめたまふ、三鈷の杵を持して頂上に安んじ、一切如來の事業を成就し、衆生の事業悉くみな成就す。

次に、當に金剛鬘印を以て莊嚴の事業をなすべし、衆寶所成の羂索の寶鬘を以て、嚴飾をなし、此の印を額の上に安せよ。

次に、金剛歌菩薩、能く如來の六十四種の梵音歌讃吟詠を成じ、みな殊勝を成ず。箜篌の印を持して、右の肩に置在すれば、出づる所の言音みな妙法を成ず。

次に、金剛舞菩薩、神通自在にして、十方に變化す、舉動施爲佛事にあらざることなし、この四菩薩は、北方の四親近の大菩薩にして(一)業部の管るところなり。

次に、外供養菩薩の印を結び、即ち金剛焚香●及び金剛華●金剛燈乃至塗香菩薩等なり。

(一)業部　羯磨部なり。

り、以て十七の雜供養となす、金剛寶の印を以て供養すれば、能く有情をして所求の願を滿ぜしむ。金剛妓樂歌讃諷誦簫瑟箜篌微妙の法音を以て、以て供養をなす。

次に、劫樹の印を結び、能く諸の有情をして、能く殊勝の願を滿ぜしむ。百千の珍寶玩弄の諸物●名衣●上服凡て所須あらば、此の樹間に於てみな滿足することを得、乏少あることなし。

次に、羯磨三昧耶の印を結び、當に思惟を作すべし。虛空の中に於てあらゆる一切の諸の如來に、我れみな承事し供養す、一一の佛の前へに想へ、此の身有て瞻禮し供養すと。

次に、應に達磨三昧耶の印に入るべし。當に思惟を作すべし、我れ今此の身と諸佛菩薩の身と等し、法の實性を觀ずるに差別あることなく、更に異相なし、即ち一切如來の身に同ず。

已上三摩地法を修行す。

次に、六波羅蜜の法を行じて、有情を度し、四無量心●弘誓願●發菩提心に於て即ち當に證悟すべし。

次に、六波羅蜜の觀行に入れ。檀波羅蜜をば、是れ寶部となす。このゆえに亦た無住の檀施に由て、等虛空界の一切有情の所求の者を意に隨て願を滿んじ、みな之に施與す。復た生死の中に於て、衆生を愍念し、救護の爲めの故に、悉く滿足せしむ。亦た能く菩提心を護し、未度の者をば度せしめ、未安の者をば安んせしめ、亦たよく種々の珍寶を雨して、廣く有情に施して、圓滿し富樂し、豐饒ならしめて解脫を得せしむ。戒波羅蜜とは三聚淨戒なり。一には攝律儀戒、二には攝善法戒、三には攝衆生戒なり、亦は饒益有情戒と云ふ。一切の戒行はみな攝律儀戒の管る所なり。持戒に由るが故に、身口意淸淨の果報を獲得す。これ即ち毘盧遮那如來の滿法界身如如の體に同なり、亦た斷德と云ふ。攝善法戒とは、一切の善法みな此の戒に屬す、亦た智德と云ふ。即ち是れ毘盧遮那如來の圓滿報身なり、色相莊嚴し、光明赫奕たり、須彌頂に據て諸の菩薩の爲めに(一)大乘經を說きたまふ是れなり。饒益有情とは、即ち是れ釋迦牟尼如來化身なり。如來此の世界に於て、有情を愍念して、變化身を作し、種種の方便を以て衆生を救度して彼岸に登らしめたまふに由て、即ち恩德と名く。此の三德の義に由て總じて之を言はゝ、戒波羅蜜の攝化するところなり。

(一) 大乘經　顯密の教を說きし經典のこと。

忍波羅蜜とは、五義あり。一には伏忍●二には信忍●三には順忍●四には無生忍●五には寂滅忍なり。伏忍をば東方に配し、信忍をば南方に配し、順忍をば西方に配し、無生忍をば北方に屬し、寂滅忍をば中央に配し、此の五方即ち五如來なり。地前三賢伏忍なり。且らく初地二地三地をば信忍に配し、四地五地六地をば順忍に配し、七地八地九地をば無生忍に配在し、十地をば滿足に、等妙覺をば寂滅忍に配す。忍波羅蜜を持するに由るが故に、所生の處に端正の果報ありて眷屬圍繞することを得せしむ。功德廣大にして無量無邊なり、窮盡すべからず。之を見聞する者悉くみな歡喜し恭敬し隨順し、喜悅して心に從ふ、これ即ち忍波羅蜜の行相なり。

精進波羅蜜とは、若し人修行すれども、精進して苦行を勤行すること能はざれば、解脫を求むるに至て、魔即ち便りを得て、(一)泥犂生死海中に墮在す。(二)六道に巡環して出ることを得るに由なし。このゆえに須らく精進の鎧甲を被て、懈怠の魔を摧き、萬行精修して悉くみな成就すべし。威德自在なること日輪のごとく、三千の(三)威儀、八萬の細行みな此の戒を持するに由れり、精進波羅蜜の行相なり。

禪波羅蜜とは、凡そ人の修行するに、心多く散亂して計屬を爲し、即ち六種の散動を

(一) 泥犂　地獄。
(二) 六道　地獄●餓鬼●畜生●修羅●人●天の六界のこと。
(三) 威儀　動作のこと。

備ふ。身心を繩繞し、念安からずんば解脱することを得ず、所以へに須らく心を一境に住せしめて更に異縁を縁せざるべし。四種の禪法の中に於て、如來清淨禪の中に住して、妄想を除かんと求め、須らく無住の住に住し、常に離念の心に依り、實相圓明にして法界に廓周し、大菩提の路此れに由て致すべし、此れ禪波羅蜜なり。

智慧波羅蜜とは、智は能く了別し、慧は乃ち辨明す。明鏡の能く衆色を鑒るが由如くして、大小乘の法に於て差謬あことなし。その我執の二相を除て、大乘の心に住し、菩提を圓滿し、眞如際を證す。即ちこれ如來平等の法身なり。修行者は、六波羅蜜の印を結び、六波羅蜜の眞言を誦し、六波羅蜜の觀門に住すれば、即ち一切如來の解脱如如の智に同ず。此の六種方便に由て、即ち(一)三空解脱門に入る。いはゆる空●無相●無願解脱門なり。一切の萬法擧體皆な空なれば、一事として眞にあらざることなし、一物として實にあらざることなし、眞空妙有にして實相圓明なり。即ち(二)愚嘔耶の眞言を誦せよ、即ち是れ毘盧遮那如來の正體圓智なり。この勝上の義に由て、轉じて便はち如來口の印を結で三密門觀に住して、三秘密の眞言を誦すれば、一切有情解脱せさることなし、所出の法要を衆生に廻施し、見聞覺知悉く三界を超ゆ。四大印を結び、四種の眞言

(一) 三空解脱門　勝上三摩地印なり即ち金剛定印のこと。
(二) 愚嘔耶　秘密と云ふ。

を誦し、百字の明を誦し、三摩地の心に住して、珠を持して念誦せよ。持念すること畢已はんなば、種々の讃歎を誦し、種々の名華を獻じて、百字の眞言を誦し、即ち塵刹佛海に入て、運心して廣大にせよ。供養法事、既に畢はんなば、則ち前に羯磨の三十七尊印より、後ちに便ち三昧の契及び十六大供養乃至十七の雜供養を結べ、已て後、閼伽を獻じて廻向發願し、然して即ち三昧耶に入れ、心三摩地觀門に住して念誦し、即ち經行して念を息め、大乘華嚴楞伽等の經を轉讀し、佛道を思惟せよ。(一)國師大三藏和上含暉院承明殿の大道場に於て頃ろ餘暇に因て、梵經を披讀し、忻然として顏を熙しめ法樂虛適す。大慈の戸を開て、諸の童朦を誘ひ良縁を啓いて知見せしむ。我が秘敎は浩汗にして涯りなく、法體幽微にして實に際を窮め難し、今且らく瑜伽の敎跡に依て、略ぼ指南をなす。眞言の門爰に理趣を開けり。

今說く能觀は毘盧遮那佛報身これなり、所觀は四智の如來なり。能觀はこれ四方の如來、所觀はこれ(二)境なり。八供養及び(三)四大護菩薩等各々能所を具す。能所を具すと雖も、能所の體本と空なり。空有の理本となければ、中道の心斯に契ふ。今此に金剛界の三十七尊大曼荼羅及び賢劫の千佛、

(一) 國師大三藏　不空三藏を指す以下は記者の詞なり
(二) 境　觀の對象たる客觀的事物のこと。
(三) 四大護　四攝の菩薩のこと。

外金剛部の二十天及び四十天等を建立す。これを初原となして、展轉して無量の曼荼羅を相生す。

今また降三世忿怒曼荼羅會の三十七尊調伏法則を建立せん。文殊乃至諸天外、金剛部稍諸の法に異れり。且らく修證に依て、略ぼ指陳を述べん。三味耶心に於て出入無礙にして精しく理智を修し、菩提心に住し、(一)舒展すること涯りなく、法界に廓周して聚を成じ即ち(二)金剛光明峰内に入れ、虛空を出づるごとく虛空に遍滿し、微塵海會の如來咸く來て同じく證したまふ、また心印を傳へ、微細の觀門を指示す、金剛の一乘を以て心要となす。

また護摩の法を說かん、益を獲ること窮りなし、凡そ施爲するところ、須らく師に依て受くべし。爐の數壇所爲不同なり、蘇蜜●柴●薪俱に妙用を申ぶ、香藥●飲食を供養するが如くに至ては、息災と調伏とのごとき法則また別なり。眞言の加句道場に引入する法事みな本部に依てまたその撥を同うせず、今此に啓繫せば衆疑を斷せしむ、此れに依て修行せば必ず差謬なけん、即ち經に依て廣說せんと欲はゞ、義密にして申べ難し、諸餘の軌儀備さに經の內に在り、且らく、金剛界の三十七尊に約して、要門を修集し

(一) 舒展云々　月輪觀に住すること。
(二) 金剛光明峰內云々　五股の印にして今は降三世の印とするなり。

輪環鉤帶して而も敷演す。弟子等、既に法施を蒙て喜躍ます〳〵深し、虔恭して一心に佇立して聽き口の依に鈔寫して私かに記す。

次に空●無相●無願解脫門に入るとは、いはゆる空とは一切の法みな空なり。空の體も亦空なれば、空も亦た不可得なり。無相とは地●水●火●風●男●女等の相幷に青●黃●赤●白なり。此の十相に於て一切の萬法、體を擧げて皆な空なり。以て一切の相空にして不可得なりとなす。無願とは、凡そ所修の道は三界の希望の心を絕せり。願求する所あるはみなこれ有相なり、永く妄想を絕し、願求する所の心を斷つ、願もなく、求もなき、是れ眞の解脫なり。この三相空なるに由るが故に、即ち解脫の法門に入て、この正理を悟る。即ち身に光明有て法界に廓周し、即ち毘盧遮那の正體智に同ず。みな悉皿耶の眞言を誦するに由る、この密印を結で即ち三密觀解脫門に入り、一境一心にせよ、即ち當に證悟すべし。次に、三秘密口印、此の三密に由て、(一)三業淸淨なり。この身法界に滿ち、微塵盡くこれ一切諸佛なり。一一の佛の前に於てみな自身あり、諸佛の足下に於て、禮拜し承事し供養し懺悔し發願すと觀ぜよ。

(二)四大印とは初は金剛薩埵なり。想へ(三)五智の杵、常に菩提心月輪の上に在り、その

(一) 三業　身口意の三作用のこと。
(二) 四大印　四印會のこと。
(三) 五智の杵　五智の金剛杵のこと

杵無量の光明を發して、即ち菩提心智を成ず。

第二は寶印なり。即ち虛空藏菩薩金剛福德の聚、珍寶無窮なり。また能く一切如來に灌頂して衆生の願を滿ず。

次に、觀自在菩薩なり。この印に由るが故に、能く法界をして淸淨ならしむ、無言の觀門に入て、舌の上へに於て五智金剛を觀んせよ。光明赫奕として說法無礙なり、即ち勝義の菩提印に入る。

第四羯磨印とは、羯磨金剛杵を想へ、此の杵の印を結で、月輪に於て、心上に旋轉せよ。法界に滿る輪なり。諸有の所願みな滿足することを得、承事供養して闕乏する所なし、復た自身諸佛に同じ、一切供養して願を滿せずといふことなし。即ち虛空庫菩薩の同事する所なり。

已上六段親しく阿闍梨の所に於て決擇す。

國譯金剛頂瑜伽畧述三十七尊心要 終

乾十、縮藏閏二、續藏二十七套一。

(一) 毘盧遮那佛 大日如來のこと。

(二) 三密門 身口意の三密の法門のこと。

(三) 金剛一乘 眞言密敎のこと。

(四) 灌頂 密敎の大法を繼承するために行ふ嚴肅の儀式にして密敎最極の秘法なり。

(五) 諸使 諸種の煩惱のこと。

國譯金剛頂經瑜伽修習毘盧遮那三摩地法

唐南天竺國三藏金剛智 譯す

(一)毗盧遮那佛、身口意業の虛空に徧きと、

如來(二)三密門を演說せる、(三)金剛一乘甚深の敎とを歸命したてまつる。

我れ瑜伽最勝法に依て、如實修行の處を開示せん。

衆生をして眞實を顯はし、頓に無上正覺を證せしめんがための故に。

弟子菩提心を堅固にし、師に從て已に(四)灌頂の位を受け、

妙に定慧を修して恒に觀察し、深く業用善巧門に入る、

諸の有情を勝菩提に導き、四攝の法を以て攝取せよ。

無猒の大悲未だ嘗て捨てざりしより、小善を行ずるを見て便ち稱美す。

無住の檀施は虛空に等しく、能く慧光を以て愚瞑を破る、

樂求する所あらば恒に逆はず、言を發して先づ笑ふて心喜ばしむ。

能く妙法無染の中に於て、善く般若を用て(五)諸使を斷じ、

(一) 四辯　四無礙辯のこと、別處に釋せり。

(二) 輪壇　灌頂を修するために設くる灌頂壇のこと。

(三) 閼伽　閼伽は梵語（Arghia）塗香・燒香・飯食・燈明等と共に修法の時本尊に供るふものなり、之を六種供養と稱す。

(四) 器世間　衆生の依住する國土のこと。

(五) 運心　心内に觀念を凝らすこと。

(六) 吽字云々　三密觀を明す處。

(七) 金剛起　佛の金剛定より起たしむる警覺法なり。

(八) 檀慧　左手の小指を檀（波羅蜜）右手の小指を慧（波羅蜜）に配當す。

無上の法輪恒に退せず、(一)四辯を以て演說するに畏るゝ所なからん、
諸佛は衆生の事業の中に於て、恒に大誓慈の甲冑を被、
魔羅の勝軍衆を摧敗して、堅く諸佛の秘する所の門を持す。
斯の如くの衆德を具することあらば、方に印可して傳授をなすに堪ふ。
先佛聖仙の所遊の處、種種の勝地或は山間、
精室を建立して(二)輪壇を布き、香泥を以て塗拭して尊位を爲り、
燈明(三)閼伽みな布列し、妙華を地に散じて以て莊嚴し、
衆生と(四)器世間とをして、純一淨妙にして佛土となし、
此の自他淸淨句を以て、理に應じて思惟して密かに稱誦せよ。
眞言にいはく、
唵、薩嚩婆嚩、戊陀、薩婆、達摩、薩嚩婆嚩戊度舍。
次に(五)運心して法界に徧じ、塵刹佛海虛空に滿ぜしむべし。
(六)吽字の種子を以て三業に加へ、(七)金剛起を結びて徧ねく警覺し、
(八)檀慧鉤結して金剛拳にし、進力二度合せて三たび擧げよ。

(一) 禪智　左手の大指を禪（波羅蜜）右手の大指を智（波羅蜜）に配當す

(二) 阿閦佛　四佛の一、東方を司る尊

(三) 金剛合掌　十二合掌の一、十指の頭を相交叉すること。

眞言にいはく、
唵、麼折囉底瑟姹。
この眞語と印との加持に由て、諸佛寂靜の樂を貪らんとしたまはず、
悉く定より起て集會に赴き、行人を觀察して同じく攝受す、
次に金剛持大印を結びて、一一如來足を禮すと想へ、
(一)禪慧檀智反相叉し、右の膝地に著けて頂上に置け。
眞言にいはく、
唵、麼折囉勿。
纔かに金剛持印を結び已んなば、一切の正覺みな隨順したまふ、
即ち十方諸佛の前に於て、禮事供養することみな圓滿す。
諸の如來に承事したてまつらんと欲ふがために、
身を捨てゝ(二)阿閦佛を奉獻したてまつる、
全身を地に委けて心を以て禮し、(三)金剛合掌を頂上に舒べよ。
眞言にいはく、

(一) 寶生尊　四佛の一、南方を司る寶生如來のこと。

(二) 無量壽佛　四佛の一、西方を司る阿彌陀佛のこと。

唵、薩婆怛他孽多、布儒、波薩他娜野、阿怛麽南、涅哩夜多夜弭薩婆怛他孽多麽折羅薩怛
嚩阿地瑟姹、薩嚩鉗。

この眞言身印に由るが故に、即ち菩提心を圓滿することを得、
次に(一)寶生尊を敬禮すべし。灌頂供養を奉せんがための故に、
金剛合掌して下心に當て、額を以て地に著けて奉獻をなせ。

眞言にいはく、
唵、薩婆怛他蘖多、布惹、毗嚩迦耶、怛麽南、涅哩夜多夜弭、薩婆怛他蘖多、麽折羅嚩怛那
毘詵遮鉗。

この身を獻じて妙に請じたてまつるに由るが故に、久しからずして當に三界の主と
なるべし。
轉法輪を供養求めんがために、次に應に(二)無量壽を敬禮すべし。
金剛合掌して頂上に置き、口を以て地に著けてその身を奉れ。

眞言にいはく、
唵、薩婆怛他蘖多、布惹、鉢嚩鞅嚩多那夜、怛麽南、涅哩夜多夜弭、薩婆怛他蘖多麽折嚩

(一) 不空尊　四佛の一、北方を司る不空成就釋迦如來のこと。

(二) 佛海　佛の集會のこと。

(三) 諸有　衆生の生死の苦果をいふ

達摩鉢嚩鞅嚩多夜鉗。

この身を獻ぜる誠請に由るが故に、當に救世轉法輪に同ずべし。
また當に(一)不空尊を敬禮すべし、羯磨を供養求めんがための故に、
金剛合掌を心の上に當て、頂を用て地に著けて奉獻せよ。

眞言にいはく、
唵、薩婆怛他蘖多、布惹羯磨抳、阿怛麽南、涅哩夜多夜弭薩婆怛他蘖多、麽折羅羯麽
句嚩鉗。

この獻身方便に由るが故に、便ち能く種々の身を示現す、
次に己身を以て(二)佛海の前にして、合掌跏跪して諸の咎を懺せよ、
無始より(三)諸有の中に輪廻して、身口意業より生ずる所の罪を、
佛菩薩の懺悔したまふ所の如く、我れ今も陳懺することもまた是のごとし、
又た應に深く歡喜心を發して、一切福智聚を隨喜すべし、
諸佛と菩薩との行願の中の、金剛の三業より生ずるところの福と、
緣覺と聲聞と及び有情との、集むる所の善根を盡く隨喜す、

また諸佛(一)道樹に坐したまふと觀じて、己身各々法輪を轉じたまへと請じたてまつる、

一切世燈の道場に坐して、覺眼開敷して(二)三有を照したまふをば、
我れ今まま跏跪して先づ、無上の妙法輪を轉じたまへと(三)勸請したてまつる、
またみな諸の世尊、涅槃したまはずして恒に世に住したまへと勸請したてまつる、
あらゆる如來三界主、般無餘涅槃するに臨みては、
我れ皆恒に久しく住して、悲願を捨てず世間を救ひたまへと勸請したてまつる、
懺悔し隨喜し勸請したてまつる福を以て、願はくは我れ菩提心を失せず、
諸佛と菩薩との妙衆の中に於て、常に善友と爲て猒捨せられず、
(四)八難を離れて無難に生じ、宿命住智あつて相を以て身を嚴り、
愚迷を遠離して悲智を具し、悉く能く波羅蜜を滿足し、
富樂豐饒にして四勝族に生じ、眷屬廣多にして恒に熾盛ならん、
四無礙辯と(五)十自在と、六通と諸禪と悉く圓滿せん、
金剛幢と及び普賢との如く、願讃し廻向することもまたこの如し、

(一) 道樹　佛の成道せし處の菩提樹
(二) 三有　欲界・色界・無色界のこと。
(三) 勸請　諸佛を召し招くこと。
(四) 八難　難とは佛を見正法を聞くことを得ざるの義にして、八種あり。一在地獄の難、二在畜生の難、三在餓鬼の難、四在長壽天の難、五在北鬱單越洲の難、六盲聾瘖瘂の難、七世智辯聰の難、八生佛前佛後の難。
(五) 十自在　佛菩薩が衆生を救濟するために用ふる十種の自在力、一心自在、二命自在、三資具自在、四業自在、五受生自在、六解自在、七願自在、八神力自在、九法自在、十智自在。

行者次に三摩地を修し、跏坐し身を端しくして正受に入り、
(一)四無量心を以て法界を盡くし、修習運用すること法敎の如し、
即ち(二)普賢三昧耶に入れ、體薩埵金剛に同なるが故に、
定慧和合して金剛縛にして、(三)忍・願の二度建てゝ幢の如くせよ、
縱かに本誓の印眞言を誦すれば、自ら月輪に處して薩埵に同ぜん。

眞言にいはく、
唵、三摩耶、薩怛梵。

次に(四)極喜三昧の印を結び、この悅樂を以て諸聖に契せよ、
忍願滿月掌に入れ、禪智檀慧俱に申べ立てよ。

眞言にいはく、
唵、三摩耶斛蘇囉多薩怛梵。

この妙印及び眞言に由て、一切聖衆みな歡喜す。
次に當に心を開て佛智に入るべし、怛囉吒の字を乳の上に想へ、
金剛縛を掣して心前に當て、二字樞を轉じて扇を啓くが如くせよ。

(一) 四無量心　慈・悲・喜・捨の四無量心のこと。
(二) 普賢三昧耶　普賢菩薩の三昧耶此の菩薩と金剛薩埵とに、理智の異りあるのみ。
(三) 忍願　左手の中指を忍(波羅蜜)右手の中指を願(波羅蜜)に配當す
(四) 極喜三昧印　佛と衆生とが悅樂の境に入るために結ぶ印なり。

眞言にいはく、
唵、麽折囉滿馱怛囉吒。
八葉白蓮一肘の間、阿字素光の色を炳現す、
禪智俱に金剛縛に入れて、如來寂靜智を召入す。
眞言にいはく、
唵、麽折囉微舍惡。
次に如來堅固拳を結べ、進力屈して禪智の背を柱へ、
この妙印相應するを以ての故に、即ち諸佛智を堅持することを得。
眞言にいはく、
唵、麽折囉、母瑟知、鑰。
次に威怒降三世を以て、內外所生の障を淨除す、
二羽臂を交へ金剛拳にして、檀慧相鉤して進力を堅て、
行者想へ身に威焰を發し、八臂四面利牙を堅て、
震吼せる吽字は雷音の如く、頂上右に旋て結界を成せ。

(一) 等引　定七名の一梵語三摩呬多(samahita)三平等の觀に住して心を平等ならしめて一切の功德を我が身中に引生せしむること。
(二) 阿娑頗那伽三昧(Ashhanaka)　身心の散亂を息めて無我無心の定に入る。
(三) 隨煩惱　根本煩惱に附隨して起る十種の枝末煩惱のこと。
(四) 犍闥婆城　蜃氣樓のこと。

眞言にいはく、
唵、遜婆、儞遜婆吽、乞里曇拏乞里曇拏、吽、乞里曇拏阿播邪吽、阿難耶斛、薄伽梵、麽折囉吽發吒。
次に蓮花三昧耶を結べ、三摩地を成就せしめんがために、
定慧二羽金剛縛、檀慧禪智和合して堅てよ、
この眞言密印に由るが故に、三昧を修行して速に現前す。
眞言にいはく、
唵、麽折囉鉢娜麽、三昧耶薩怛梵。
行者金剛定に入らんと欲はゞ、先づ妙觀察智の印に住せよ、
定慧二羽仰ぎて相叉し、進禪力智各相ひ拄へ、
この妙印を以て(一)等引を修せば、即ち如來不動の智を得。
行者次に應に(二)阿娑頗那伽三昧を修すべし。端身正座して、身動搖すること勿れ、舌上腭を拄へて、出入の息を止め、それをして微細ならしめ、諦らかに諸法を觀ずるにみな自心に由る、一切の煩惱及び(三)隨煩惱●蘊●界●入等はみな幻と焰と(四)犍闥婆城との